富 山 県 文 化 振 興 財 団
埋蔵文化財発掘調査報告第77集

# 水橋池田舘遺跡
# 水橋池田舘Ⅱ遺跡　発掘調査報告
# 水橋中村遺跡

― 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う
埋蔵文化財発掘報告 ―

2020年

公益財団法人　富山県文化振興財団
埋　蔵　文　化　財　調　査　課

# 水橋池田舘遺跡
# 水橋池田舘Ⅱ遺跡　発掘調査報告
# 水橋中村遺跡

― 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う
埋蔵文化財発掘報告 ―

2020年

公益財団法人　富山県文化振興財団
埋　蔵　文　化　財　調　査　課

# 序

本書は、県営農地整備事業に先立ち、平成30年度、令和元年度に実施した水橋池田舘遺跡、水橋池田舘Ⅱ遺跡、水橋中村遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

これらの遺跡は、富山市街地の東、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、白岩川の堤防越しに立山連峰の雄大なパノラマを望むことができる田園地帯にあります。

水橋池田舘遺跡は、二つの川の洪水氾濫原に点在する微高地上に立地し、中世末から近世にかけての二重に巡る堀をもつ方形居館や井戸、土坑がみつかるなど、貴重な発見となりました。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録に現れることのない人々の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

令和２年３月

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 課

# 例　　言

1　本書は富山市水橋池田町地内に所在する水橋池田舘遺跡、同水橋池田舘地内に所在する水橋池田舘Ⅱ遺跡、同水橋中村地内に所在する水橋中村遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は富山県からの委託を受け、公益財団法人富山県文化振興財団が行った。

本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。

調査期間　　平成30（2018）年８月６日～11月２日

　　令和元（2019）年10月１日～10月24日

整理期間　　令和元（2019）年11月１日～令和２（2020）年３月27日

3　調査に関する全ての資料、出土遺物は、本書刊行後、富山県埋蔵文化財センターで保管する。

4　遺跡の略号は市町村番号に遺跡名を続け、水橋池田舘遺跡を「01ＭＩ」、水橋池田舘Ⅱ遺跡を「01ＭＩ２」、水橋中村遺跡を「01ＭＮＫ」とし、遺物の注記には略号を用いた。

5　本書の編集・執筆は金三津道子が担当した。石材については下仁田町自然史館長・明治大学黒耀石研究センター客員教授中村由克氏のご教授を得た。自然科学分析については専門機関に委託し、その成果を収録した。

6　本書で使用している遺構の略号は以下のとおりである。

ＳＤ：溝、ＳＥ：井戸、ＳＫ：土坑、ＳＰ：柱穴、ＳＸ：その他

7　遺構番号は遺構の種類に関わらず連番とした。

8　本書で示す方位は全て真北、標高は海抜高である。

9　挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。

遺構　溝・井戸・土坑・柱穴：１/40

遺物　土器・陶磁器：１/３、土製品・石製品：１/３、木製品：１/３、１/４、金属製品：１/１

10　土層及び遺構埋土、土器胎土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。

11　遺物は種類に関わらず連番を付し、本文・挿図・一覧表・写真図版中の遺物番号は全て一致する。

12　本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。

①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、切り合い欄に新＞古のように記号で示す。

②遺構の規模の（　）内は現存長を表す。

③土器法量の（　）内は復元長を表す。残存部が少なく、計測不能なものは空欄とした。

④石製品法量の（　）内は現存長を表す。

⑤重量はｇ単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。

13　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表します。（敬称略、五十音順）

水橋三郷土地改良区、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター、富山市埋蔵文化財センター

# 目　　次


## 第Ⅰ章　調査の経過……1

1　調査に至る経緯……1
2　発掘作業の経過と方法……2
3　整理作業の経過と方法……4

## 第Ⅱ章　位置と環境……5

1　地理的環境……5
2　歴史的環境……5

## 第Ⅲ章　水橋池田舘遺跡……9

1　概　要……9
2　層　序……9
3　遺　構……9
4　遺　物……18
5　自然科学分析……22
6　総　括……25

## 第Ⅳ章　水橋池田舘Ⅱ遺跡……68

1　概　要……68
2　層　序……68

## 第Ⅴ章　水橋中村遺跡……73

1　概　要……73
2　層　序……73

## 報告書抄録

# 挿図目次


第１図　調査遺跡位置図
第２図　調査位置図
第３図　地形と周辺遺跡
第４図　水橋池田舘遺跡　調査地区位置図
第５～14図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図
第15図　水橋池田舘遺跡　遺構全体図
第16～23図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図
第24図　水橋池田舘遺跡　復元図
第25～33図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図
第34・35図　水橋池田舘Ⅱ遺跡　遺構実測図
第36図　水橋池田舘Ⅱ遺跡　遺構実測図・調査地区位置図
第37図　水橋中村遺跡　遺構実測図・調査地区位置図


# 表目次


第１表　既往の調査一覧
第２表　調査一覧
第３表　調査・整理体制
第４表　周辺遺跡一覧
第５表　水橋池田舘遺跡　基本層序
第６表　水橋池田舘遺跡　出土木製品の樹種同定結果
第７表　水橋池田舘遺跡　出土木製品の樹種同定結果一覧
第８表　水橋池田舘遺跡　遺物組成一覧
第９表　水橋池田舘遺跡　調査地区一覧
第10表　水橋池田舘遺跡　土坑一覧
第11表　水橋池田舘遺跡　井戸一覧
第12表　水橋池田舘遺跡　溝一覧
第13表　水橋池田舘遺跡　土器･陶磁器一覧
第14表　水橋池田舘遺跡　木製品一覧
第15表　水橋池田舘遺跡　石製品一覧
第16表　水橋池田舘遺跡　金属製品一覧
第17表　水橋池田舘Ⅱ遺跡　基本層序
第18表　水橋池田舘Ⅱ遺跡　調査地区一覧
第19表　水橋中村遺跡　基本層序
第20表　水橋中村遺跡　調査地区一覧


# 写真図版目次

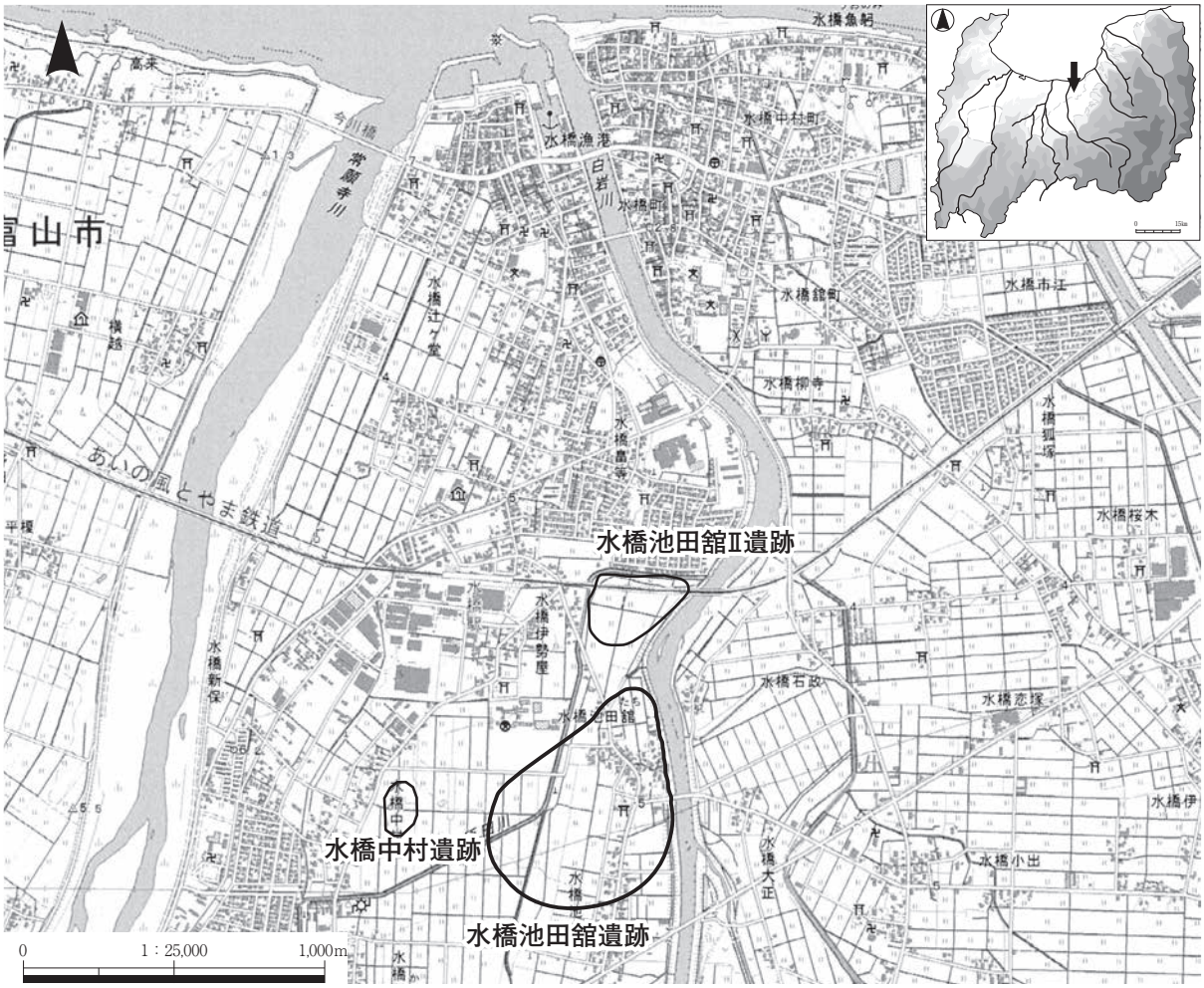

図版１　航空写真（1946・2007年撮影）
図版２～８　水橋池田舘遺跡
図版９～14　水橋池田舘遺跡　出土遺物
図版15　水橋池田舘Ⅱ遺跡
図版16　水橋中村遺跡

# 第Ⅰ章　調査の経過

## 1　調査に至る経緯

### （1）調査の契機

県営農地整備事業が計画された富山市水橋三郷北地区周辺では、複数の埋蔵文化財包蔵地が周知されており、平成29(2017)年10月、富山県教育委員会（以下、県教委）が試掘調査を実施した。その結果を受け、平成23(2011)年11月の富山県教育委員会通知「埋蔵文化財の発掘調査における対応方針」に基づき、県営農地整備事業水橋三郷北地区における水橋池田舘遺跡、水橋池田舘Ⅱ遺跡、水橋中村遺跡の本発掘調査を、富山県農林水産部（以下、富山県）から公益財団法人富山県文化振興財団（以下、財団）が受託することとなった。平成30(2018)年度から２カ年にわたり、県教委により保護措置が必要と判断された水路および農道工事部分について本発掘調査を実施した。平成30年度は水橋池田舘遺跡の一部1470.6㎡、令和元(2019)年度は、水橋池田舘遺跡98.7㎡、水橋池田舘Ⅱ遺跡144.6㎡、水橋中村遺跡50.6㎡の３遺跡293.9㎡の本発掘調査を実施している。




**第１図　調査遺跡位置図**（1/25,000）

### （2）既往の調査

水橋池田舘遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部300,000㎡に広がる古墳時代～中世の遺跡である。常願寺川右岸、白岩川流域には多くの埋蔵文化財包蔵地があり、水橋池田舘遺跡もその中の一つとして周知されている。水橋三郷北地区における県営農地整備事業に先立ち、平成29(2017)年度に県教委による試掘調査が実施されている。遺跡東側の一部で遺構・遺物が確認され、13,306㎡について保護措置が必要と判断された。

**第１表　既往の調査一覧**

| 遺跡名 | 年度 | 調査主体 | 種類 | 調査対象面積 | 調査面積 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 水橋池田舘遺跡 | H29 | 富山県教育委員会 | 試掘 | 4.3ha | 373.1㎡ | 1 |

文献１：富山県埋蔵文化財センター　2019『富山県埋蔵文化財センター年報　平成29年度』

## 2　発掘作業の経過と方法

### （1）調査の経過と方法

調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16(2004)年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告)』に則って進めた。

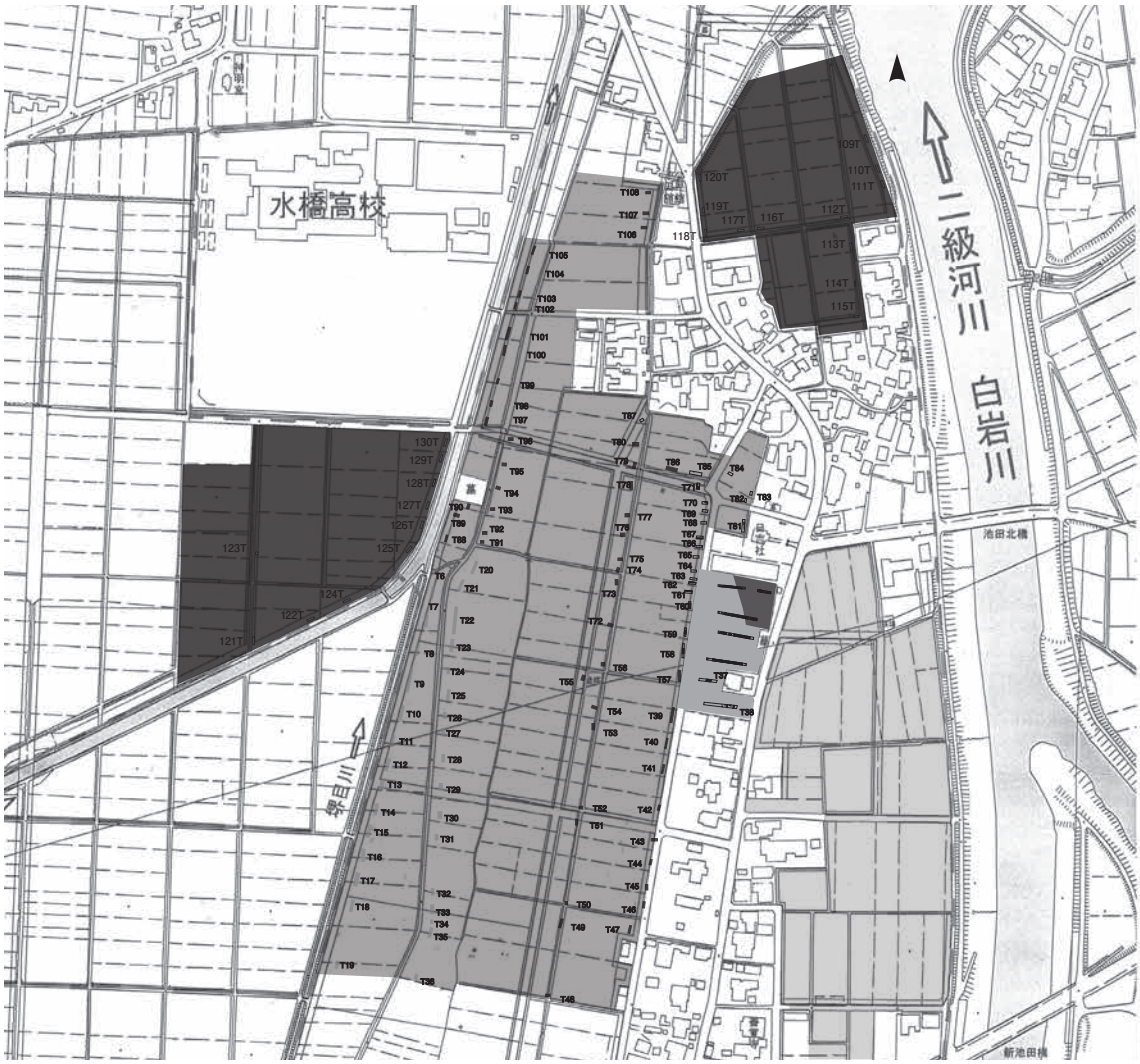
水橋池田舘遺跡の面調査地区については、調査地区の形に合わせた任意のグリッドを設定し、国土座標（世界測地系：平面直角座標系第７系）のＸ81721.152Ｙ12240.134をＸ０Ｙ０の基点とした。南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とし、グリッドは２ｍ方眼を基本とした。各グリッド名は北東角のＸ軸Ｙ軸の座標で呼称した。

試掘調査結果を基に、表土や盛土の除去は、調査員立ち会いのもと重機により行い、遺物包含層と遺構埋土はスコップや移植ゴテ等を用いて人力で掘削した。小規模な遺構については、半截し、大型の遺構については適宜アゼを設定して掘削し、埋土の状況を観察、記録した。

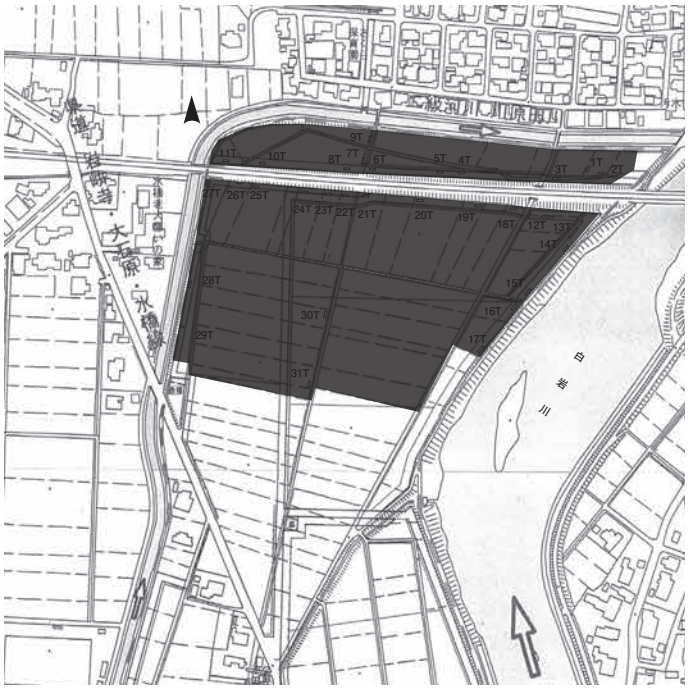
遺構の記録は、断面図を1/20の縮尺で実測し、遺構によっては1/10の縮尺で遺物出土状況図や平面図を作成した。各遺構の断面はデジタルカメラで撮影した。遺物出土状況や個別の遺構写真、ブロック写真はブローニー判（６×７）カメラを、調査地区全景写真については４×５判カメラをそれぞれ併用した。また、調査地区全域の遺構平面図作成は、外部に委託した。

**第２表　調査一覧**

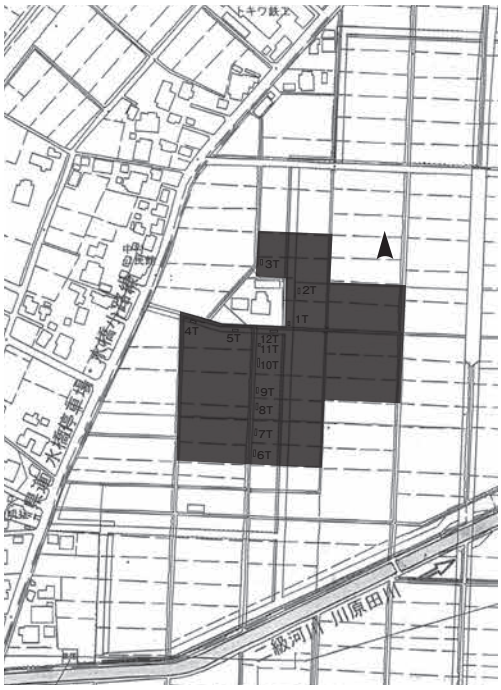
| 遺　跡 | 期　　間 | | 実働 | 調査対象面　積 | 調査面積 | 担当者 | 検出遺構 | 出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水橋池田舘遺跡 | 平成30年度 | ８月６日～８月21日 | ６日 | 13ha | 385.8㎡ | 金三津道子<br>町田　賢一 | 土坑･溝･旧河道 | 土師器･須恵器･青磁･越中瀬戸･近世陶磁器 |
| | | ９月18日～10月19日 | 19日 | | 800.0㎡ | | 井戸･柱穴･土坑･溝･堀 | 弥生土器･土師器･須恵器･中世土師器･珠洲･青磁･白磁･越中瀬戸･近世陶磁器･木製品･石製品･金属製品 |
| | | 10月22日～11月２日 | 8日 | | 284.8㎡ | | 土坑･溝･堀･旧河道 | 弥生土器･土師器･須恵器･近世陶磁器･木製品 |
| | 令和元年度 | 10月９日～10月18日 | 4.5日 | 5.1ha | 98.7㎡ | 金三津道子<br>青山　　晃 | | 越中瀬戸･近世陶磁器 |
| 水橋池田舘Ⅱ遺跡 | | 10月１日～10月９日 | 4.5日 | 5.7ha | 144.6㎡ | | 畝状遺構･旧河道 | 近世磁器 |
| 水橋中村遺跡 | | 10月21日～10月24日 | 3日 | 2.1ha | 50.6㎡ | | | |




水橋池田館遺跡




水橋池田館Ⅱ遺跡




水橋中村遺跡

平成29年度　調査（県埋文センター）　平成30年度　調査　平成30年度　面調査　令和元年度　調査

0　1：6,000　150m

**第２図　調査地区位置図**（1/6,000）

## ３　整理作業の経過と方法

出土遺物は、埋蔵文化財調査事務所において洗浄・注記・仕分けを行った。木製品・石製品・金属製品については整理台帳を作成した。調査概要については『埋蔵文化財年報』（平成30年度）として発刊しており、令和元年度の調査については令和２年６月刊行予定の『埋蔵文化財年報』（令和元年度）に掲載予定である。

報告書作成にむけての室内整理作業は、平成30年度に遺物実測、令和元年度に遺物写真撮影、遺構・遺物の挿図及び写真図版作成、自然科学分析、原稿執筆、編集及び印刷と校正を行った。遺物の接合・実測は調査員が行い、遺物実測図、遺構実測図、写真は各台帳を作成して整理し、パーソナルコンピューターを使用してデータ入力を行った。遺構・遺物のデータは観察表として掲載している。遺構・遺物の挿図作成は調査員が行い、一部を派遣オペレーターがデジタルデータ化して印刷原稿とした。遺物の写真撮影は４×５判カメラを用いて調査員が行った。自然科学分析は、専門機関に委託し、成果報告を掲載した。

**第３表　調査・整理体制**

| 実施年度 | 調査事業担当 | | |
|---|---|---|---|
| | 総　括 | 総　務 | 担　当 |
| 平成30年度（2018） | 課　長　島　田　美佐子 | 主　査　青　山　晃 | 主　査　金三津　道　子<br>町　田　賢　一 |
| 令和元年度（2019） | 課　長　島　田　美佐子 | 主　査　青　山　晃 | 主　査　金三津　道　子<br>青　山　晃 |

# 第Ⅱ章　位置と環境

## 1　地理的環境

水橋池田舘遺跡、水橋池田舘Ⅱ遺跡、水橋中村遺跡は、富山市街地の北東約10㎞の富山市水橋池田町・水橋池田舘・水橋中村地内に所在する。遺跡は、富山県のほぼ中央部を占める富山平野の東部を流れる常願寺川右岸に立地し、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置する。常願寺川により形成された扇状地下流の氾濫平野で、北方２㎞には日本海が広がる。常願寺川は、かつて東に屈曲し水橋伊勢屋、水橋池田舘付近で白岩川と合流し、河口までは水橋川と呼ばれていた。明治24(1891)年の大洪水を期に国から派遣された技術者ヨハネス・デ・レーケにより、白岩川と分離され、現在のようにまっすぐ日本海に流れる形に改修された。遺跡は、この改修前の河道蛇行部のすぐ南側、白岩川との合流点付近に位置する。水橋池田舘遺跡外の標高は４～６ｍを測り、常願寺川及び白岩川の間に点在する自然堤防上からその後背湿地にかけて広がる。

## 2　歴史的環境

水橋池田舘遺跡外が位置する常願寺川右岸地域では、常願寺川などの河川により形成された段丘・扇状地・平野に多くの遺跡が所在している。特に白岩川流域では濃密な分布がみられる。

旧石器～縄文時代中期までの遺跡は白岩川上流部、常願寺川右岸河岸段丘上に位置し、吉峰遺跡、白岩藪ノ上遺跡などがある。縄文時代後期～晩期には、中～下流域でも遺跡が確認される。水橋金広・中馬場遺跡では建物を伴った集落が形成され、石冠やヒスイ垂玉などが出土している。

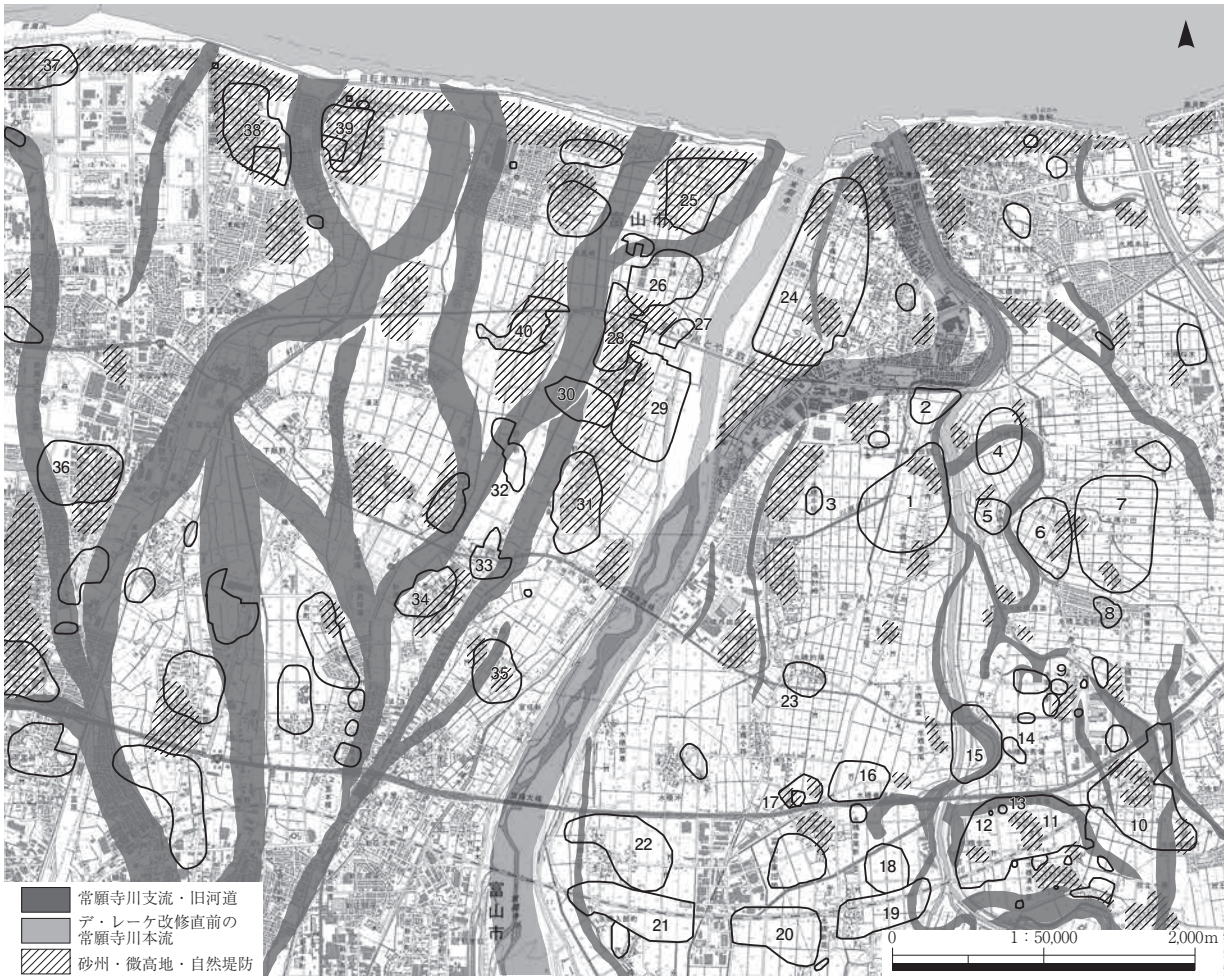
弥生時代の中～下流域では中期以降、遺構・遺物が確認されはじめ、後期～終末期にかけて多くの遺跡が展開する。新堀西遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡で、後期の集落を二重に囲う環濠とみられる溝や、終末期～古墳時代にかけての建物群などを持つ長期的な集落遺跡である。

古墳時代の白岩川流域では、前方後方墳の竹内天神堂古墳、円墳の稚子塚古墳・清水堂大塚古墳・若王子塚古墳、方墳の宮塚古墳など数多くの古墳が造営され、県内平野部では稀な古墳群を形成する。

古代では古代北陸道に設置された「水橋駅」の推定地とされる水橋荒町・辻ヶ堂遺跡が常願寺川河口付近に所在する。白岩川流域では、「里正」木簡が出土した辻遺跡、東大寺丈部荘や大藪荘の比定地が存在し、律令期の重要施設の存在が想定される。この他に遺跡周辺には、水橋二杉遺跡、水橋専光寺遺跡などの集落遺跡や、道路遺構が確認された水橋金広・中馬場遺跡などがある。

中世の常願寺川・白岩川流域では常願寺川左岸に日方江遺跡、大村遺跡、新庄城、常願寺川右岸、白岩川流域に小出城跡、仏生寺城跡、竹内館跡、鶯野城など多くの城館が分布する。これらの城館は街道沿いなどの交通の要衝に面し、戦国期には軍事上の拠点となっていた。

近世には、天正13(1585)年以降、明治まで加賀藩領となった。豊かな水資源を利用した水田耕作が営まれ、河川を利用した水運や漁撈活動も盛んに行われていた。また、白岩川上流の山地縁辺では古代末以降、須恵器生産が行われ、中世末～近世には越中瀬戸焼きの生産が盛行した。水橋金広・中馬場遺跡など白岩川流域の遺跡では、越中瀬戸焼きが高い割合で出土することから、陸路や白岩川の水運を利用して生産地から製品を運び、消費地へと供給されていたものと想定されている。




**第３図　地形と周辺遺跡**（1/50,000）

**第４表　周辺遺跡一覧**

| №. | 遺跡名 | 種　類 | 時　　代 | №. | 遺跡名 | 種　類 | 時　　代 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 水橋池田舘 | 集落 | 縄文、古墳、奈良、平安、中世 | 22 | 水橋二杉 | 集落 | 縄文(後･晩)、弥生(中～終)、奈良、平安、中世、近世 |
| 2 | 水橋池田舘Ⅱ | 散布地 | 奈良、平安、中世 | 23 | 水橋的場 | 散布地 | 奈良、平安、中世 |
| 3 | 水橋中村 | 散布地 | 奈良、平安 | 24 | 水橋荒町･辻ヶ堂 | 集落、官衙 | 縄文(中～晩)、弥生、古墳(前･後)、白鳳、奈良、平安、中世、近世 |
| 4 | 水橋石政 | 散布地 | 縄文(晩)、奈良、平安、中世 | 25 | 高来 | 集落 | 縄文(晩)、奈良、平安、近世 |
| 5 | 水橋大正 | 散布地 | 平安、中世、近世 | 26 | 横越 | 集落 | 縄文(晩)、奈良、平安、中世、近世 |
| 6 | 小出城跡 | 集落、城館 | 縄文(後･晩)、 古墳(前)、 奈良、 平安、 中世、近世 | 27 | 横越水窪 | 集落 | 中世 |
| 7 | 水橋小出 | 散布地 | 縄文(後)、奈良、平安、中世 | 28 | 浜黒崎野田･平榎 | 集落 | 縄文(前～晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 |
| 8 | 水橋専光寺 | 集落 | 縄文、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 | 29 | 平榎亀田 | 集落、城館、散布地 | 縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世 |
| 9 | 水橋石割Ⅲ | 館？ | 中世？ | 30 | 野中新長幅 | 集落 | 縄文(後)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 |
| 10 | 田伏･佐野竹 | 散布地 | 縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世、近世 | 31 | 宮条南 | 集落 | 縄文(後～晩)、弥生(中)、古墳(前)、平安、中世、近世 |
| 11 | 水橋金広･中馬場 | 集落、古墳、館 | 縄文、弥生(後・終)、古墳、奈良、平安、中世、近世 | 32 | 高島島浦 | 集落 | 縄文(晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 |
| 12 | 宮塚古墳 | 古墳 | 古墳 | 33 | 針原中町Ⅰ | 集落 | 縄文(後)、弥生(中)、古墳、奈良、平安、中世、近世 |
| 13 | 若王子塚古墳 | 古墳 | 古墳、中世、近世 | 34 | 針原中町Ⅱ | 集落 | 縄文(晩)、弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 |
| 14 | 水橋北馬場 | 散布地 | 平安、中世、近世 | 35 | 宮成 | 散布地 | 奈良、平安、中世、近世 |
| 15 | 金尾 | 散布地 | 縄文(後･晩)、 弥生(中･後)、 古墳(前)、 奈良、平安、中世 | 36 | 米田大覚 | 集落 | 縄文、弥生、奈良、平安、中世、近世 |
| 16 | 金尾新 | 散布地 | 縄文(晩)、奈良、平安 | 37 | 岩瀬天神 | 集落 | 縄文(中～晩)、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 |
| 17 | 中野 | 集落 | 縄文(後･晩)、 弥生、 古墳(前)、 奈良、 平安、中世 | 38 | 大村 | 集落 | 弥生(後)、奈良、平安、中世、近世 |
| | 鶯野城 | 城館 | 中世 | | 大村城跡 | 城館 | 中世 |
| 18 | 新堀東 | 散布地 | 弥生、古墳(前)、奈良、平安、中世 | 39 | 日方江 | 集落 | 縄文(後･晩)、弥生、奈良、平安、中世 |
| 19 | 新堀 | 散布地 | 縄文(晩)、弥生(後)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 | | 日方江城跡 | 城館 | 中世 |
| 20 | 新堀西 | 集落 | 弥生、古墳、古代、中世 | 40 | 浜黒崎悪地 | 集落 | 縄文(後･晩)、弥生(中)、古墳(前)、奈良、平安、中世、近世 |
| 21 | 水橋入部 | 散布地 | 弥生～古墳、古代、中世、近世 | | | | |

**写真１　遺跡周辺航空写真（1953年　米軍撮影）**

１．水橋池田舘遺跡　２．水橋池田舘Ⅱ遺跡　３．水橋中村遺跡

**参考文献**

鹿島昌也・安達志津　2003「中世の館から豊漁を祈る近世集落へ　水橋金広・中馬場遺跡平成14年度調査から」『大境』第24号　富山考古学会
(公財)富山県文化振興財団　2013『上梅沢遺跡　水橋金広・中馬場遺跡　新堀西遺跡発掘調査報告－北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅵ－』
(公財)富山県文化振興財団　2017『平榎亀田遺跡発掘調査報告－県営農地整備事業平榎地区に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ－』
(公財)富山県文化振興財団　2018『平榎亀田遺跡　浜黒崎野田・平榎遺跡　横越水窪遺跡　横越遺跡発掘調査報告－県営農地整備事業平榎地区に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ－』
国土交通省北陸地方整備局・国土交通省国土地理院　2006『古地理で探る越中・加賀の変遷』
高岡　徹　2014「戦国期における新庄城と武将の群像」『富山市考古資料館紀要』第33号　富山市考古資料館
高瀬重雄ほか　1994『富山県の地名』日本歴史地名体系16　平凡社
武田健次郎　1998「富山平野における遺跡群の展開」『富山考古学研究』創刊号　(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
富山県　1983『富山県史』通史編Ⅳ　近世　下
富山県　1992『10万分１富山県地質図説明書』
富山市　1987『富山市史』通史＜上巻＞
富山市教育委員会　1999『富山市水橋荒町遺跡発掘調査概要Ⅱ』
富山市教育委員会　2001『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2002『富山市　水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2005『富山市　水橋荒町・辻ヶ堂遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2006『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
富山市教育委員会　2007『富山市小出城跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2009『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2010『富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2013『富山市遺跡地図』埋蔵文化財包蔵地所在地地図
深井甚三・米原　寛　2001『ふるさと富山歴史館』富山新聞社
藤井昭二ほか　2011「常願寺川扇状地の形成と災害についての２，３の知見」『立山カルデラ砂防博物館研究紀要』第12号　立山カルデラ砂防博物館

# 第Ⅲ章　水橋池田舘遺跡

## 1　概　要

水橋池田舘遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、県立水橋高校の南東側300,000㎡の広大な遺跡である。調査は平成30年度・令和元年度の２カ年実施し、水路・道路工事部分を対象とし、一部県教委により保護措置が必要と判断された範囲について面調査を実施した。水路・道路工事部分の調査地区は130の小区にわかれており、平成30年度に１～108地区、令和元年度に109～130地区の調査を行った。現況は水田・畑で、標高は3.5～4.5mを測り、ほぼ平坦な地形である。

遺構は溝26条、堀２条、井戸14基、土坑95基を検出した。このうち、日吉社南側の面調査地区で検出した遺構は溝15条、堀２条、井戸14基、土坑77基で、遺構の時期は中世後半～近世である。

## 2　層　序

基本層序は概ねⅠ層:灰黄褐色･暗オリーブ褐色砂質シルト、にぶい黄褐色砂質土～砂質シルト（表土・耕作土)、Ⅱ層：黄褐色・暗灰黄色砂質土～砂質シルト、黒褐色シルト（盛土)、Ⅲ層：黄褐色砂質土（地山・遺構検出面)、Ⅳ層：黄褐色砂質土、にぶい黄褐色砂（洪水層)、Ⅴ層：褐灰色砂質土、オリーブ褐色砂、褐色粗砂（洪水層)、Ⅵ層：暗オリーブ灰色砂（旧河道埋土)、Ⅶ層：黒色砂質土・オリーブ黒色砂質シルト（ピート層)、Ⅷ層：灰色粘土（ピート層）となる。

Ⅲ層は現池田舘集落周辺の白岩川の自然堤防上を中心に堆積する。109～120地区は、白岩川の蛇行部西岸に立地し、Ⅴ層の褐色粗砂やシルトと粗砂の互層が盛土下に厚く堆積しており、国土地理院の土地地形分類図や米軍撮影航空写真によると白岩川の旧河道にあたる。遺跡西側はⅡ層下に縞状や渦状の水紋のある砂層が堆積し､洪水や旧河道などのある程度水流のある環境下にあったと考えられる。遺跡中央部および南側は、Ⅱ層直下に植物遺体や酸化鉄を多く含むⅦ層が厚く、遺跡東側の微高地を取り巻くようにアシ・ヨシなどの繁茂する湿地状の地形が広がるとみられる。

## 3　遺　構

### （1）溝

**1号溝**（ＳＤ１、第22図、図版３）

西側にむかいＬ字状に屈曲する溝で、約2.50m東側をＳＤ２が併走する。面調査地区では北辺９ｍ、東辺26mの範囲で確認した。幅3.50～3.90m、深さ0.39～0.74mを測る。断面は逆台形状を呈し、底面は平坦である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、面調査地区南壁の土層堆積をみると、地山であるⅢ層がブロック状に混じる土層（12･14層）があり､一部掘り直しをしていると考えられる。ＳＤ１は４･59・61地区でその延長部分が確認でき、東西約50m、南北約35mの方形に巡る区画溝で、屋敷地を二重に囲む堀の内堀にあたると考える。出土遺物は青磁（12)、越中瀬戸（72)、伊万里小片、近世陶器（139）がある。出土遺物はＳＤ２と比べて少ないが、時期的な差は認められず、ＳＤ１とＳＤ２は同時期に存在していたと思われる。

## 第５表　水橋池田舘遺跡基本層序

| | | | 川原田川西側 | | | 西側 | | | 中央 | | | 東側 | | | 北側 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | a | 表土 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質シルト | | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色シルト | | | | | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質シルト | | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質土 | |
| | b | | | | | | | | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色砂質シルト | | | | | 10YR4/1 | 褐灰色砂質シルト | 床土？ |
| Ⅱ | a | 盛土 | | | | | | | | | | 10YR5/1 | 褐灰色砂質シルト | 酸化鉄・粘性強 | 10YR5/2 | 灰黄褐色砂質土 | 礫混 |
| | b | | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色砂質シルト | 粘土ブロック混 | 2.5Y5/3 | 黄褐色砂質シルト | 酸化鉄 | 2.5Y5/2<br>2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質シルト | 酸化鉄・しまり強 | 2.5Y5/2<br>2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質シルト | 酸化鉄・しまり強 | | | |
| | b' | | | | | | | | 2.5Y4/1 | 黄灰色砂質土 | Ⅲ層ブロック状混 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質シルト | Ⅲ層ブロック状混 | | | |
| | | | | | | | | | 2.5Y5/4 | 黄褐色砂質土 | | | | | | | |
| | c | | | | | | | | 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 粘性強 | | | | | | |
| | | | | | | | | | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質シルト | 酸化鉄 | 10YR5/1 | 褐灰色砂質シルト | Ⅲ層ブロック状混 | | | |
| | | | | | | | | | 7.5Y4/1 | 灰色砂質シルト | | | | | | | |
| Ⅲ | | 地山<br>（遺構検出面） | | | | | | | 2.5Y5/4 | 黄褐色砂質土 | | 10YR5/6 | 黄褐色砂質土 | しまり強 | | | |
| | | | | | | | | | | | | 10YR6/6<br>2.5Y6/6 | 明黄褐色砂質土 | しまり強 | | | |
| | b | | | | | | | | 5Y4/2 | 灰オリーブ色砂質土 | | | | | | | |
| Ⅳ | a | 洪水層 | 2.5Y4/1 | 黄灰色砂 | | 2.5Y5/4 | 黄褐色砂質土 | 縞状 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色砂 | 灰色砂縞状 | | | | 10YR5/4 | にぶい黄褐色砂質土 | 暗灰黄色粗砂縞状 |
| | b | | 2.5Y4/3<br>5Y6/1 | オリーブ褐色砂質シルト | 酸化鉄・灰色砂縞状 | | | | 2.5Y5/2<br>2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質シルト | 酸化鉄・波紋状・グライ化 | | | | | | |
| Ⅴ | a | 洪水層 | | | | 10YR5/1 | 褐灰色砂質土 | | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色砂質シルト | 酸化鉄 | | | | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色粗砂 | |
| | b | | | | | | | | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色砂 | | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質土 | 部分的 | 10YR4/4 | 褐色粗砂 | |
| | b' | | | | | | | | 2.5Y4/3 | オリーブ褐色砂質土 | 酸化 | | | | 10YR4/6 | 褐色粗砂 | |
| | c | | | | | | | | 5Y4/1<br>7.5Y4/1 | 灰色砂質土 | | | | | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質シルト | |
| | d | | | | | | | | | | | | | | 10YR6/4 | にぶい黄橙色粗砂 | にぶい黄褐色砂質シルトと互層 |
| Ⅵ | a | 旧河道埋土 | | | | 5Y5/1 | 灰色粘質土 | グライ化 | | | | | | | | | |
| | b | | | | | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | | 7.5Y3/2 | オリーブ黒色粘質土 | 北側部分的 | | | | | | |
| Ⅶ | a | 湿地層 | 5Y4/1 | 灰色粘土 | 砂と互層 | 5Y2/1 | 黒色粘質土 | 粗砂混・ピート層 | 10YR2/1 | 黒色砂質土 | 酸化鉄・ピート層 | | | | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘土 | 黄褐色砂と互層 |
| | b | | | | | | | | 5Y3/2 | オリーブ黒色シルト | ピート層 | | | | | | |
| | | | | | | | | | 5Y6/2<br>7.5Y4/2 | 灰オリーブ色粘土質シルト・粘質土 | ピート層 | | | | | | |
| | c | | | | | | | | 2.5Y4/1 | 黄灰色砂質シルト | ピート層・炭化物・やや砂質 | | | | | | |
| Ⅷ | a | 湿地層 | 2.5Y3/2 | 黒褐色粘土質シルト | | 10YR4/1 | 灰色粘質土 | | 7.5Y4/1 | 灰色シルト | | | | | | | |
| | b | | | | | | | | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色粘質土 | | | | | | | |
| Ⅸ | | 湿地層 | | | | | | | 7.5Y3/2<br>10YR3/2 | オリーブ黒色粘土質シルト～粘土 | ピート層・炭化物 | | | | | | |

遺構検出面

湧水

Ⅰ　表土

Ⅱ　盛土　　酸化鉄・Ⅲ層ブロック状混

Ⅲ　地山（遺構検出面）　　黄褐色砂質土　しまり強

Ⅳ　洪水層　　砂質土～砂　縞状・水紋状　水流のある堆積層

Ⅴ　洪水層　　砂質土～砂　酸化鉄　水流のある堆積層

Ⅵ　旧河道埋土　　灰～黒色粘質土

Ⅶ　湿地層　　灰～黒色シルト～粘質土　砂質強　ピート層

Ⅷ　湿地層　　灰色粘土　ピート層

Ⅸ　湿地層　　黒色粘土　ピート層

**２号溝**（ＳＤ２、第22図、図版３）

ＳＤ１の東側を併走する溝で、面調査地区で北辺17m、東辺33mの範囲で確認した。４・５・58・62地区で延長部分を確認でき、東西約65m、南北約57mの方形に巡る。ＳＤ１の外側を巡る外堀と考える。幅2.00～2.70m、深さ0.46～0.74m。東辺の東側肩は犬走り状、面調査地区南壁付近は土橋状に一段浅くなる。北東角付近の東側肩には直径10～20㎝の礫や立木がみられ、護岸などの施設があった可能性がある。北東角付近は深くなっており、北からＳＸ79が流れ込む。出土遺物は土師器、須恵器（３）、青磁（６）、白磁（13）、中世土師器（14～23）、珠洲（44・45・50・56・59・67・68・70・71）、瓦質土器、越前、越中瀬戸（73・77～83・90～92・110・121～125・132・133・137）、唐津（142）がある。土師器、須恵器は周辺からの流れ込みと考えられ、中世後半～近世を主体とする。中世土師器や珠洲は埋土下位の黒褐色粘土質シルト層から、遺物の大半をしめる越中瀬戸は埋土上位の暗褐色シルト層から出土しており、ＳＤ２は17世紀中頃には堀として機能しなくなり、埋没したとみられる。

**３号溝**（ＳＤ３、第22図、図版４）

ＳＤ２東側に位置する南北溝で、調査地区南側へ続く。ＳＤ４・ＳＤ５・ＳＤ102と約３ｍの間隔で併走する。遺構の新旧関係は、ＳＤ２より古く、ＳＫ62・ＳＥ65・ＳＥ66より新しい。埋土は黒褐色シルトの単層で、断面Ｖ字状である。出土遺物は中世土師器小片がある。

**４号溝**（ＳＤ４、第22図）

ＳＤ２東側に位置する南北溝。北端はＳＤ９に切られて途切れるが、南側は調査地区外へ続く。ＳＤ３・ＳＤ５・ＳＤ102と約３ｍ間隔で併走する。調査地区南壁断面では、東側が浅く、西側が一段深くなる二段掘りの状態を観察できるが、後世の削平を受けており西側の深い部分のみしか検出できなかった。埋土は黒褐色シルト混じりの褐灰色砂質シルトを基調とする。出土遺物は、弥生土器（１）、中世土師器（24）、珠洲小片がある。弥生土器は摩耗しており、流れ込みと考える。

**５号溝**（ＳＤ５、第22図）

ＳＤ２東側に位置する南北溝で、調査地区外南側へ続く。ＳＤ３・ＳＤ４・ＳＤ102と約３ｍの間隔で併走する。遺構の新旧関係は、ＳＤ６・ＳＤ８より古く、ＳＤ９より新しい。埋土は黒褐色シルトの単層である。出土遺物は、青磁（10）、中世土師器（25）がある。

**６号溝**（ＳＤ６、第19・20・22図）

面調査地区東側に位置する南北溝。遺構の新旧関係はＳＤ５・ＳＤ８より新しく、ＳＫ11・ＳＸ24・ＳＤ38・ＳＥ89より古い。南端は後世の削平を受け、浅く不明瞭になる。出土遺物は中世土師器（25）、珠洲（60・61）、越中瀬戸（83・84・108・128・130）がある。

**７号溝**（ＳＤ７、第21・23図、図版４）

面調査地区の北東角付近に位置する南北溝で、ＳＤ２の東側10mを併走し、西側へＬ字状に屈曲する。調査区北・東側へ伸びる。遺構の新旧関係はＳＤ21・ＳＤ38より古い。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は中世土師器（27・28）、珠洲（46・69）、越中瀬戸（75・76・84～89・118・129）、唐津（141）、砥石（156）がある。埋土上位から越中瀬戸が出土することから、ＳＤ７は中世末～近世初めの遺構と考えられる。

**９号溝**（ＳＤ９、第19・20図）

ＳＤ２の東側に位置する東西溝。複数の遺構と重複しており、遺構の新旧関係はＳＤ４より新しく、ＳＤ６より古い。幅0.77m、深さ0.09mを測る浅い溝で、埋土は黒褐色砂質シルトの単層で、植物遺体を少し含む。出土遺物は、中世土師器（30～32）がある。

**38号溝**（ＳＤ38、第23図）

ＳＤ２北東角東側に位置する南北溝。複数の遺構と重複しており、新旧関係はＳＸ24・ＳＤ39・ＳＤ51より古く、ＳＤ６・ＳＤ７より新しい。また、ＳＤ38の底面でＳＥ53・ＳＥ82・ＳＫ83～85・ＳＥ108を検出しており、これらの遺構より新しいと考えられる。出土遺物は、中世土師器（34）、珠洲（66）、越中瀬戸（98・99・101・103・116・117）、唐津小片がある。

**39号溝**（ＳＤ39、第23図、図版４）

ＳＤ２の北東角東側に位置する南北溝で、Ｘ17～18Ｙ10付近で緩やかに屈曲しており、ＳＸ79と一続きの溝の可能性がある。南端はＳＸ24を切り込む。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物は中世土師器（35・36）、越中瀬戸（97・119・134）、唐津小片、銭貨（157・158）がある。銭貨はＳＤ39西側肩で二枚重なった状態で出土した。

**79号溝**（ＳＸ79、第21・23図、図版４）

ＳＤ２の屈曲部に位置する溝で、調査地区北側へ続く。Ｘ17Ｙ８付近に直径10～15㎝の円礫の集石があり、堰状の施設の可能性がある。ＳＤ２との新旧関係については不明であるが、ＳＸ79の底面とＳＤ２合流部の底面間には0.25ｍの落差があり、ＳＸ79がＳＤ２に流れ込む。ＳＤ39と一続きとなる可能性がある。埋土は黒褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は、土師器小片、青磁（11）、中世土師器（38～40）、珠洲（47～49・53・54）、越中瀬戸（95・96・109・120・126・135）、唐津小片がある。土師器は摩耗した小片で、流れ込みと考えられる。

**103号溝**（ＳＤ103、第23図、図版４）

調査地区北西角に位置する南北溝で、調査地区外北側へ続く。ＳＤ２より古い遺構と考える。埋土は暗オリーブ褐色砂質シルトの単層で、黄褐色砂質土がブロック状に混じる。出土遺物は、越中瀬戸（107）、唐津（138）、越前？の小片がある。

**105号溝**（ＳＤ105、第23図）

調査地区北西角に位置する東西溝。ほとんどが調査地区外北側にあり、南側肩の一部を検出したのみである。調査地区北壁断面の観察で、埋土は黄褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色砂質シルトである。ＳＤ39と埋土が類似しており、ＳＤ39に続く可能性もある。

### （２）井　戸

**25号井戸**（ＳＥ25、第19・20図、図版５）

Ｘ12Ｙ10、竪穴状土坑ＳＸ24の南辺中央に位置する。ＳＸ24より新しい。長径0.74ｍ、短径0.65ｍの円形で、深さ0.62ｍを測る素掘井戸である。埋土は植物遺体を含む灰黄褐色砂質シルトの単層である。北半の埋土中位から底面にかけて、直径15㎝前後の礫を確認した。調査中も湧水が著しく認められた。礫に混じり珠洲（64）の甕胴部片が出土している。

**53号井戸**（ＳＥ53、第16図、図版５）

Ｘ16Ｙ11に位置する。ＳＤ38に西側の一部を壊されており、新旧関係はＳＥ53がＳＤ38より古い。長径0.71ｍ、短径0.67ｍのやや南側がいびつな円形を呈する。深さは1.03ｍを測る。埋土はⅢ層ブロック、炭化物が混じる黒褐色シルトの単層である。調査中も湧水がみられ、素掘井戸と考える。出土遺物はない。

**63号井戸**（ＳＥ63、第16図）

Ｘ７Ｙ14の調査地区東端に位置する。ＳＤ６との新旧関係では、ＳＤ６より古い。竪穴状土坑の西辺中央に位置している。長径0.73ｍ、短径0.60ｍ、深さ0.68ｍを測る平面楕円形の素掘井戸である。

埋土は暗灰黄色砂質シルトの単層で、水分を含みしまりがない。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物はない。

**65号井戸**（ＳＥ65、第16図）

Ｘ５Ｙ10に位置する。西側の一部がＳＤ３と重複しており、新旧関係ではＳＥ65がＳＤ３より古い。長径0.73m、短径0.61m、深さ1.29mを測る。平面形は楕円形を呈するが、ＳＤ３に壊されているため、本来は円形であったと思われる。側壁は垂直で、円筒状に掘り込まれた素掘井戸である。埋土は暗灰黄色砂質シルト混じりの黒褐色シルトの単層で、炭化物粒が混じる。調査中も湧水が認められ、埋土は水分を含んでしまりがない。出土遺物は珠洲（58）、越中瀬戸（100）がある。

**66号井戸**（ＳＥ66、第16図）

Ｘ４～５Ｙ10、ＳＥ65の南側1.20mに位置する。ＳＥ65と同様に西側の一部をＳＤ３に壊されており、新旧関係ではＳＤ３よりＳＥ66が古い。直径0.78m、深さ1.23mを測る不正円形の素掘井戸である。埋土は黒褐色シルトの単層で、地山ブロックを含んでおり、南側側壁の一部が崩壊したものと考えられる。本来は、垂直に掘り込まれていたものとみられる。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物はない。

**70号井戸**（ＳＥ70、第16図）

Ｘ１Ｙ10～11に位置する。直径0.58m、深さ1.08mを測る素掘井戸で、平面形は円形を呈する。埋土は暗褐色砂質シルトの単層で、水分を含みしまりがない。側壁は円筒状に、ほぼ垂直に掘り込まれ、調査中も湧水が認められた。出土遺物は、中世土師器小片、越中瀬戸（104）がある。

**71号井戸**（ＳＥ71、第16図）

ＳＤ１の西側、ＳＤ１に囲まれた区画内部に位置する。平面形は円形で、長径0.70m、短径0.66m、深さ0.56mを測る。埋土は黄褐色砂質シルト混じりの黒褐色シルト単層で、炭化物粒が混じる。他の井戸に比べやや浅いが、調査中も湧水が認められ、大きさや、円筒状の垂直な側壁は、他の井戸と類似していることから井戸とした。出土遺物はない。

**78号井戸**（ＳＥ78、第16図、図版５）

ＳＤ１の西側、ＳＤ１に囲まれた区画内部に位置し、調査地区西壁に一部がかかる。直径0.80m、深さ1.00mを測る素掘井戸で、平面形は円形を呈する。埋土は黄褐色砂質シルトのブロック土が混じる黒褐色シルトの単層で、炭化物・植物遺体が混じる。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物は、中世土師器（29）、越中瀬戸（102・127）、漆器椀（145）、底板（146）、棒状加工品（147）、箸（148）、曲物（149）、杭（153）などの木製品が出土した。遺物の多くは、埋土中位～下位の出土である。

**82号井戸**（ＳＥ82、第16図、図版５）

ＳＤ２の北東角東側、Ｘ16Ｙ10～11に位置する。遺構の新旧関係は、ＳＤ38の底面で検出しており、ＳＤ38より古く、ＳＫ83より新しい。長軸0.80m、短軸0.72m、深さ0.86mを測る楕円形の素掘井戸である。埋土はオリーブ褐色砂質土ブロックの混じる黒褐色シルトで、炭化物が混じる。埋土中位～下位にかけては、直径10～20㎝の円礫で埋まっており、人為的な埋め戻しをしたとみられる。調査中も湧水が認められ、常にこの礫面まで水がたまる状態であった。円礫に混じり五輪塔の空風輪（155）が出土している。

**89号井戸**（ＳＥ89、第17図）

Ｘ15～16Ｙ10に位置する平面円形の素掘井戸。遺構の新旧関係は、ＳＤ39より古いが、ＳＤ６より

新しい。直径0.65m、深さ1.00mを測る。埋土は黄褐色砂質土ブロックを含む黒褐色シルトの単層で、炭化物が少し混じる。調査中も湧水があり、常に下位1/3程度は水がたまる状態であった。出土遺物はない。

**90号井戸**（ＳＥ90、第17図）

ＳＤ２の北東角東側、Ｘ17Ｙ９に位置する。長径0.63m、短径0.56m、深さ0.64mを測る円形の素掘井戸である。東側半分がＳＤ39と重複しており、遺構の新旧関係はＳＥ90がＳＤ39より古い。
埋土は黒褐色シルトの単層で、炭化物が混じる。調査中も湧水が認められ、常に水がたまる状態であった。出土遺物はない。

**94号井戸**（ＳＥ94、第17図）

ＳＤ２の北東角東側、Ｘ16～17Ｙ８に位置する。長軸0.65m、短軸0.54m、深さ0.82mを測る素掘井戸で、平面形は楕円形を呈する。小穴と重複しており、新旧関係ではＳＥ94が新しい。埋土は黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルト単層で、炭化物を含む。調査中も湧水があり、深さ1/2ほど水がたまる状態であった。出土遺物は中世土師器（33）がある。

**104号井戸**（ＳＥ104、第17図）

調査地区東端Ｘ４Ｙ15に位置する。調査地区東壁で確認した大きさは長径1.65m、短径0.30m、深さ0.75mで、調査地区外東側へ続く。平面形は円～楕円形を呈する素掘井戸である。埋土は、黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色砂質シルトである。調査中も湧水が認められた。出土遺物はない。

**108号井戸**（ＳＥ108、第17図）

調査地区中央北端Ｘ17Ｙ10に位置する。ＳＤ38の底面で検出しており、遺構の新旧関係はＳＤ38より古い。長径1.0m、短径0.82m、ＳＤ38底面からの深さ0.41mを測る。Ⅲ層上面の遺構検出面からの深さは0.62mを測る。調査中も湧水があり、ＳＤ38底面の検出面まで常に水がたまる状態であった。埋土は黒褐色砂質シルトである。出土遺物はない。

## （３）土　坑

**10号土坑**（ＳＫ10、第18図）

Ｘ11Ｙ12～13に位置する。ＳＤ６と重複しており、遺構の新旧関係はＳＤ６より新しい。長径0.61m、短径0.58m、深さ0.20mを測る円形土坑である。埋土は柱痕跡とみられる黒褐色シルトと、暗黄褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色シルトで、柱痕跡の下部では直径～10㎝の円礫が複数個出土した。柱を固定するため、玉石などで柱を覆い固める根石の可能性が高く、礫のうち１点は被熱して黒化していた。出土遺物はない。

**11号土坑**（ＳＫ11、第19・20図、図版６）

Ｘ12～13Ｙ12～14に位置する大型土坑。複数の遺構と重複しており、遺構の新旧関係は、ＳＸ24より古く、ＳＤ６・ＳＫ13より新しい。長さ2.80m、幅2.54m以上を測る。平面形は不整形で、底面は平坦で、深さ0.20mの浅い皿状を呈する。建物の補助屋的な空間である竪穴状土坑[注1]と考える。埋土は暗灰黄色粘土質シルトがブロック状に混じる黒褐色砂質シルトで、ワラ状の植物遺体を少し含む。出土遺物は青磁（９）がある。

**12号土坑**（ＳＫ12、第19・20図、図版６）

Ｘ12Ｙ11のＳＸ24南辺に隣接する。長径0.40m、短径0.35m、深さ0.47mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、明黄褐色砂質土をブロック状に含む。土層１は、柱痕跡と考えられ、土層１の下部で直径15㎝の円礫が出土しており、礎石の可能性が高い。出土遺物はない。

**14号土坑**（ＳＫ14、第18図）

調査地区北東角Ｘ17Ｙ15に位置する。長径0.30m、短径0.26m、深さ0.54mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は明黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層２は植物遺体、炭化物を少し含み柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

**17号土坑**（ＳＫ17、第18図）

Ｘ17Ｙ13に位置する。長軸0.36m、短軸0.28m、深さ0.61mを測る楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層１の黒褐色シルトは直径約0.20mの柱痕跡と推定できる。出土遺物はない。

**20号土坑**（ＳＫ20、第18図）

Ｘ17Ｙ12に位置する。長軸0.35m、短軸0.26m、深さ0.22mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、土層２は明黄褐色砂質土がブロック状に混じり硬くしまる。土層１は炭化物を含み、しまりがなく、柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

**23号土坑**（ＳＫ23、第19・20図）

Ｘ13Ｙ10に位置する。ＳＸ24西側の底面で検出しており、遺構の新旧関係はＳＸ24より古い。長軸0.42m、短軸0.30m、深さ0.44mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層１は腐食した柱根とみられる木質を含む。出土遺物はない。

**24号土坑**（ＳＸ24、第19・20図、図版６）

ＳＤ２の東側Ｘ12～14Ｙ９～12に位置する大型方形土坑（竪穴状土坑）である。複数の遺構が重複しており、遺構の新旧関係は、ＳＥ25・ＳＤ39より古く、ＳＤ６・ＳＫ11・ＳＫ22・ＳＫ23・ＳＫ27・ＳＤ38より新しい。ＳＸ24自体も４基の方形土坑が重複している。埋土は黒褐色砂質シルト、灰黄褐色砂質シルトを基調としている。西側の東西3.50m、南北2.65mの部分は底面が平坦で、浅い皿状を呈し、埋土の土層９は、硬くしまった灰黄褐色砂質シルトで、粘性が強く、張り床と考えられる。ＳＸ24の周囲にはＳＫ12・ＳＫ23・ＳＫ27・ＳＫ40・ＳＫ45・ＳＫ100などの柱痕跡が明確なものや、根石･礎石と考えられる礫が伴うものなど柱穴と考えられる小土坑があり、建物が建つと推測できる。ＳＸ24は、建物内部の土間状の空間と考えられる。出土遺物は、中世土師器（41～43）、珠洲（52・63）がある。

**27号土坑**（ＳＫ27、第19・20図）

Ｘ12Ｙ12に位置する。ＳＸ24の底面で検出しており、ＳＸ24より古い遺構である。長軸0.77m、短軸0.37m、深さ0.15mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層で、明黄渇色砂質土がブロック状に混じる。底面中央で長径約0.20mの礫が出土しており、礎石・根石などの可能性が高い。出土遺物はない。

**28号土坑**（ＳＫ28、第18図）

調査地区北端Ｘ18Ｙ12～13に位置する円形土坑。長径0.37m、短径0.36m、深さ0.63mを測る。埋土は明黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルトを基調とする。土層１は炭化物粒が混じり、直径約0.20mの柱痕跡と考える。出土遺物はない。

**30号土坑**（ＳＫ30、第18図）

調査地区北端Ｘ17Ｙ12に位置する。長径0.20m、短径0.18m、深さ0.11mを測る円形土坑である。埋土は明黄褐色砂質土のブロック土を含む黒褐色シルトで、中央に炭化物層があり、直径約0.10mの柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

**40号土坑**（ＳＫ40、第19・20図）

ＳＸ24の北東角付近、Ｘ13Ｙ13に位置する。長軸0.42m、短軸0.33m、深さ0.19mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は明黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色シルト、黒褐色砂質シルトで、土層１は炭化物を少し含み柱痕跡と考える。出土遺物はない。

**45号土坑**（ＳＫ45、第19・20図）

ＳＸ24の北東角東側、Ｘ14Ｙ12に位置する。長軸0.37m、短軸0.32m、深さ0.12mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルトを基調とし、土層２には明黄褐色砂質土がブロック状に混じる。土層１は、直径約0.15mの柱痕跡と考える。出土遺物はない。

**49号土坑**（ＳＫ49、第18図）

ＳＫ45の北側0.50mに位置する楕円形土坑である。長軸0.70m、短軸0.36m、深さ0.25mを測る。埋土は明黄褐色砂質土をブロック状に含む黒褐色シルトで、炭化物が混じる。出土遺物は、中世土師器小片がある。

**55号土坑**（ＳＫ55、第18図）

Ｘ10Ｙ13に位置する。長径0.63m、短径0.40m、深さ0.24mを測る不整形土坑である。埋土は明黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルト、オリーブ褐色砂質土で、土層１には炭化物が含まれ、柱痕跡と思われる。出土遺物はない。

**59号土坑**（ＳＫ59、第18図）

調査地区南側Ｘ２Ｙ11に位置する。長径0.35m、短径0.30m、深さ0.21mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層で、炭化物を含む。出土遺物はない。

**61号土坑**（ＳＫ61、第18図）

Ｘ５Ｙ11、ＳＤ４の東側に位置する。長軸0.47m、短軸0.35m、深さ0.26mを測る楕円形の土坑である。ＳＤ４と一部重複しており、遺構の新旧関係はＳＤ４より古い。埋土は暗灰黄色シルトの単層で、明黄褐色砂質土がブロック状に混じる。底面から直径0.10mの円礫が出土している。出土遺物はない。

**62号土坑**（ＳＫ62、第18図）

Ｘ４Ｙ10、ＳＤ３の東肩に位置する。ＳＤ３の底面で検出しており、遺構の新旧関係はＳＤ３より古い。埋土は黒褐色シルトで、炭化物を含む。出土遺物はない。

**72号土坑**（ＳＫ72、第18図）

ＳＤ１の西側、ＳＤ１に囲まれた区画内に位置する。長軸0.42m、短軸0.30m、深さ0.40mを測り、平面形は楕円形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層で、炭化物を少し含む。埋土中位から直径約0.20mの円礫が平坦面を水平にした状態で出土した。柱を支える礎石・根石などとみられる。出土遺物はない。

**73号土坑**（ＳＫ73、第21図）

ＳＤ１の西側、ＳＤ１に囲まれた区画内に位置する。長径0.38m、短径0.35m、深さ0.33mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層で、硬くしまっている。土坑の掘方より一回り小さな直径約0.25mの円礫が平坦面を水平に据えた状態で出土しており、礎石と考える。同様に礎石と考えられる礫が伴うＳＫ72の1.4m南側に位置する。出土遺物はない。

**75号土坑**（ＳＫ75、第21図）

ＳＤ１の西側、ＳＤ１に囲まれた区画内に位置する。直径0.27m、深さ0.17mを測る円形土坑であ

る。埋土は黒褐色シルト、黒褐色砂質シルトで、土層１は炭化物が少し混じり、直径約0.25mの柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

**77号土坑**（ＳＫ77）

ＳＤ１の西側、ＳＤ１に囲まれた区画内に位置する。長軸0.50m、短軸0.35m、深さ0.13mを測る楕円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層で、黄褐色砂質シルトがブロック状に混じる。ＳＫ77の埋土は、北東方向から伸びる噴砂に切られている。出土遺物はない。

65地区でも南北方向の噴砂を確認しており、当該地域が液状化現象を起こすような大きな地震にみまわれたことが痕跡として確認できた。噴砂（液状化現象）を起こすような中世後半以降の地震には、天正13(1586)年の天正地震、安政５(1858)年の飛越地震などがあり、これらの地震痕跡と考えられる。

**80号土坑**（ＳＸ80）

調査地区北西角Ｘ18Ｙ３～４に位置する。ＳＤ２の北辺に位置し、遺構の新旧関係はＳＤ２より新しい。長さ2.30m、幅1.10m以上、深さ0.41mを測る不整形土坑で、複数の土坑が重複する。埋土は黒褐色シルトを基調とし、黄褐色砂質土がブロック状に混じる。出土遺物は、珠洲（62）がある。

**85号土坑**（ＳＫ85、第21図）

Ｘ16Ｙ11に位置する。ＳＤ38の底面で検出しており、遺構の新旧関係はＳＤ38より古い。直径0.27m、深さ0.33mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は黒褐色シルトの単層で、オリーブ褐色砂質土がブロック状に混じる。炭化物を少し含み、柱痕跡の可能性がある。出土遺物はない。

**91号土坑**（ＳＫ91、第21図）

ＳＤ２の北東角東側に位置する。長軸0.41m、短軸0.32m、深さ0.17mを測る楕円形土坑である。北側のＳＫ92と隣接するが、遺構の新旧関係はない。埋土はオリーブ褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色シルトの単層である。埋土上面で長径約0.20mの礫が平坦面を水平に据えた状態で出土しており、礎石の可能性がある。出土遺物はない。

**93号土坑**（ＳＫ93、第21図、図版６）

ＳＤ２の北東角東側に位置する。長さ0.61m、幅0.44m、深さ0.22mを測る不整形土坑で、２基の土坑が重複している。埋土は黄褐色砂質土がブロック状に混じる黒褐色シルト、黒褐色砂質シルトである。西寄りの底面で珠洲（51）が出土している。

**95号土坑**（ＳＫ95、第21図）

ＳＤ２の北東角東側、Ｘ17Ｙ８に位置する。長径0.32m、短径0.30m、深さ0.27mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色シルトの単層である。周辺の柱痕跡が残る土坑の埋土と類似しており、柱痕跡の可能性もある。出土遺物はない。

**98号土坑**（ＳＫ98、第21図、図版６）

Ｘ６Ｙ７、ＳＤ１とＳＤ２の間に位置する。長径0.27m、短径0.25m、深さ0.26mを測り、平面形は円形を呈する。埋土は黄褐色砂質土混じりの黒褐色シルトの単層で、埋土上位で直径約0.20mの円礫が平坦面を水平にした状態で出土しており、礎石と考えられる。出土遺物はない。

**100号土坑**（ＳＫ100、第19・20図、図版６）

ＳＤ２の東側、Ｘ12Ｙ10に位置する。ＳＸ24の南辺にあり、ＳＸ24を含む建物を構成する柱穴の一つと考えられる。長径0.33m、短径0.28m、深さ0.30mを測る円形土坑で、埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。直径約0.14mの柱１（151）と、直径約0.17mの柱２（152）の２本の柱根が残存している。２本の柱は、どちらも芯持ち丸木で、１個体が分割したものではない。柱２は土坑の掘方に対

し垂直であるが、柱１は斜めで柱２を支えるような状態である。ＳＫ100の掘方は柱に対して小さく、重複もみられないことから２本の柱の新旧関係は不明である。出土遺物はない。

**101号土坑**（ＳＫ101、第21図）

ＳＤ２の東側、Ｘ８Ｙ10に位置する。長径0.30m、短径0.28m、深さ0.35mを測る円形土坑である。埋土は褐灰色砂質シルトの単層で、柱根（154）が残存する。出土遺物はない。

**106号土坑**（ＳＫ106）

調査地区北東角に位置する。平面での検出はできなかったが、調査地区東壁断面にて確認した。長さ1.00m以上、幅0.26m以上、深さ0.34mを測る不整形土坑で、調査地区外東側に続く。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。出土遺物はない。

**107号土坑**（ＳＫ107、第23図）

調査地区北端、ＳＤ２の北辺に位置する。長径0.35m、短径0.12m以上、深さ0.44mを測り、平面形は円形を呈すると思われる。調査地区北壁にかかり、調査地区外北側に続く。埋土は黄褐色砂質土をブロック状に含む暗オリーブ褐色砂質シルトの単層である。出土遺物はない。

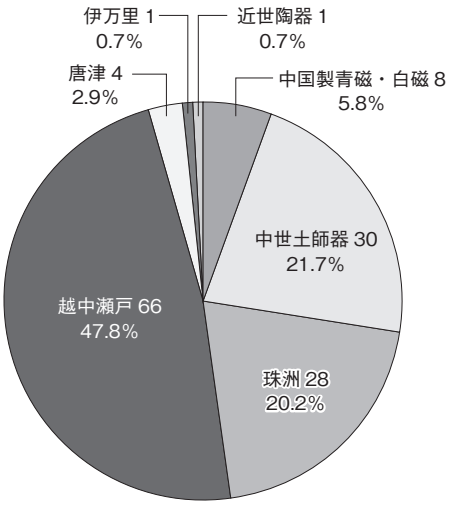
## ４　遺　物

出土遺物には、弥生土器（１・２）、須恵器（３～５）、青磁（６～12）、白磁（13）、中世土師器（14～43）、珠洲（44～71）、越中瀬戸（72～137）、近世陶磁器（138～143）、木製品（144～154）、石製品（155・156）、金属製品（157・158）などがある。出土量は少なく、土器・陶磁器のうち実測可能な143点について図化した。このうち、主体となる中世～近世の時期のものは138点である。ここでは種類ごとに記述する。

### （１）土器・陶磁器（第25～31図、図版９～13）

弥生土器、須恵器、土師器など古代以前の遺物は、面調査地区を中心とした池田舘の現集落周辺の１・２・４・38・43・71・76地区で出土している。摩耗し調整も不明瞭な破片が多く、単発での出土で、周辺からの流れ込みと考えられる。１・２は弥生土器で、甕の口縁部である。３は須恵器杯、４は須恵器壺頸部片、５は須恵器甕胴部片である。土師器は摩耗した小片があるが、図化はしていない。

中国製磁器は、青磁７点、白磁１点を図化した。青磁の椀（６～11）、盤（12）、白磁の椀（13）がある。６は口縁部が輪花状でわずかに外方に開く。７は口縁部外面に雷文帯が描かれる。９・10は鎬蓮弁文が施される椀で、９の内底面には、不明瞭だが花文もしくは曲線文がある。11は灰オリーブ色を呈するが、外表面は白濁し、割れており、被熱している。12は盤とみられる大型品の底部で、高台裏の無釉部分に墨書？がみられる。13は体部が直線的に立ち上がる器形で、体部が面取りされた角杯または小杯と思われる。釉は全体に薄くかかり、灰白色を呈する。




グラフ１　種類別組成

中世土師器は30点を図化した。全体的に摩耗しており、調整が不明瞭な破片が多い。14～19・21・22・

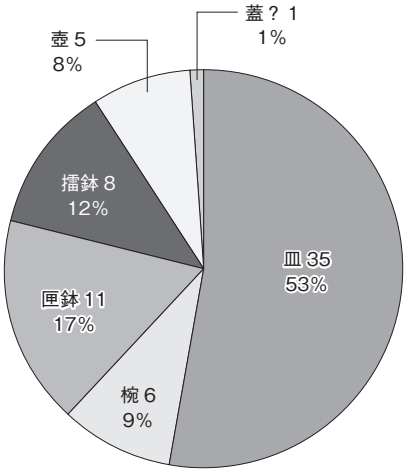
26・27・31・42・43は口縁端部に一段のヨコナデを施すもので、体部は直線的またはやや内湾気味に開く器形で、丸底を呈する。富山城跡出土資料[注2]の在地系Ａ類に相当する。38は体部が開き気味に立ち上がる器形で、口縁端部は強くヨコナデして外反する。京都系Ｃ類に分類されるものである。38の胎土は赤色粒が多く含まれる。20・28・33・39・41は口縁端部の内外面に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。概ね15世紀末～16世紀末のものと考えられる。

珠洲は28点を図化した。擂鉢16点（44～57・70・71）、甕10点（58～67）、壺２点（68・69）がある。47･55はⅣ期に比定される擂鉢で、口縁形態は外傾する方頭である。卸目は、47が2.5cm幅15条、55が3.2cm幅15条である。55は口縁端部に櫛目波状文を加飾する。44・52～54はⅤ期に比定される。44の口縁形態は三角頭で、体部は直線的に開く。胎土は白色粒や気泡を含み粗雑である。52～54の口縁形態は内傾する三角頭で、口縁端部に櫛目波状文を加飾する。52の卸目は、原体幅等は不明であるが、密度が高く重なり合うように隙間なく施されている。53の口縁端部は内傾する三角頭で、幅広の端面は長三角形をなし、やや後出的である。２cm幅７条の卸目を施す。54は直線的に開く器体に、2.7cm幅11条の卸目を施す。50・51・56・57は擂鉢の底部で、底部外面の切り離しは静止糸切による。50の卸目は密度が高く重なり合うように隙間なく施文される。卸目原体は２cm幅８条で、左回りに放射状に施文する。51は2.9cm幅12条の卸目を右回りに施文する。体部下位の外面には指頭圧痕が残る。56は1.9cm幅７条の卸目を右回り放射状に施文する。焼成は焼き締めがあまく、黄灰色を呈する。57は1.8cm幅５条の卸目を左回りの放射状に施す。見込みは摩耗しており、卸目がすり切れる箇所がある。胎土は粒径の大きな砂利を含み、粗雑である。70・71は、卸目はないが、直線的に開く器形に、底部外面に静止糸切痕を残す底部片である。見込みが摩耗しており、擂鉢底部とした。70は白色や赤色の粒の荒い砂利を含む胎土で、焼成もやや悪く全体に赤みがかかり軟質である。

58は甕の口縁部で、口縁形態は短頸でくの字状に屈曲し、端部は円頭を呈する。外面は平行叩き、内面は頸部付根付近まで当て具痕が残る。Ⅳ期か。59～65・67は甕胴部片で、外面平行叩き、内面は当て具痕を残す。67は薄造りで、胎土も均質である。66は底部立ち上がり部分の破片で、内面は自然釉を掻き取っている。68は四耳壺肩部片。縦長の耳の両端を跳ね上げる特徴的な鰭耳を持つ四耳壺で、Ⅴ期のもの。完形で出土することは稀な器種で、特定の階層向けに少数生産され、蔵骨器と考えられている[注3]。69は壺底部で、体部下位に指頭圧痕、底部外面に静止糸切痕が残る。

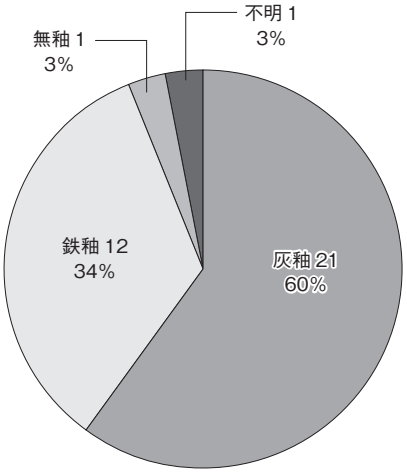
越中瀬戸は66点を図化した。越中瀬戸は、完形のものが複数点あり、他の遺物に比べ遺存状態の良いものが多い。皿35点（72～106）、椀６点（107～112）、匣鉢11点（113～123）､擂鉢８点（124～131）､壺５点（132～136）、蓋１点（137）がある。ここでは、水指を含む筒状の鉢を匣鉢とした。

皿は状態の良いものが多く、ＳＤ２やＳＤ７、ＳＤ21の埋土上位から出土した。主となるのは、内外面底部と高台付近が無釉となる内禿皿で、体部が丸みをもって立ち上がる丸皿（73・93）、やや丸みをもって立ち上がり、口縁端部が端反り風となるもの（74・75・77・78・80・86・92・100・102・105）、体部下半から口縁部にかけて直線的にのびるもの（81・85・




**グラフ２　越中瀬戸器種別組成**

90・91）がある。釉は、灰釉のものと鉄釉のものがあるが、灰釉を施すものが多く、21点で60％をしめる。鉄釉の皿12点には底部から口縁部が屈曲して直立する、いわゆる「向付」と呼ばれる形態の皿（103・104）やひだ皿（97）を含む。85は無釉の皿である。見込みに印花を押捺するもの（72・73・93・96・99・101～103）があり、印花には16弁菊（72・99）、12弁菊（93・102）、５弁桜（73）、井の字状（103）、花？（101）など多様なものがある。73は内面に櫛状工具による同心円を巡らし、見込みには重ね焼き痕を掻き取った跡がある。見込みに重ね焼き痕をとどめるものは73～76・86・88・96・99・101・102・106がある。78・86・89・93～96・99・103・106は内面に釉止めの段をもつ。高台裏に墨書がみられるものは、90～93・95･101･103があり、100は見込みに墨痕が残る。墨書には「○」や「△」などの記号と、文字がある。皿の中には「向付」や体部が直線的にのびる器形のものなど登窯製品が含まれているが量的には少なく、主体となるのは大窯製品のものとみられ、16世紀末～ 17世紀前半代のものである。椀は天目茶椀（107･108）と、体部が丸みをもち口縁部が直線的に立ち上がる丸椀（109～112）があり、いずれも鉄釉が施され、底部外面、高台付近は無釉である。




**グラフ３　越中瀬戸皿釉別組成**

匣鉢は体部が直立し筒状を呈するもので、錆釉を施すもの（113・116・119・122・123）、鉄釉を施すもの（114・117・120）、灰釉を施すもの（115）、無釉のもの（118・121）がある。113は内外面に錆釉がかかり、外面に櫛状工具による波状文が施されるもので、水指に使われたか。115は口縁部内外面に灰釉が施された筒状の鉢で、火入れか。118は口縁端部に煤が付着する。120・121・123の底部には回転糸切痕がみられる。

擂鉢は、全面に錆釉が施され、底部に回転糸切痕が残る。口縁部の形態がわかる資料はない。124は3.3cm幅13条の卸目を右回りの放射状に施文し、見込みは六角形状に施す。体部下半の内外面に指頭圧痕が残り、底部外面は煤けている。125は2.7cm幅10条の卸目が左回りの放射状に施文される。卸目の密度は高く重なり合うように隙間なく施され、見込みは曲線状の施文である。外底面に煤が付着する。127は2.5cm幅10条、128は2.5cm幅９条の卸目が右回りの放射状に施文される。見込みは曲線状に施文されるが、いずれも摩耗して不鮮明である。127の内面には重ね焼き痕が残り、煤が付着している。外底面には指頭圧痕が残る。128は外面から一部断面にかけて煤けており、割れた後に被熱したか。130は2.8cm 13条の卸目が右回りの放射状に施され、見込みは曲線状に施文する。126は3.5cm 13条、129は2.9cm 10条、131は2.3cm 13条の卸目で、131の卸目は条が細かい。

壺類は５点あり、内外面に錆釉が施されるもの（132・135）と、鉄釉が施されるもの（133・134・136）がある。132は錆釉がかかる壺で、丸く張った肩から屈曲し、短い口縁部が立ち上がる。134・136は薄造りで、筒状の体部に、すぼまった口縁部をもつ。鉄釉に灰釉が流しかけられる壺で、同一固体の可能性がある。

137は蓋と考えられる。無釉で、外面に一部煤が付着する。

近世陶磁器は唐津４点（138・140～142）、伊万里１点（143）、産地が不明なもの１点（139）があ

る。138は唐津の皿で、内湾気味の体部で口縁端部が外方に反る。見込みに２箇所、高台に１箇所目跡が残る。灰オリーブ色を呈する灰釉が内外面に施され、高台付近は無釉となる。139は産地不明の近世陶器。体部を面取りする皿（小杯）で、灰白色を呈する長石釉もしくは石灰釉が施される。薄造りで、やや軟質な胎土である。140・141は唐津の灰釉椀。141は削り出し高台で、高台付近は無釉となる。142は灰白色を呈する長石釉もしくは石灰釉が施される椀の底部で、高台を削り出す。143は伊万里の筒型湯飲み椀。外面は唐草文、口縁部内面には四方襷文を描く。18世紀後半のもの。

### （２）木製品（第31・32図、図版14）

木製品には漆椀（144･145）、底板（146）、棒状加工品（147）、箸（148）、曲物（149）、杭･柱（150～152）がある。144は43地区出土の内外面黒色漆塗りの椀で、高台は剥離している。不明瞭だが高台裏に赤色漆による朱書きがある。145～149はＳＥ78の埋土下位からの出土品であるが、破損した状態のものばかりで、井戸に廃棄されたものと考えられる。145は内外黒色漆塗りの椀である。146は直径約24cmのスギの円形板で、裏面は炭化している。穿孔が３箇所ある。147は端部を面取りした用途不明の棒状加工品で、緩く弧を描く。148は箸。ムクロジの芯持ち材で、樹枝を加工したもの。149は曲物片で、釘穴とみられる小孔があく。材はヒノキ。150はＳＤ２北東角付近の東側肩出土で、突き刺したような状態で出土している。150の他にも同様に突き刺したような樹枝や杭があり、護岸施設などの一部と考えられる。150は緩く弧を描く直径2.4cmの杭で、表面は腐食のため不明瞭であるが、先端は削られ尖っている。151・152はＳＫ100出土の柱根で、どちらも芯持ち材である。152の下端は芯に向かって削られる。153はＳＥ78出土の杭で、表面に樹皮が残る。下端を削り出し尖らせている。154はＳＫ101出土柱根で、両端が欠損する。

### （３）石製品（第33図、図版13・14）

石製品には五輪塔空風輪（155）、砥石（156）がある。155は石英粒子の粗い角閃石安山岩製の空風輪で、空輪の一部は摩滅し扁平な面を成す。空輪と風輪の直径がほぼ同じ円筒状の石材から、くびれと宝珠の頂部を削り出している。156は凝灰岩製の砥石で、裏面は欠損している。

### （４）金属製品（第33図、図版13）

金属製品は銭貨（157・158）がある。157は洪武通寶で、1368年初鋳の明銭、158は元豊通寶で1078年初鋳の北宋銭である。どちらも多量に鋳造されたもので、日本に相当量が輸入され、国内で広く流通した。日本国内の出土量が多い渡来銭の銭種上位20位に入る銭種である。

**注**

注１　河西健二　1993「越中の様相」『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』北陸中世土器研究会

注２　堀内大介　2019「越中における近世成立期の土師器皿の諸様相　富山城跡出土資料から」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相　城下町とその周辺遺跡の土師器皿を中心に』（公財）石川県埋蔵文化財センター

注３　珠洲市立珠洲焼資料館　1989『珠洲の名陶』

**参考文献**

越前慎子　1996「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

京田良志　1976『富山の石造美術』富山文庫５　巧玄出版

永井久美男　2002『中世出土銭の分類図版』高志書院

吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

宮田進一　1988「越中瀬戸の窯資料（1）」『大境』第12号　富山考古学会

# ５　自然科学分析

## （１）樹種同定

### ①　はじめに

富山県富山市の水橋池田舘遺跡から出土した木製品の樹種同定を行なった。

### ②　試料と方法

試料は、43地区で出土した木製品1点、井戸跡ＳＥ78で出土した木製品５点、土坑ＳＫ100で出土した木製品1点の、計７点である。いずれも中世後半～近世の木製品と考えられている。

樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

### ③　結　果

同定の結果、針葉樹ではスギとヒノキの２分類群、広葉樹ではブナ属とムクロジの２分類群の、計４分類群がみられた。ブナ属が３点で、スギが２点、ヒノキとムクロジが各1点であった。同定結果を第６表に、一覧を第７表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、写真図版に光学顕微鏡写真を示す。

**第６表　水橋池田舘遺跡出土木製品の樹種同定結果**

| 樹種/器種 | 漆器椀 | 曲物側板 | 底板 | 箸 | 柱 | 棒状加工品 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ヒノキ | | 1 | | | | | 1 |
| スギ | | | 1 | | 1 | | 2 |
| ブナ属 | 2 | | | | | 1 | 3 |
| ムクロジ | | | | 1 | | | 1 |
| 合計 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 |

**Ａ．ヒノキ**　*Chamaecyparis obtusa*（Siebold et Zucc.）Endl.　ヒノキ科　写真図版　1a-1c（No.6）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ１～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、１分野に２個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

**Ｂ．スギ**　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　ヒノキ科　写真図版　2a-2c（No.3）、3c（No.7）

道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ２～15列となる。分野壁孔は孔口が大きく開いた大型のスギ型で、１分野に普通２個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

**Ｃ．ブナ属**　*Fagus*　ブナ科　写真図版　4a-4c（No.1）、5a-5c（No.4）

小型の道管が単独ないし２～３個複合して密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、幅１～10列である。

ブナ属にはブナとイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なブナの材は、重硬で強度があるが、切削加工は困難ではない。

**D．ムクロジ**　*Sapindus mukorossi* Gaertn.　ムクロジ科　写真図版　6a-6c（No.5）

年輪の始めにやや大型の道管が１～２列並び、晩材部では急に径を減じた道管が数個複合して配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状、連合翼状～帯状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、幅１～４列となる。

ムクロジは関東、新潟、富山県境以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木の広葉樹である。材は中庸ないしやや重硬である。

**④　考　察**

漆器椀は、２点ともブナ属であった。ブナ属は堅硬だが加工性が良く、漆器の木胎としてよく利用されている（伊東ほか，2011）。富山県内で確認されている室町時代の漆器椀では、トチノキやケヤキと共にブナ属も多くみられる（伊東・山田編，2012）。

曲物側板はヒノキ、底板はスギであった。ヒノキとスギは真っすぐで加工性の良い樹種である（伊東ほか，2011）。富山県内で確認されている室町時代の曲物の側板にはサワラとスギがみられ、ヒノキはみられないが、底板ではヒノキとスギ、アスナロなどがみられている。

箸はムクロジであった。ムクロジはやや堅硬な樹種である（平井，1996）。富山県内で確認されている室町時代の箸では、スギやヒノキなどの針葉樹が多く確認されている一方、下老子笹川遺跡の室町時代～江戸時代頃の箸では、広葉樹のヤナギ属が確認されている（伊東・山田編，2012）。

柱は、スギであった。スギは真っすぐで加工性の良い樹種である。富山県内で確認されている室町時代～江戸時代の柱は、大半を広葉樹が占めており、中名Ⅰ・Ⅴ遺跡の戦国時代～江戸時代初期の柱で針葉樹が１点みられるのみである（伊東・山田編，2012）。

棒状加工品は、ブナ属であった。ブナ属は、堅硬だが加工性の良い樹種である（伊東ほか，2011）。

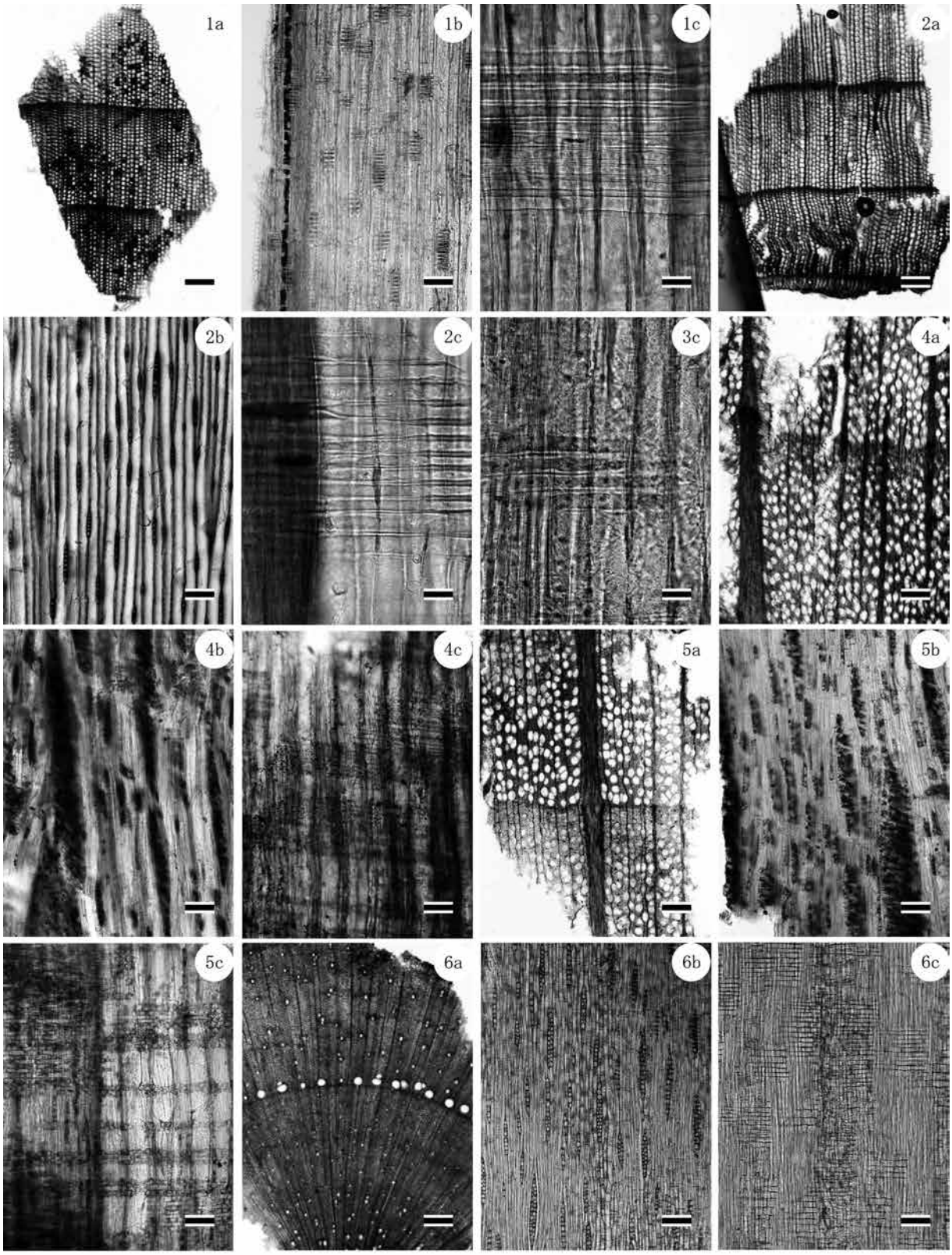
（株式会社パレオ･ラボ　小林克也）

**引用文献**

平井信二　1996『木の大百科－解説編－』642p　朝倉書房
伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂　2011『日本有用樹木誌』238p　海青社
伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』449p　海青社

**第７表　水橋池田舘遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧**

| 試料No. | 遺物No. | 台帳No. | 地区 | 遺構 | 器種 | 樹種 | 木取り | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 144 | M180001 | T43 | | 漆器椀 | ブナ属 | 横木取り | 中世後半～近世 | 内外黒色漆 |
| 2 | 145 | M180002 | | SE78 | 漆器椀 | ブナ属 | 横木取り | 中世後半～近世 | 内外黒色漆 |
| 3 | 146 | M180003 | | SE78 | 底板 | スギ | 柾目 | 中世後半～近世 | 穿孔３か所 |
| 4 | 147 | M180005 | | SE78 | 棒状加工品 | ブナ属 | 芯去削出 | 中世後半～近世 | |
| 5 | 148 | M180006 | | SE78 | 箸 | ムクロジ | 芯持丸木 | 中世後半～近世 | 両端欠損 |
| 6 | 149 | M180007 | | SE78 | 曲物側板 | ヒノキ | 追柾目 | 中世後半～近世 | 釘孔あり |
| 7 | 151 | M180010 | | SK100 | 柱 | スギ | 芯持丸木 | 中世後半～近世 | No.1 |




**写真図版　水橋池田舘遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真**

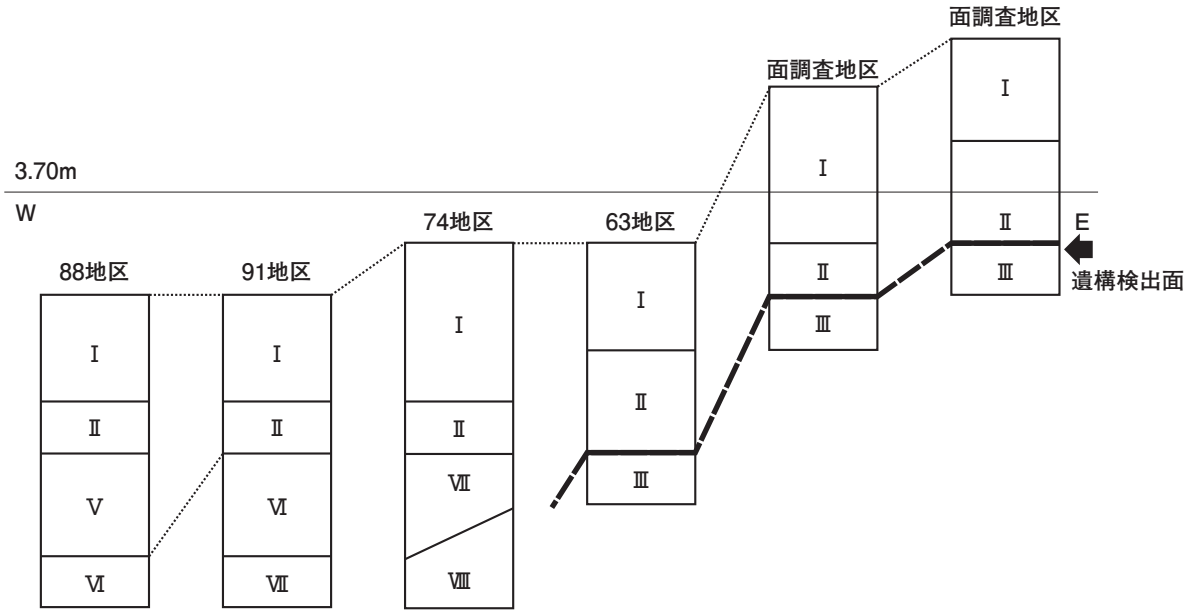
1a-1c. ヒノキ(No.6)、2a-2c. スギ(No.3)、3c. スギ(No.7)、4a-4c. ブナ属(No.1)、5a-5c. ブナ属(No.4)、6a-6c. ムクロジ（No.5）

a：横断面（スケール=250μm）、b：接線断面（スケール=100μm）、c：放射断面（スケール=1-3:25μm・4-6:100μm）

# 6　総　括

## （1）地理的環境について

水橋池田舘遺跡の位置する白岩川と常願寺川に挟まれた低地部は、富山県内でも有数の氾濫原（自然堤防帯）が発達した地域の一つである。氾濫原（自然堤防帯）は、緩やかに流れる河川の蛇行域、扇状地の末端部などで発達するが、富山県内では、当遺跡の立地する白岩川下流から神通川下流域にかけての富山平野、射水平野、庄川下流から小矢部川下流域、氷見平野などが顕著である。集落や古くからある交通路は、より土地の安定した自然堤防などの微高地上に立地するものが多く、当遺跡もこれに該当する。当遺跡は、明治24(1891)年にヨハネス・デ・レーケの派遣を受けて始まる常願寺川の改修工事により白岩川と分離される以前の常願寺川が白岩川と合流する地点の約300m南方に立地している。常願寺川の流路は、東から西へ移動したことが扇状地右岸の河岸段丘の配列から推定されており、明治の改修前の河道になったのは室町時代末期頃、16世紀半ば以降と考えられている[注1]。当遺跡では、古代以前の遺構は確認できず、本格的な集落が形成されるのは中世になってからと考えられ、常願寺川の河道が安定した頃と時期的に一致する。




**水橋池田舘遺跡　基本層序模式**

## （2）遺構の分布について

当遺跡では溝26条、堀２条、井戸14基、土坑95基を検出した。これらの遺構は現日吉社南側の面調査地区周辺に分布する。現日吉社周辺は、池田舘の集落が立地する白岩川左岸の自然堤防状の微高地南端部分にあたる。平成29年度に県教委によって実施された試掘調査では、１～５・7-1・7-3・８・9-1・10Ｔで現地表面から0.3～１ｍの深さに地山があり、北側の１～３Ｔでは中世～近世の土坑や溝が確認された。10Ｔ以南は表土以下に黒色粘質土が厚く堆積し、湿地状の地形が広がるとみられている。今回の調査では、面調査地区を中心とした遺跡東側、白岩川左岸に連なる自然堤防上に集落が営まれ、その南側・西側にはアシやヨシが繁茂する湿地が広がり、北側は旧河道もしくは洪水氾濫原であることがわかった。

### （3）屋敷跡について

面調査地区で確認したＬ字状に曲がる２本の溝ＳＤ１・ＳＤ２は、４・５・58・59・61・62地区でその延長部が確認でき、方形に巡る区画溝で、屋敷地（居館）を二重に囲繞する堀と考える。当遺跡で確認できた屋敷跡は、やや東西に長い方形区画で、東西約50m、南北約35mと推測され、半町（約50m）四方の規模と考えられる。中世の居館の規模には、一町（約100m）四方、半町（約50m）四方の２種が析出でき、その居住者間には階層差が想定され、一町四方（方一町）には在地領主層、半町四方（方半町）には村落領主や土豪層が居住すると考えられている[注2]。

県教委実施の平成29年度調査結果から、東側は白岩川の西岸間際まで遺構の広がりが確認でき、現日吉社周辺を中心とした中世～近世にかけての集落は、自然堤防上に立地している。平成30年度調査の58～71地区西側以西では地山は確認できず、湿地状の堆積となることから、集落の西限はこの辺りになるとみられ、二重の堀を巡らす屋敷跡は集落の西南隅に位置していると想定出来る。

近世絵図などからは、白岩川左岸に沿って池田町と池田舘を結ぶ南北道があり、屋敷跡はこうした道路沿いに面していたと考えられる。また、時代は下るが『増補加越能大路水径』には池田舘と白岩川対岸の石政との間に渡しがあったとの記述があり[注3]、文政10(1827)年『新川郡白岩川筋池田三箇開之内古川分間絵図』には「石政－池田舘間船渡」とあることから、古くから池田舘・石政間に白岩川の渡し場があったことがわかる。屋敷跡は渡し場近くにあり、陸路・水路の接点に立地している。堀内部の屋敷本体についてはほとんど調査地区外であるため詳細は不明だが、堀外の井戸は出土遺物が少ないのに対して、堀内部のＳＥ78からは越中瀬戸・漆器・箸・曲物など遺物が出土し、堀の内と外では格差がある。半町四方の規模を有することからも、池田舘村の有力者層の屋敷と考えられる。

### （4）歴史的背景について

当遺跡で確認された二重の堀で囲まれた屋敷跡は、区画内の井戸ＳＥ78埋土下位から越中瀬戸の灰釉内禿皿が出土している。外堀ＳＤ２埋土下位からは中世土師器・珠洲・青磁、埋土上位から越中瀬戸を出土しており、17世紀半ば頃までは機能していたと考えられる。出土遺物からは、15世紀代に出現、16世紀後半～17世紀前半を中心とし、伊万里・唐津などの肥前陶磁器がほぼみられないことから18世紀には下らない時期に衰退し耕地化されたと考えられる。外堀ＳＤ２と新旧関係がある遺構は複数あるが、出土遺物からは大きな差ではなく、ほぼ同時期の範疇で捉えられる。当遺跡で確認された遺構は、中世末から近世初頭の集落跡で、現集落の前身となるような集落と考えられよう。

屋敷跡の最盛期と考えられる16世紀後半～17世紀前半の頃の白岩川流域の当該地域は、越後の上杉勢と織田信長方の佐々成政の勢力が争う最前線の地域で、当遺跡の東方約700mの水橋小出地内、白岩川・新橋川・小出川に囲まれた低地部に位置する小出城は天正９(1581)年３月の上杉勢による小出城攻めなど文献[注4]にも度々登場する。文禄４(1595)年以後は前田利家の支配下となり、17世紀初め頃には常願寺川東岸の当該地域を含む新川郡は加賀藩領となっている。

### （5）当遺跡と地名について

土塁や堀などの防御施設をもつ屋敷は一般に「たて」と呼ばれ、東北地方をはじめ国内各地には、その所在する土地の名などを冠して「館山」「古舘」などの地名として残されている。富山県においても富山市水橋舘町、八尾館本郷、上市町舘、舟橋村仏生寺字館中、滑川市常光寺字館田、朝日町三枚橋字館、南保字大館などの地名が残り、伝承や城館遺跡の存在が確認されている。

当遺跡のある水橋池田舘の村名は、『越中志徴』[注5]によると池田氏の館があったことに由来するという。史料では、正保元(1644)年『正保郷帳』[注6]には「池田ノ館村」とあり、正保～万治年間(1644

～1660)作成の越中国全体を描いた現存する最古の絵図とされる『越中国四郡絵図』[注7]では「館村」、元禄15(1702)年『越中国高都合并郡色分目録（元禄国絵図)』[注8]では「池田舘村」となっており、村名の初現がどこまでさかのぼるのかは不明であるが、少なくとも17世紀には村名として確立していることがわかる。当遺跡で確認された二重の堀をもつ屋敷跡（居館）は、地名の由来と伝承される池田氏の居館とかかわるものであるかは不明であるが、「池田舘」の村名確立前後の時期に存在していたと考えられる[注9]。

## （6）遺物について

出土遺物について、組成の面からみてみたい。出土遺物は少なく弥生土器、須恵器、中世土師器、中国製青磁・白磁、珠洲、越前、瓦質土器、越中瀬戸、唐津、伊万里があり、弥生土器、須恵器など古代以前にさかのぼる遺物は周辺からの流れ込みと考えられる。出土遺物のうち、図化した中世～近世の土器・陶磁器を対象とし、図化したものを１個体１点として数えた。中世にさかのぼる中国製青磁・白磁、珠洲などが一定数あるが、越中瀬戸が47.8％と半数近くを占め、唐津・伊万里などの肥前陶磁器はわずかしかない[注10]。中世から近世にかけての時期の県内遺跡と組成を比較してみると、一定数みられる瀬戸美濃や越前の出土がなく、肥前陶磁器の比率が低い。当遺跡出土遺物は16世紀後半～17世紀前半のものが主体をなし、越中瀬戸は皿を中心としつつ、椀・擂鉢・壺・匣鉢（水指・火入れを含む）などの多様な器種が出土している。県内の16世紀末～ 17世紀初め頃は、越中瀬戸は椀･皿･擂鉢の三種を主要な流通製品としており、次第に瀬戸美濃の椀・皿、越前の擂鉢に取って替わっている[注11]。当遺跡で瀬戸美濃・越前が確認できないことは、県内の当該期の越中瀬戸が瀬戸美濃や越前などの国産陶磁器に替わり流通していく具体的事例と考えられよう。

越中瀬戸の成立期の窯は、上市川上流、白岩川上流の丘陵部にある。白岩川の中流域以下は勾配が緩やかで水量が多く水運が発達しており､現白岩ダムのある立山町白岩から河口の水橋までの３里(12km）の間には大正時代まで舟運が運行していた。水橋金広・中馬場遺跡や水橋専光寺遺跡など白岩川流域に越中瀬戸の出土比率の高い遺跡があることから、こうした地の利を生かし、白岩川を利用した流通経路の存在を想定出来る。17世紀以降の県内遺跡で越中瀬戸の比率が高いのは、生産地周辺、越中瀬戸の集積地、農村集落、立山信仰関連遺跡などであるという[注12]。当遺跡は、白岩川の水運を利用した越中瀬戸の流通経路上にある近世農村集落といえよう。16世紀末～17世紀前半という時期は、中世土師器、中国製磁器、瀬戸美濃、珠洲などの中世的な土器組成から、越中瀬戸・肥前陶磁器からなる組成への変化期であり、当遺跡はその過渡期的な在り方をしているのであろう。

**第８表　水橋池田舘遺跡遺物組成一覧**　※報告書掲載遺物の点数による

| 遺跡名 | 所在地 | 中世土師器 | | 中国製磁器 | | 瀬戸美濃 | | 珠洲 | | 越前 | | 瓦質土器 | | 越中瀬戸 | | 肥前 | | その他 | | 点数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水橋池田舘 | 富山市 | 30 | 21.7% | 8 | 5.8% | | | 28 | 20.2% | | | | | 66 | 47.8% | 5 | 3.6% | 1 | 0.7% | 138 | 白岩川流域 |
| 小出城跡 | 富山市 | 96 | 53.0% | 6 | 3.3% | 7 | 3.9% | 28 | 15.6% | 2 | 1.1% | 1 | 0.6% | 31 | 17.2% | 9 | 5.0% | | | 180 | 白岩川流域 |
| 水橋専光寺 | 富山市 | 11 | 15.9% | 4 | 5.8% | 8 | 11.6% | 13 | 18.8% | 3 | 4.3% | 1 | 1.4% | 13 | 18.8% | 10 | 14.5% | 6 | 8.7% | 69 | 白岩川流域 |
| 水橋金広・中馬場 | 富山市 | 660 | 40.0% | 56 | 3.4% | 53 | 3.2% | 329 | 20.0% | 74 | 4.5% | 3 | 0.2% | 418 | 25.0% | 32 | 1.9% | 19 | 1.2% | 1644 | 白岩川流域 |
| 弓庄城跡 | 上市町 | 380 | 38.6% | 146 | 14.8% | 161 | 16.4% | 114 | 11.6% | 25 | 2.5% | 5 | 0.5% | 134 | 13.6% | 17 | 1.7% | | | 982 | 白岩川流域 |
| 安田城跡 | 富山市 | 74.5 | 96.1% | 0.8 | 1.0% | 1.2 | 1.5% | | | | | | | 1 | 1.3% | | | | | 77.5 | |
| 安吉 | 射水市 | 50 | 21.0% | 22 | 9.3% | 21 | 8.9% | 92 | 38.8% | | | 5 | 2.1% | 31 | 13.0% | 15 | 6.3% | 1 | 0.4% | 237 | |
| 開蓙大滝 | 高岡市 | 37 | 21.0% | 43 | 24.4% | 31 | 17.6% | 16 | 9.1% | 1 | 0.6% | | | 21 | 11.9% | 27 | 15.3% | | | 176 | |
| 江尻 | 高岡市 | 62 | 15.4% | 15 | 3.7% | 17 | 4.2% | 22 | 5.5% | 1 | 0.2% | 11 | 2.7% | 114 | 28.4% | 139 | 34.6% | 21 | 5.2% | 402 | |
| 石名田木舟 | 高岡市・小矢部市 | 159 | 29.1% | 167 | 30.6% | 93 | 17.0% | 30 | 5.5% | 23 | 4.2% | 10 | 1.8% | 40 | 7.3% | 15 | 2.7% | 9 | 1.6% | 546 | |
| 地崎 | 小矢部市 | | | 5 | 1.4% | 6 | 1.6% | 1 | 0.3% | | | | | 192 | 52.3% | 152 | 41.4% | 11 | 2.9% | 367 | |
| 梅原胡摩堂 | 南砺市 | 1748 | 48.3% | 404 | 11.2% | 275 | 7.6% | 352 | 9.7% | 36 | 1.0% | 9 | 0.2% | 184 | 5.0% | 431 | 11.9% | 175 | 4.8% | 3614 | |

**注**

注１　国土地理院北陸地方整備局ほか　2006『古地理に関する調査　古地理で探る越中・加賀の変遷』

注２　中井　均　1987「中世城館の発生と展開」『物質文化』48
　　広瀬和雄　1988「中世村落の形成と展開」『物質文化』50

注３　石黒信由　1835『増補加越能大路水径』に「池田舘村間歩渡川幅五十間」とある。

注４　富山県　1982『富山県史』通史編Ⅲ　近世　上、『信長公記』十四など。

注５　森田柿園　1973『越中志徴』復刻版　富山新聞社
　　『越中志徴』は江戸時代末に加賀藩士森田柿園(1823～1908)が富山藩内の記録をまとめ、明治初期に成立した。

注６　『正保郷帳』は、幕府が諸大名に命じて国単位で作成させ、村名、村高などがまとめられた。正保元(1644)年に命じられ、数年がかりで提出された。幕府に提出されたものは大半が消失しているが、国元に残るものは多い。

注７　『越中国四郡絵図』小矢部市図書館蔵。正保～万治年間(1644～1660)作成。

注８　『越中国高都合并郡色分目録（元禄国絵図)』石川県立図書館蔵。元禄10(1697)年に幕府が命じ、元禄15(1702)年4月に提出された国絵図の伺絵図（下図)。

注９　平成30年度調査中に地元のかたから面調査区周辺に「ヤシキダ」という呼称があるとご教示いただいたが、詳細については土地改良区などでは確認が取れなかった。

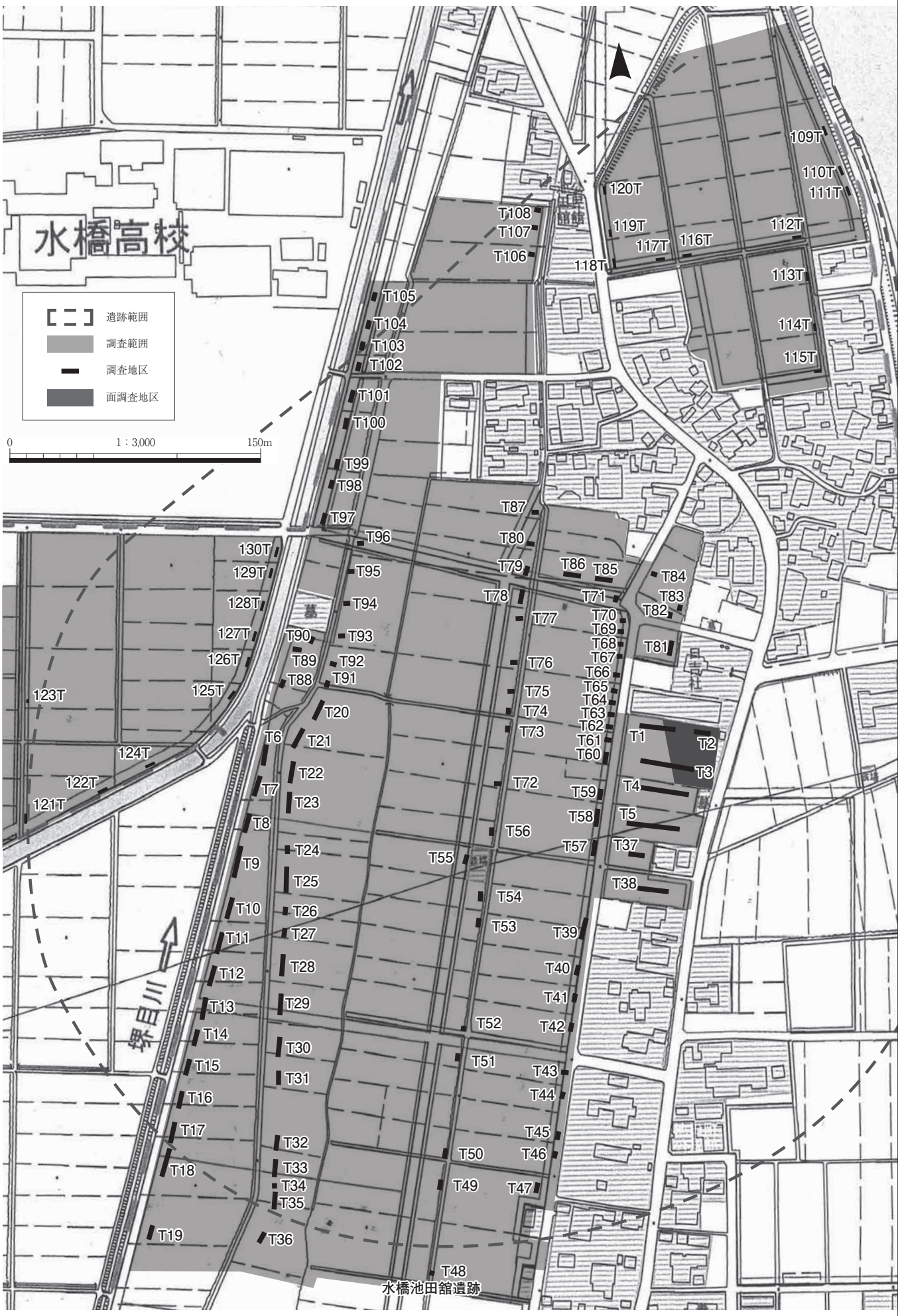
注10　越前（２点)、瓦質土器（１点）は溝から出土しているが、いずれも小片で部位も不明である。
　　図化困難な破片であるため、ここでは組成一覧の対象から除外している。

注11　宮田進一　1997「越中瀬戸の変遷と分布」『中・近世の北陸　考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会

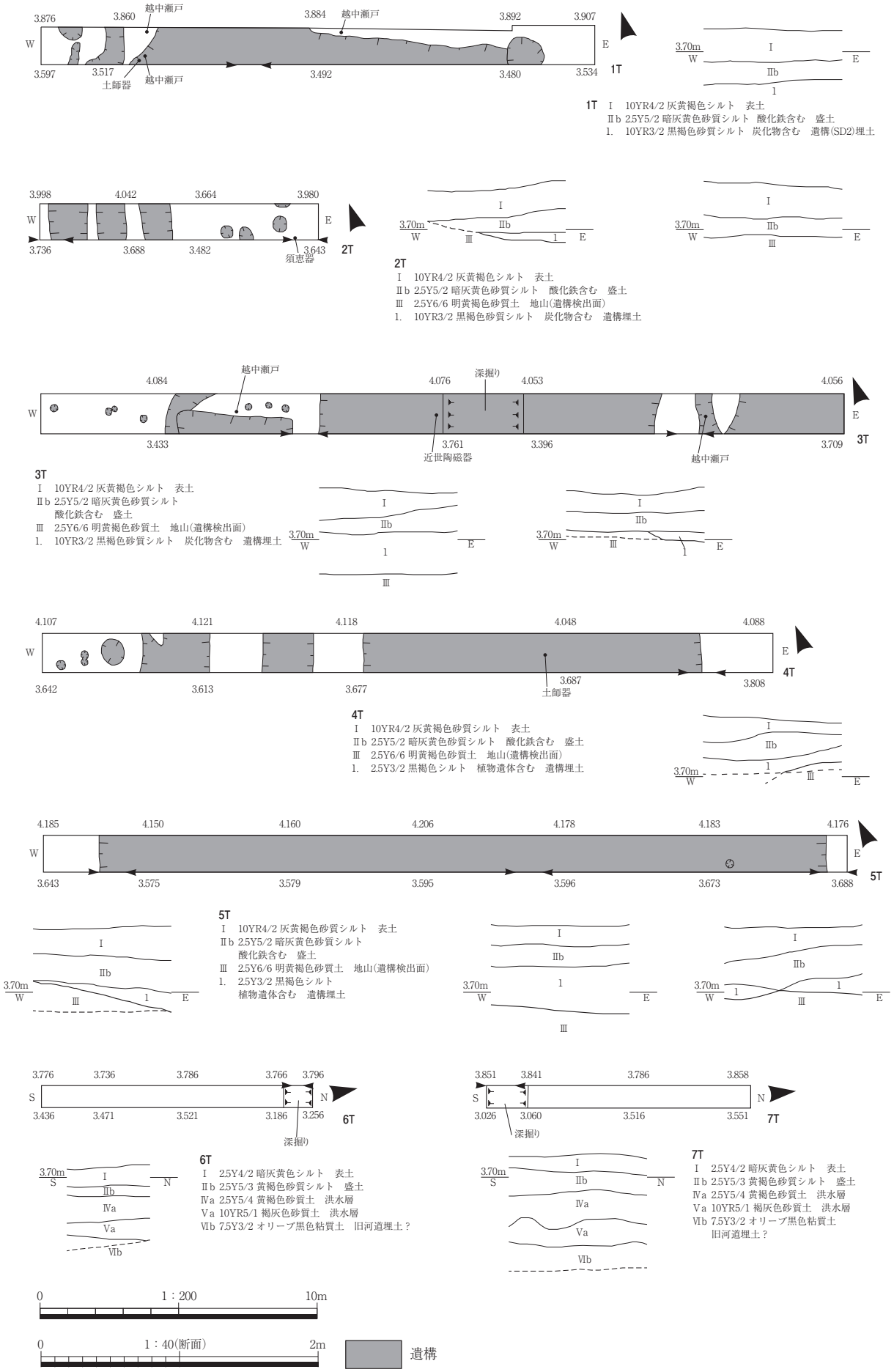
注12　宮田進一　1998「越中瀬戸の成立と展開」『情報と物流の日本史』雄山閣

**参考文献**

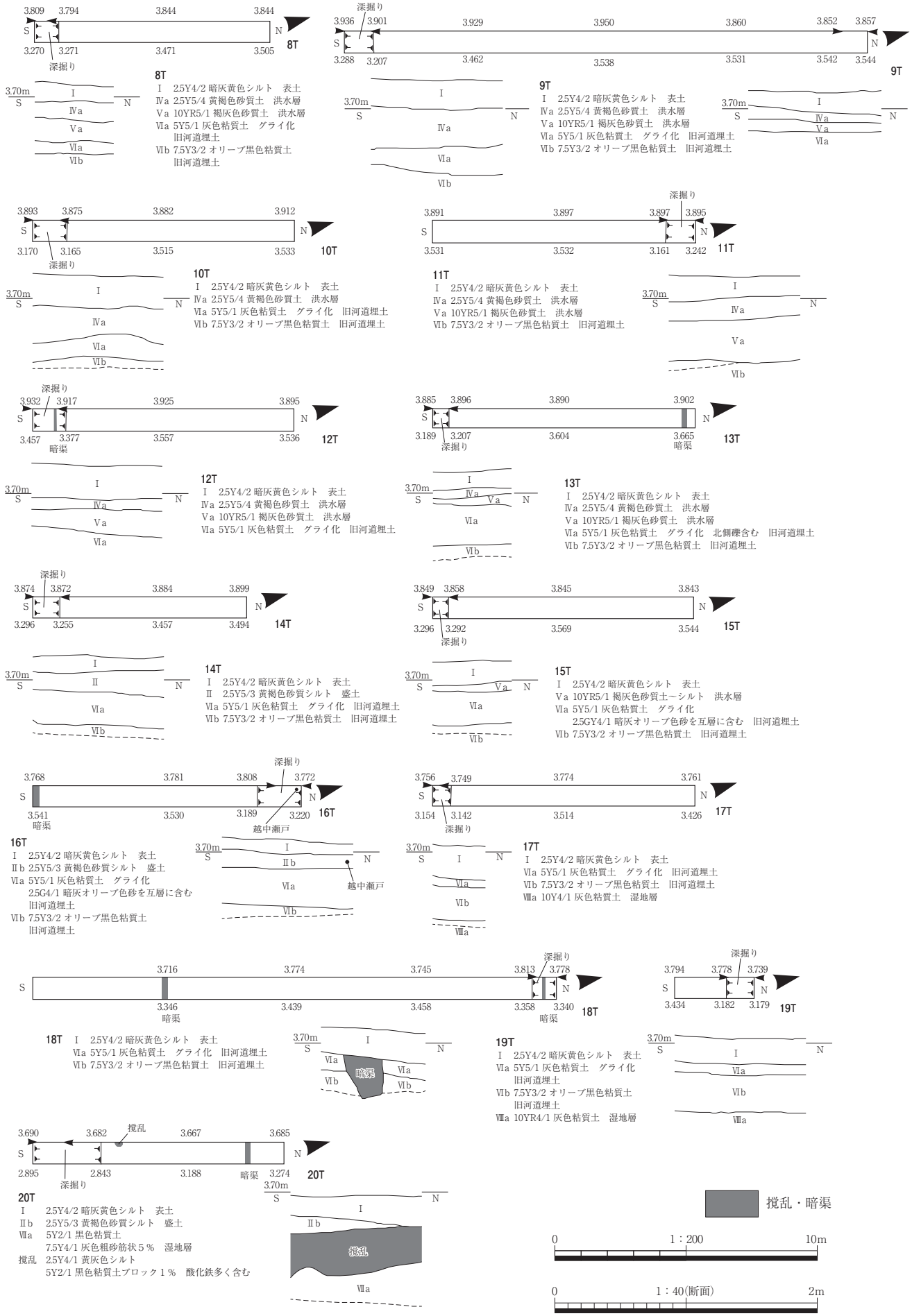
大島町教育委員会　2000『富山県大島町　八塚Ｃ遺跡』
上市町教育委員会　1981『富山県上市町　弓庄城跡緊急発掘調査概要』
上市町教育委員会　1982～1985『富山県上市町　弓庄城跡第２～５次緊急発掘調査概要』
(財)富山県文化振興財団　1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告』（遺物編）
(財)富山県文化振興財団　2000『開蓚大滝遺跡・地崎遺跡発掘調査報告』
(財)富山県文化振興財団　2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告』
(財)富山県文化振興財団　2003『江尻遺跡・簑島遺跡発掘調査報告』
(財)富山県文化振興財団　2012『水上遺跡・赤井南遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡発掘調査報告』
高瀬重雄監修　1994『富山県の地名』日本歴史地名大系第16巻　平凡社
富山県　1982『富山県史』通史編Ⅲ　近世　上
富山県　1989『富山県史』通史編Ⅳ　近世　下
富山県　1992『10万分１富山県地質図説明書』内外地図株式会社
富山県　2006『富山県中世城館遺跡総合調査報告書』富山県埋蔵文化財センター
富山市　1987『富山市史』通史上
富山市教育委員会　2000『富山市小西北遺跡発掘調査概要』
富山市教育委員会　2001『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2005『富山市水橋専光寺遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2006『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
富山市教育委員会　2007『富山市小出城跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会　2009『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』
水橋町役場　1966『水橋町郷土史』



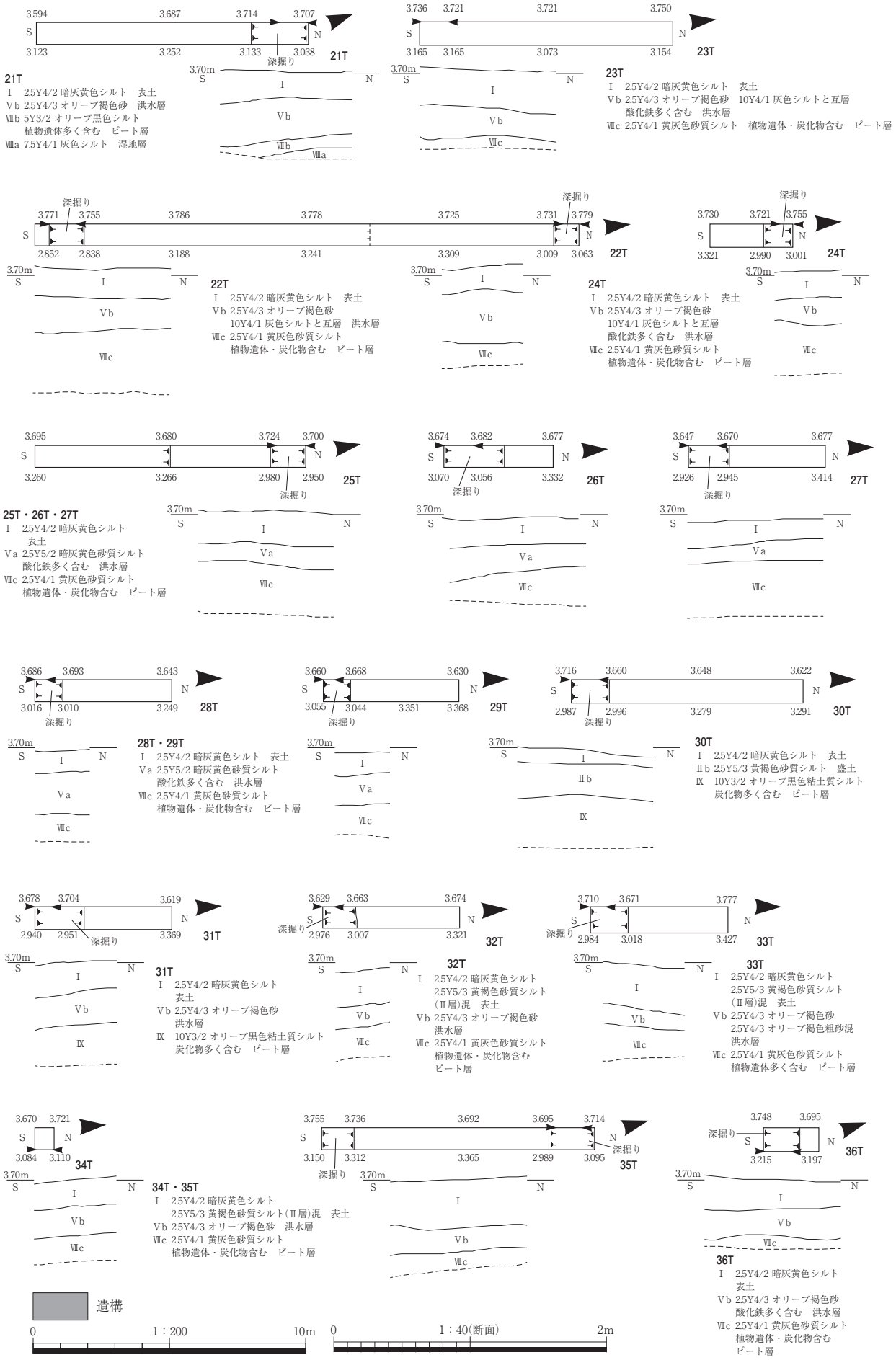

**第４図　水橋池田舘遺跡　調査地区位置図**（1/3,000）




**第５図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**
１～７地区

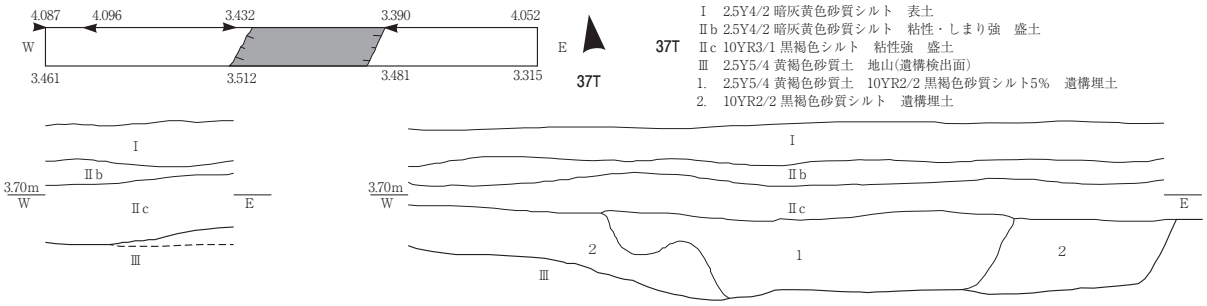



**第６図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**
８～20地区

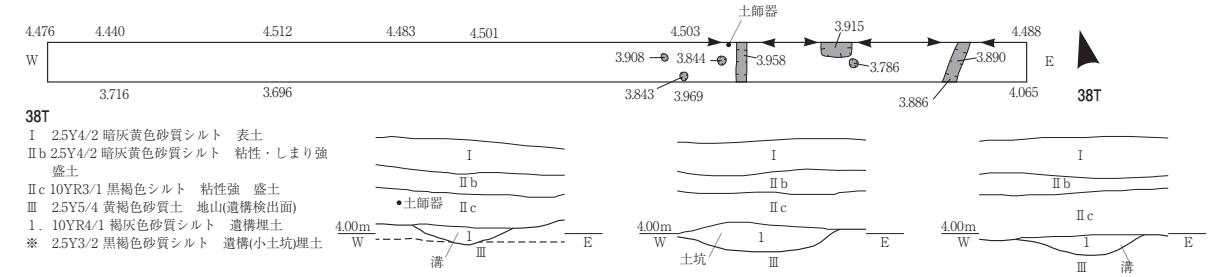



**第７図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

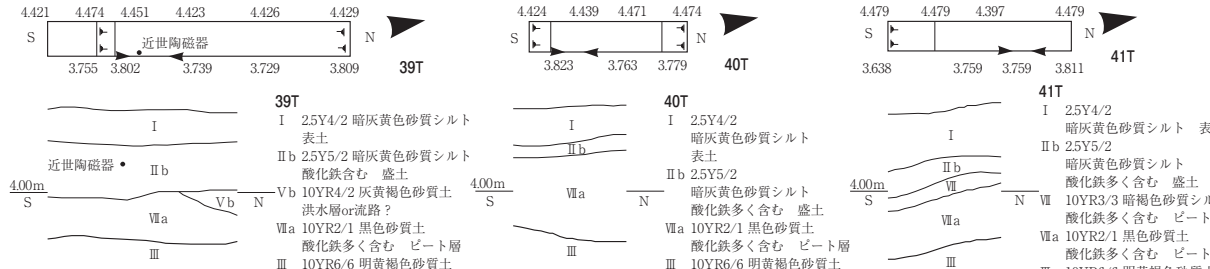
21～36地区




**37T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　粘性・しまり強　盛土
Ⅱc 10YR3/1 黒褐色シルト　粘性強　盛土
Ⅲ　2.5Y5/4 黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)
1.　2.5Y5/4 黄褐色砂質土　10YR2/2 黒褐色砂質シルト5%　遺構埋土
2.　10YR2/2 黒褐色砂質シルト　遺構埋土



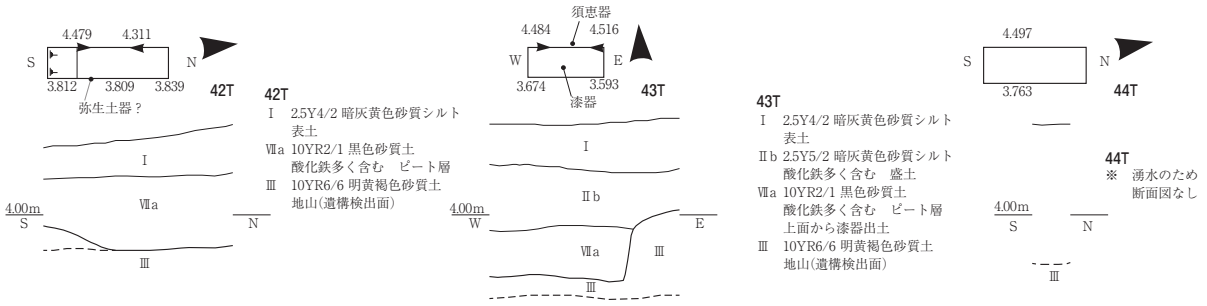

**38T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　粘性・しまり強　盛土
Ⅱc 10YR3/1 黒褐色シルト　粘性強　盛土
Ⅲ　2.5Y5/4 黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)
1．10YR4/1 褐灰色砂質シルト　遺構埋土
※　2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト　遺構(小土坑)埋土




**39T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト　酸化鉄含む　盛土
Vb 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　洪水層or流路？
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)

**40T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト　酸化鉄多く含む　盛土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)

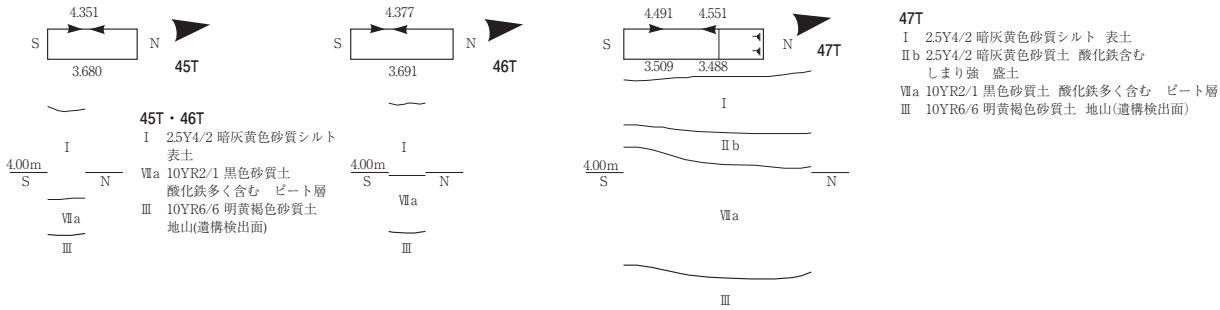
**41T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト　酸化鉄多く含む　盛土
Ⅶ　10YR3/3 暗褐色砂質シルト　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)




**42T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)

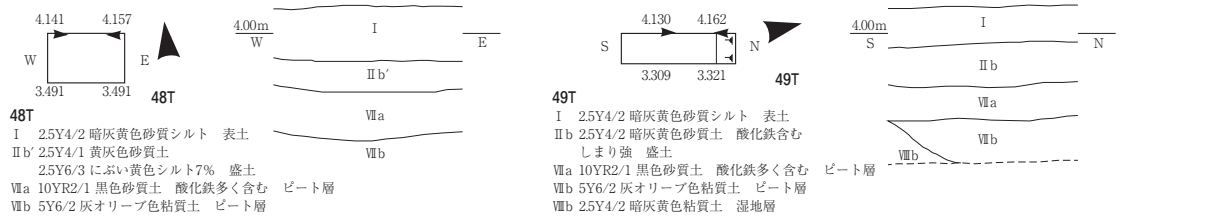
**43T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト　酸化鉄多く含む　盛土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層　上面から漆器出土
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)

**44T**
※　湧水のため断面図なし




**45T・46T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)

**47T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土　酸化鉄含む　しまり強　盛土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅲ　10YR6/6 明黄褐色砂質土　地山(遺構検出面)

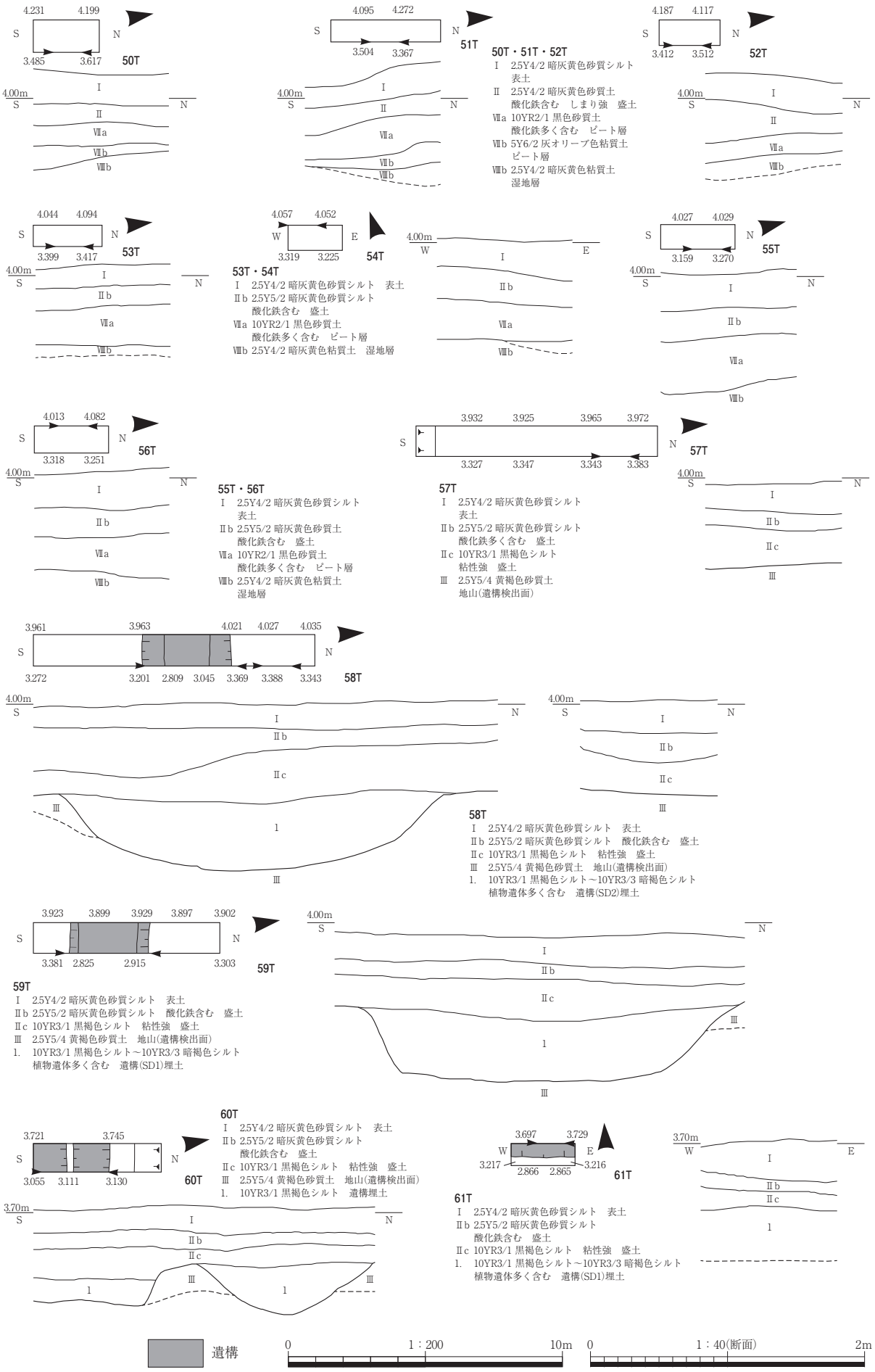



**48T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb′ 2.5Y4/1 黄灰色砂質土
2.5Y6/3 にぶい黄色シルト7%　盛土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅶb 5Y6/2 灰オリーブ色粘質土　ピート層

**49T**
Ⅰ　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　表土
Ⅱb 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土　酸化鉄含む　しまり強　盛土
Ⅶa 10YR2/1 黒色砂質土　酸化鉄多く含む　ピート層
Ⅶb 5Y6/2 灰オリーブ色粘質土　ピート層
Ⅷb 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土　湿地層

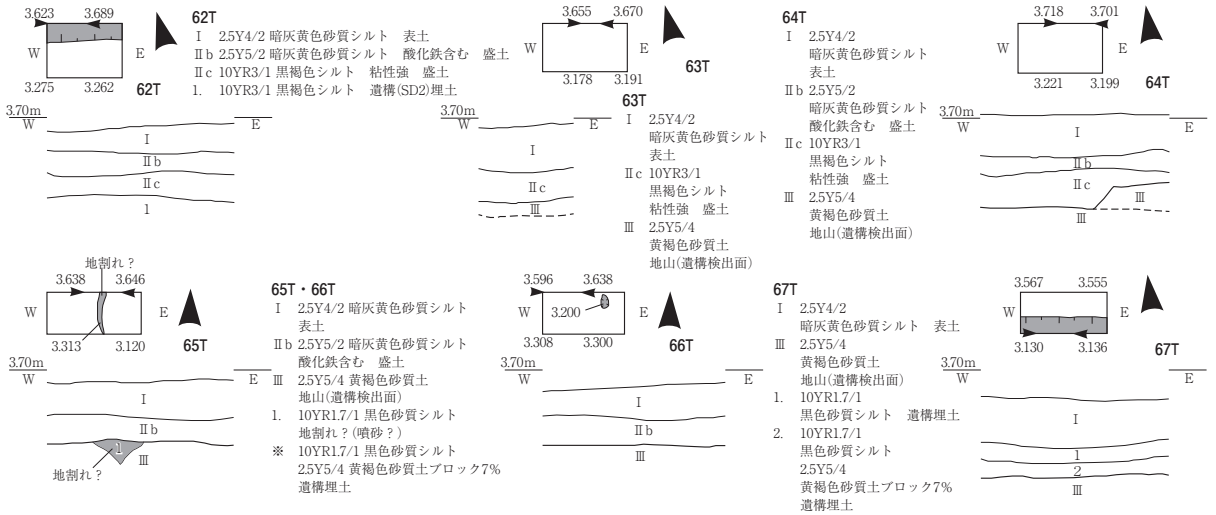
遺構　0　1：200　10m　0　1：40(断面)　2m

**第８図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**
37～49地区



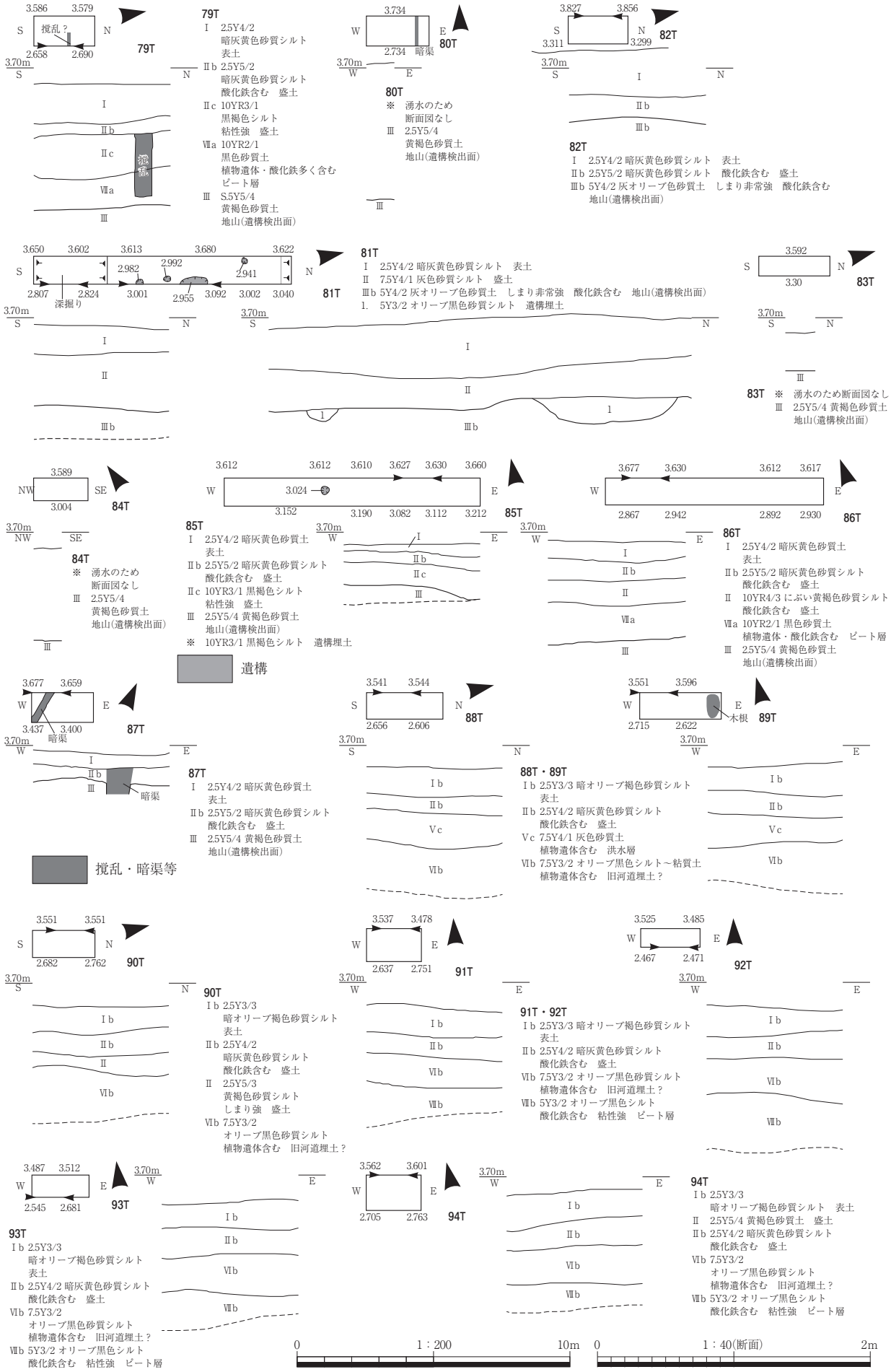

**第９図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

50～61地区



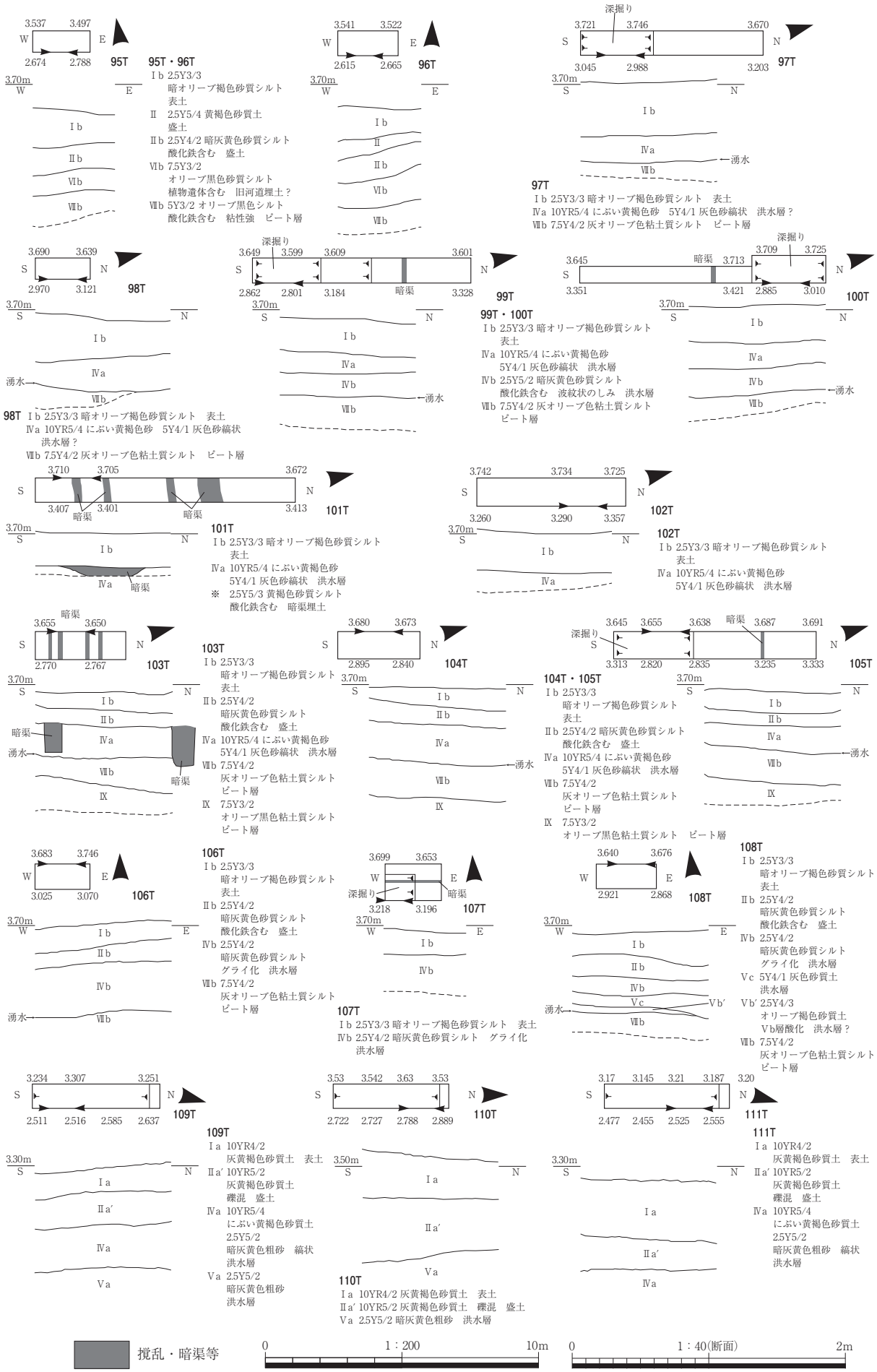

**第10図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

62～78地区



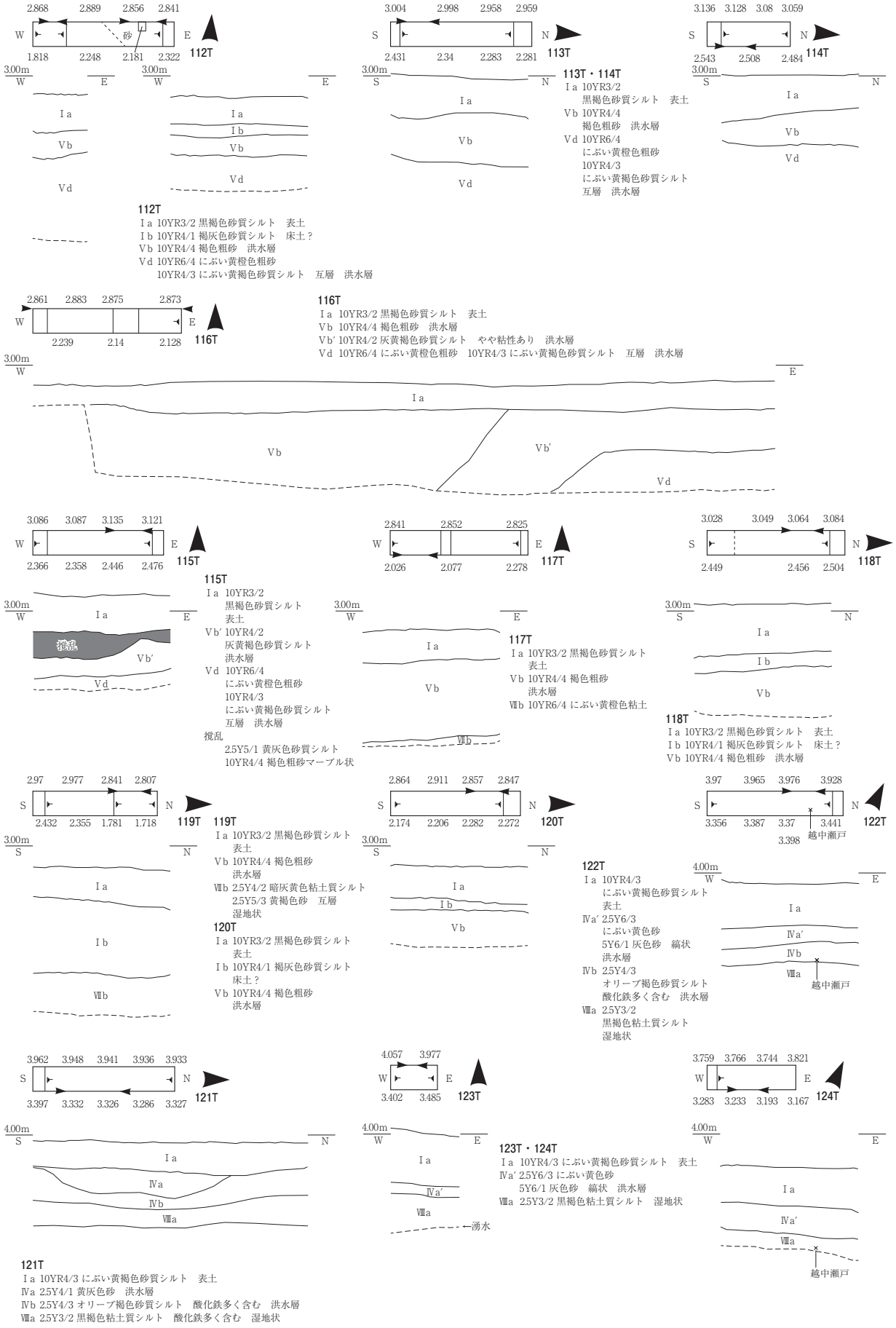

**第11図 水橋池田舘遺跡 遺構実測図**

79～94地区



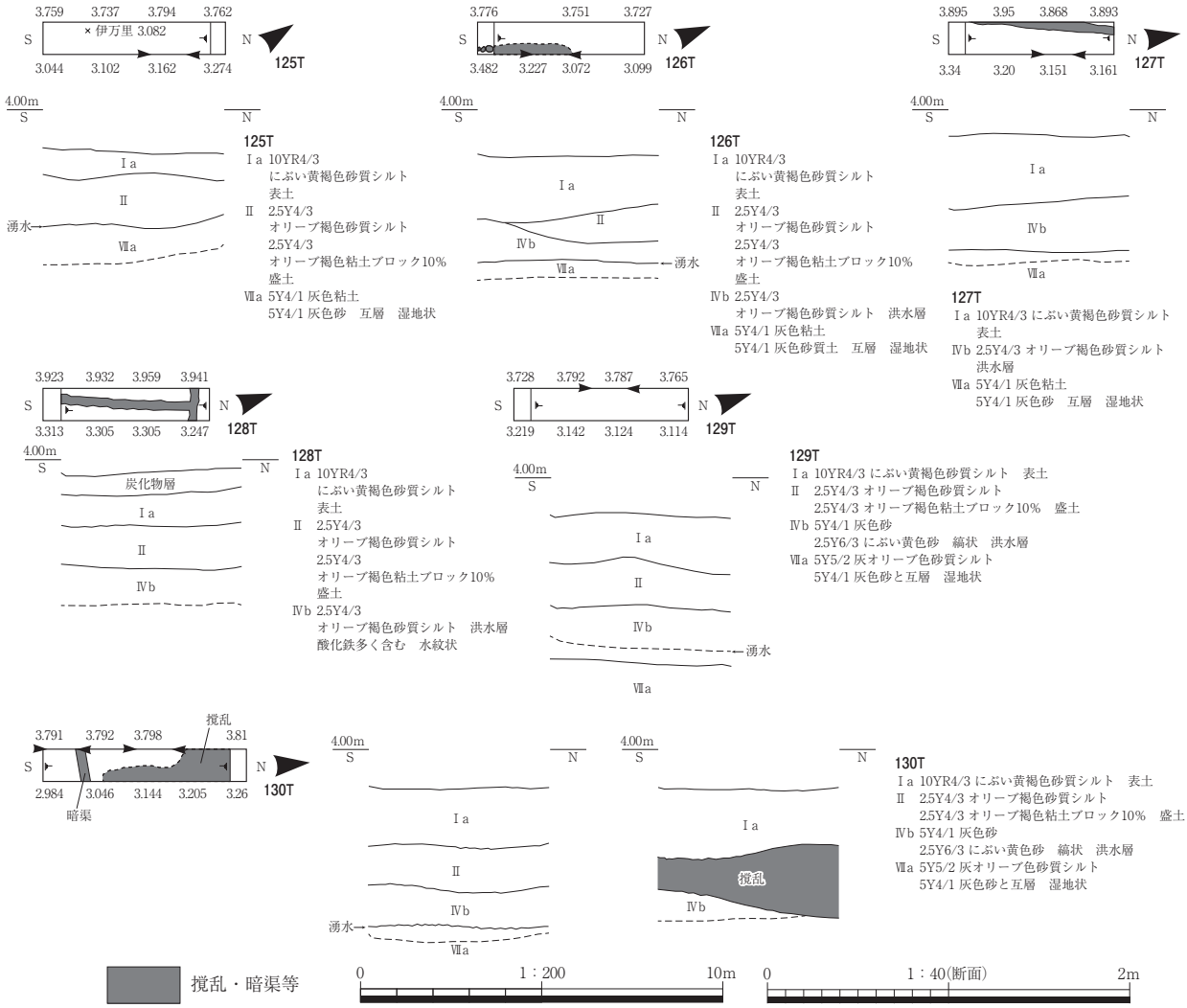

**第12図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

95～111地区

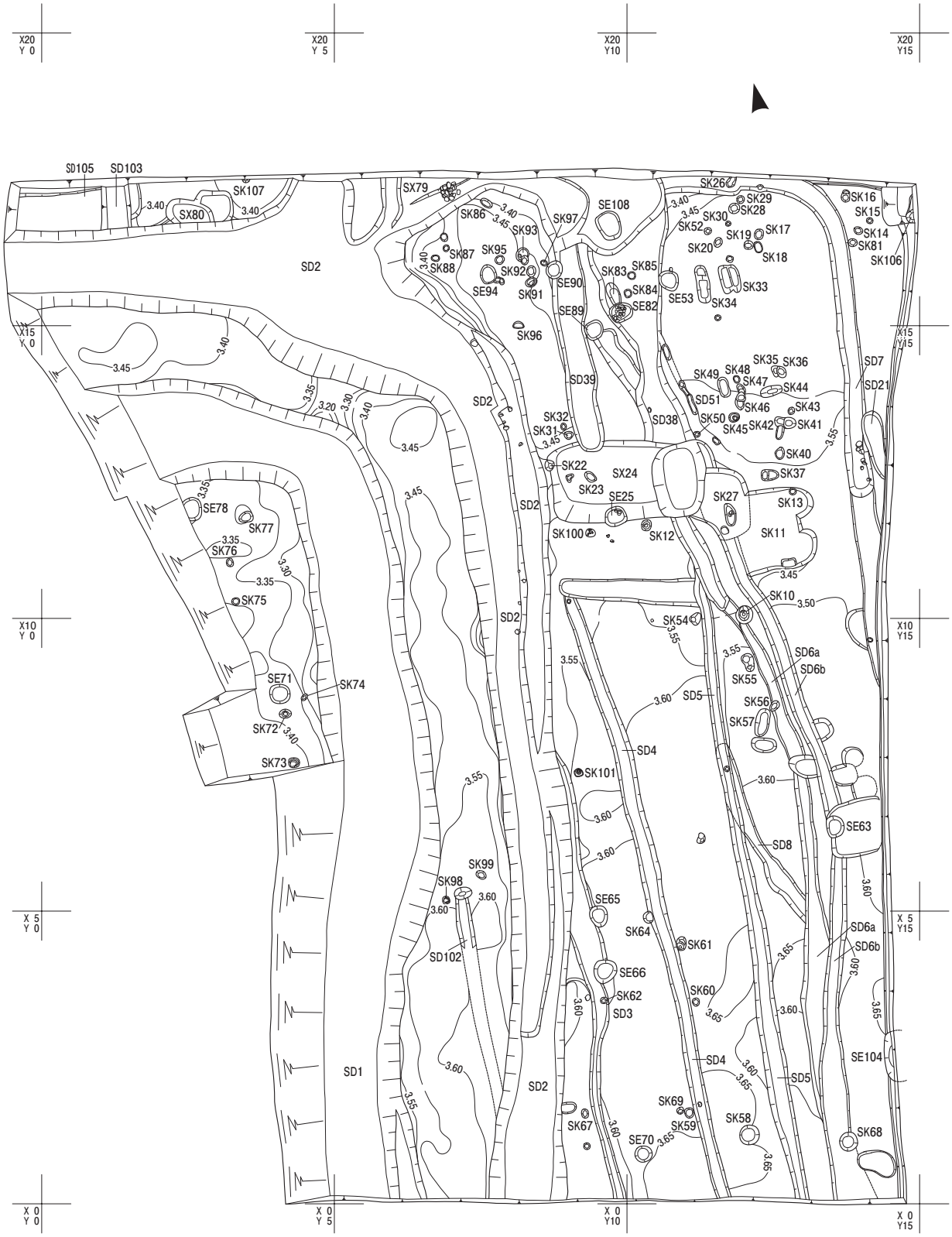



**第13図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

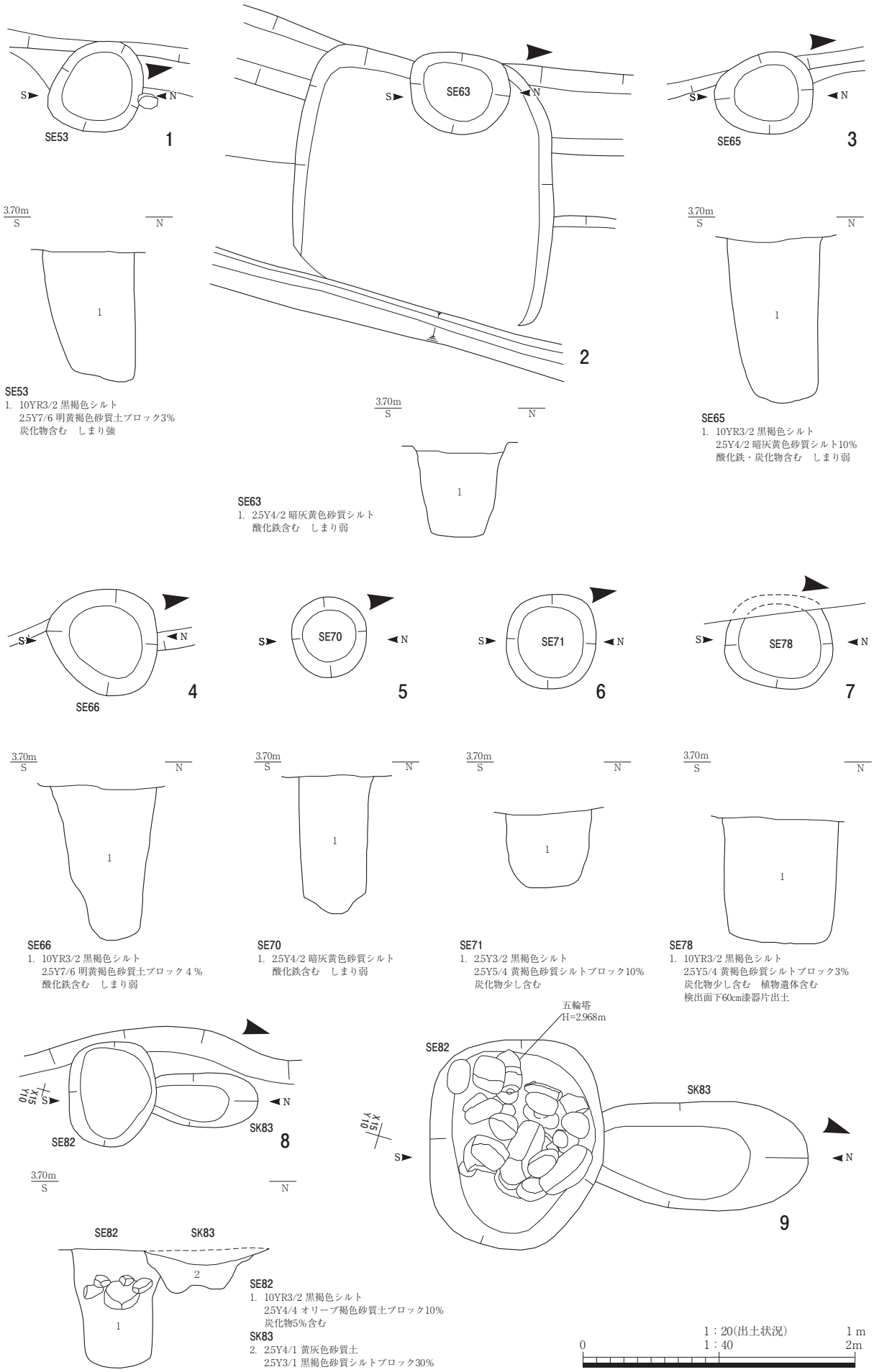
112～124地区




**第14図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**
125～130地区

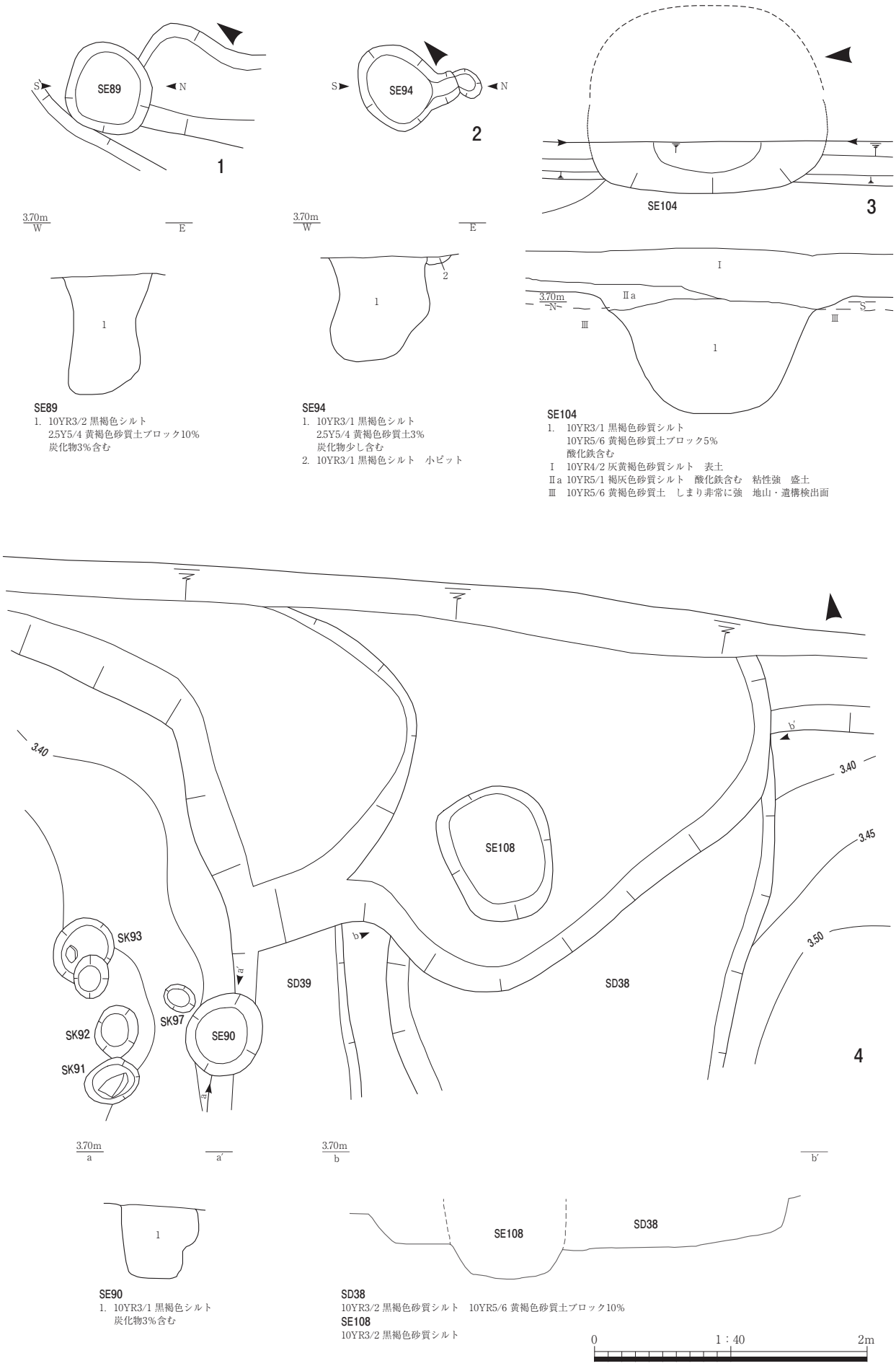



第15図　水橋池田舘遺跡　遺構全体図



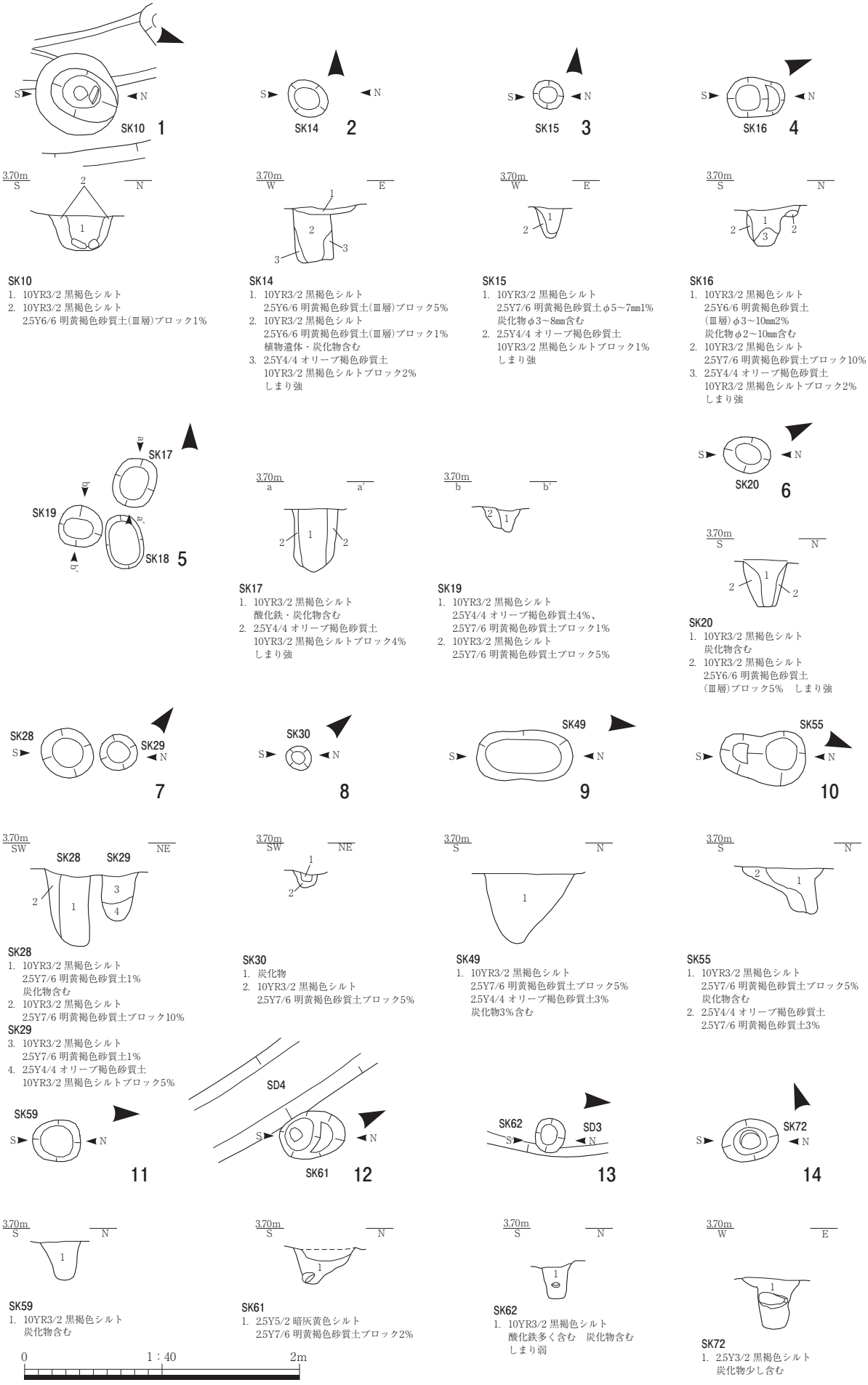

**第16図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

１．ＳＥ53　２．ＳＥ63　３．ＳＥ65　４．ＳＥ66　５．ＳＥ70　６．ＳＥ71　７．ＳＥ78
８．ＳＥ82・ＳＫ83　９．ＳＥ82出土状況




**第17図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

1．ＳＥ89　2．ＳＥ94　3．ＳＥ104　4．ＳＥ90・ＳＥ108




**SK10**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック1%

**SK14**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック5%
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック1%
植物遺体・炭化物含む
3. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
10YR3/2 黒褐色シルトブロック2%
しまり強

**SK15**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土φ5～7mm1%
炭化物φ3～8mm含む
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
10YR3/2 黒褐色シルトブロック1%
しまり強

**SK16**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土
(Ⅲ層)φ3～10mm2%
炭化物φ2～10mm含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック10%
3. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
10YR3/2 黒褐色シルトブロック2%
しまり強

**SK17**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
酸化鉄・炭化物含む
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
10YR3/2 黒褐色シルトブロック4%
しまり強

**SK19**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土4%、
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック1%
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック5%

**SK20**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
炭化物含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土
(Ⅲ層)ブロック5%　しまり強

**SK28**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土1%
炭化物含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック10%

**SK29**
3. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土1%
4. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
10YR3/2 黒褐色シルトブロック5%

**SK30**
1. 炭化物
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック5%

**SK49**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック5%
2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土3%
炭化物3%含む

**SK55**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック5%
炭化物含む
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土3%

**SK59**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
炭化物含む

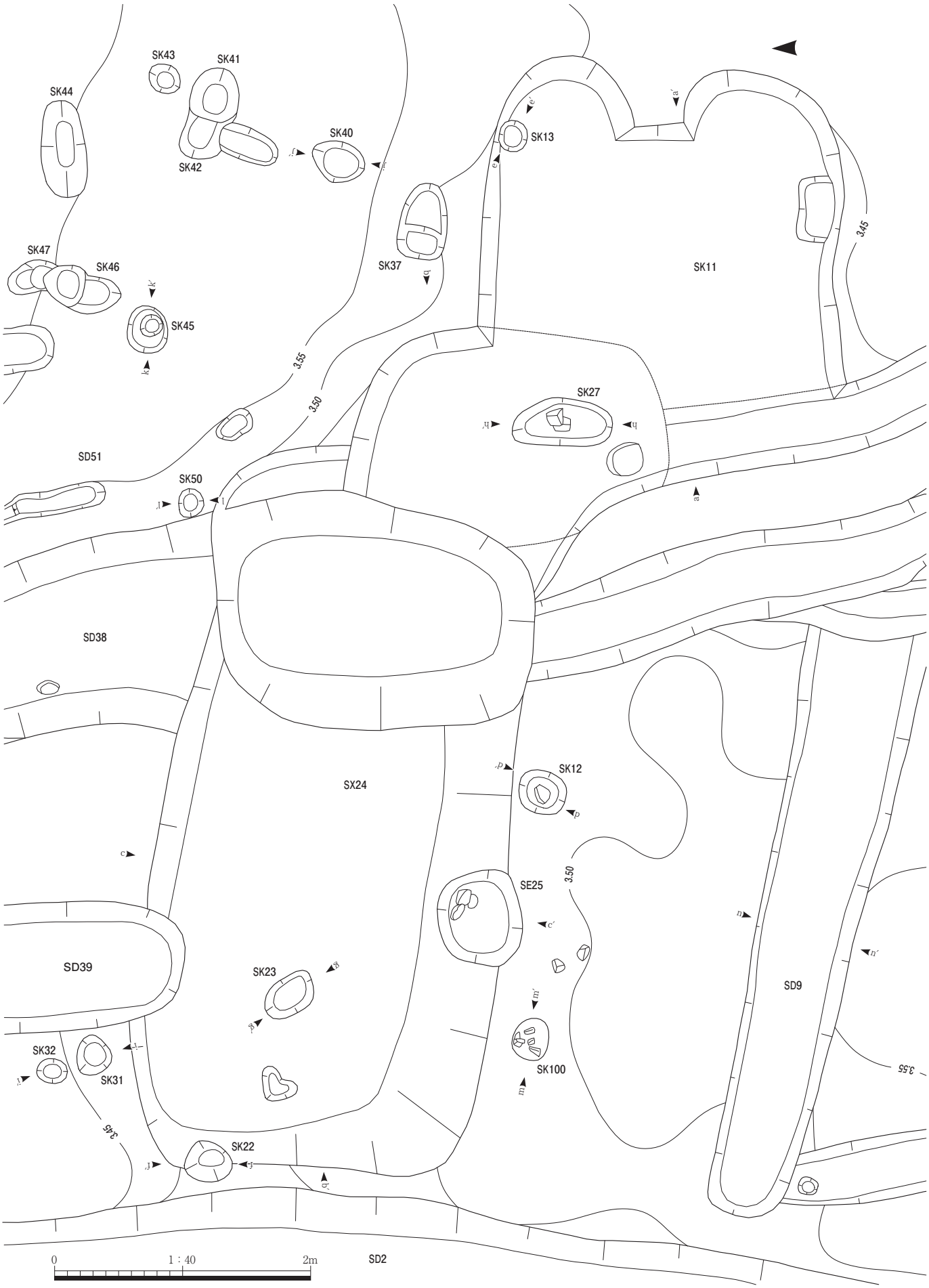
**SK61**
1. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック2%

**SK62**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
酸化鉄多く含む　炭化物含む
しまり弱

**SK72**
1. 2.5Y3/2 黒褐色シルト
炭化物少し含む

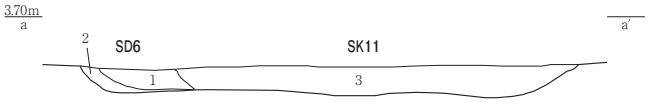
**第18図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

1．ＳＫ10　2．ＳＫ14　3．ＳＫ15　4．ＳＫ16　5．ＳＫ17・ＳＫ19　6．ＳＫ20
7．ＳＫ28・ＳＫ29　8．ＳＫ30　9．ＳＫ49　10．ＳＫ55　11．ＳＫ59　12．ＳＫ61
13．ＳＫ62　14．ＳＫ72



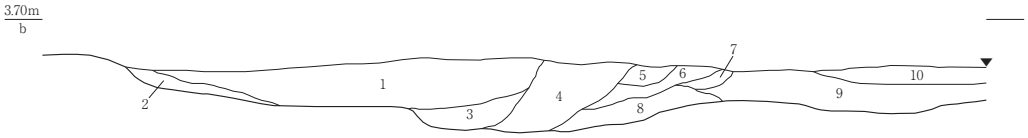

**第19図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

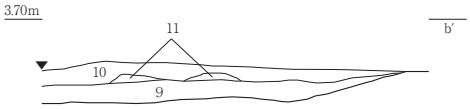
ＳＤ6・ＳＤ9・ＳＫ11～13・ＳＫ22・ＳＫ23・ＳＸ24・ＳＥ25・ＳＫ27・ＳＫ31・ＳＫ32・ＳＫ40・ＳＫ45・ＳＫ50・ＳＫ100

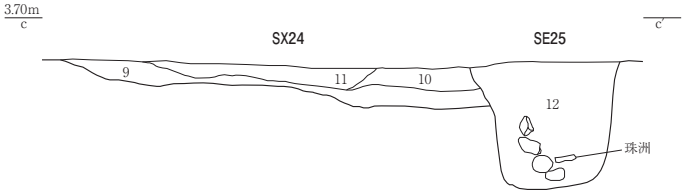



**SD6**
1. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　酸化鉄少し含む　砂質強
2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック3%

**SK11**
3. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト　2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルトブロック1%
植物遺体少し含む

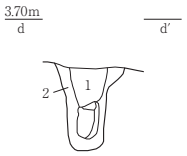


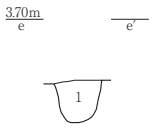




**SX24**
1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　酸化鉄含む
2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　炭化物少し含む
3. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　2.5Y5/3 黄褐色砂質土5%
4. 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(粒子粗)　酸化鉄含む
5. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト　酸化鉄含む
6. 10YR2/2 黒褐色シルト　酸化鉄・炭化物少し含む
7. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　酸化鉄含む
8. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト　酸化鉄含む　しまり強
9. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト～シルト　酸化鉄・炭化物少し含む　しまり強
10. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　酸化鉄含む
11. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト　2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック2%

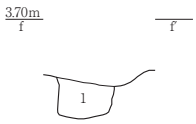
**SE25**
12. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　酸化鉄・植物遺体含む



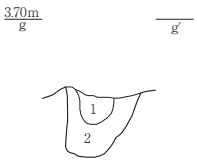

**SK12**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
10YR3/1 黒褐色シルトブロック3%、
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック3%
柱痕？
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック1%



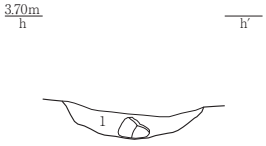

**SK13**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック2%
植物遺体少し含む



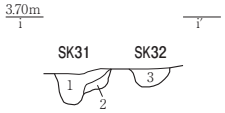

**SK22**
1. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土ブロック3%
炭化物含む




**SK23**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
酸化鉄を多く含む
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
10YR3/2 黒褐色シルトブロック3%

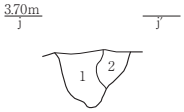



**SK27**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック1%
酸化鉄含む

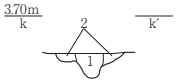



**SK31**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック2%
炭化物含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック5%

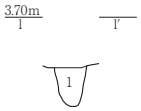
**SK32**
3. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土ブロック3%



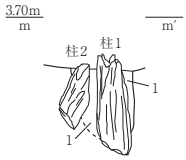

**SK40**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック3%
炭化物少し含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト



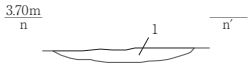

**SK45**
1. 2.5Y3/2 黒褐色シルト
2. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土
(Ⅲ層)ブロック3%




**SK50**
1. 2.5Y3/2 黒褐色シルト
2.5Y6/6 明黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック5%



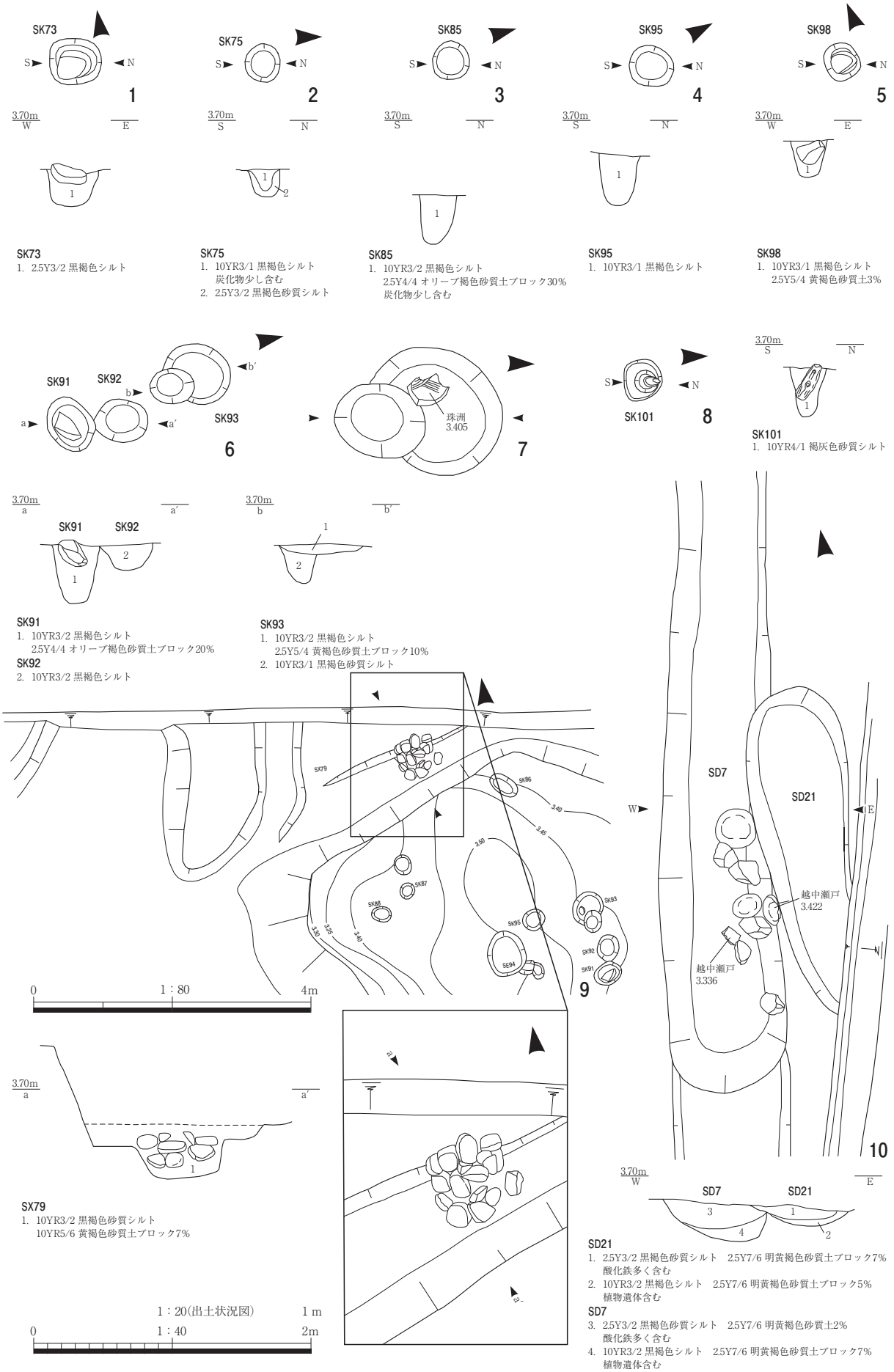

**SK100**
1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト




**SD9**
1. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト
植物遺体少し含む

## 第20図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図

ＳＤ6・ＳＤ9・ＳＫ11～13・ＳＫ22・ＳＫ23・ＳＸ24・ＳＥ25・ＳＫ27・ＳＫ31・ＳＫ32・ＳＫ40・ＳＫ45・ＳＫ50・ＳＫ100




**SK73**
1. 2.5Y3/2 黒褐色シルト

**SK75**
1. 10YR3/1 黒褐色シルト
炭化物少し含む
2. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト

**SK85**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土ブロック30%
炭化物少し含む

**SK95**
1. 10YR3/1 黒褐色シルト

**SK98**
1. 10YR3/1 黒褐色シルト
2.5Y5/4 黄褐色砂質土3%

**SK101**
1. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト

**SK91**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土ブロック20%

**SK92**
2. 10YR3/2 黒褐色シルト

**SK93**
1. 10YR3/2 黒褐色シルト
2.5Y5/4 黄褐色砂質土ブロック10%
2. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト

**SX79**
1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト
10YR5/6 黄褐色砂質土ブロック7%

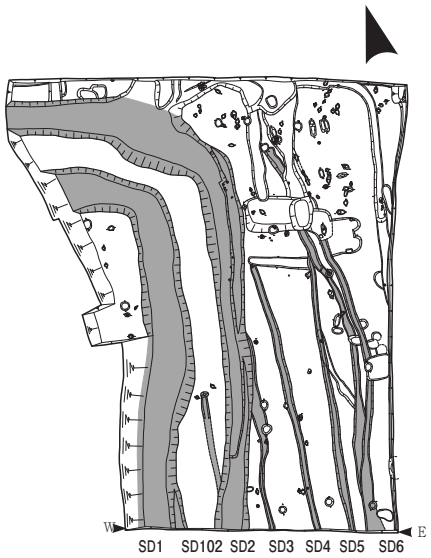
**SD21**
1. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト　2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック7%
酸化鉄多く含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト　2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック5%
植物遺体含む

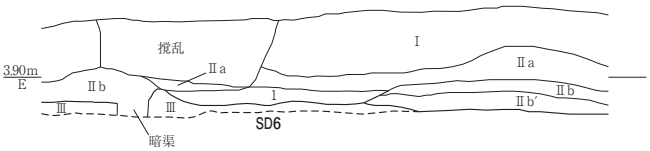
**SD7**
3. 2.5Y3/2 黒褐色砂質シルト　2.5Y7/6 明黄褐色砂質土2%
酸化鉄多く含む
4. 10YR3/2 黒褐色シルト　2.5Y7/6 明黄褐色砂質土ブロック7%
植物遺体含む

**第21図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

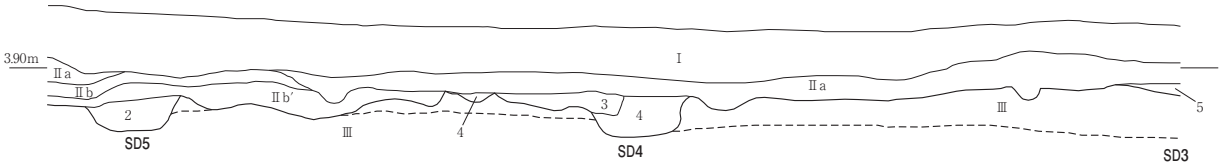
1．ＳＫ73　2．ＳＫ75　3．ＳＫ85　4．ＳＫ95　5．ＳＫ98　6．ＳＫ91～93　7．ＳＫ93出土状況
8．ＳＫ101　9．ＳＸ79　10．ＳＤ7・ＳＤ21

Ⅰ　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　草根多く含む　表土
Ⅱa 10YR5/1 褐灰色砂質シルト　酸化鉄含む　粘性強　盛土
Ⅱb 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　酸化鉄・炭化物含む　しまり強　盛土
Ⅱb′ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　10YR5/6 黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック3%　盛土
Ⅱ　10YR5/1 褐灰色砂質シルト　10YR5/6 黄褐色砂質土(Ⅲ層)5%　酸化鉄含む　盛土？
Ⅲ　10YR5/6 黄褐色砂質土　しまり非常に強　地山(遺構検出面)



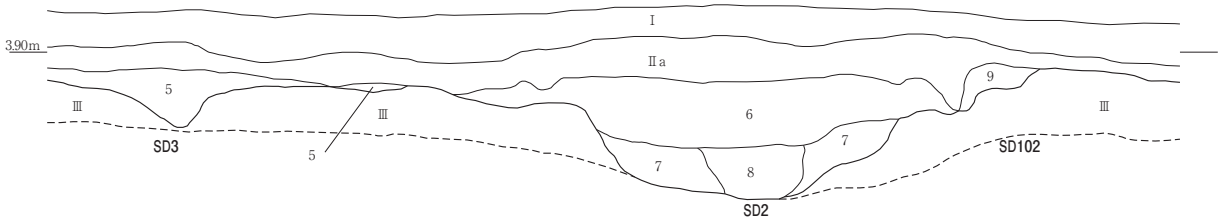




SD6
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト
酸化鉄・炭化物含む　しまり強




SD5
2. 10YR3/2 黒褐色シルト

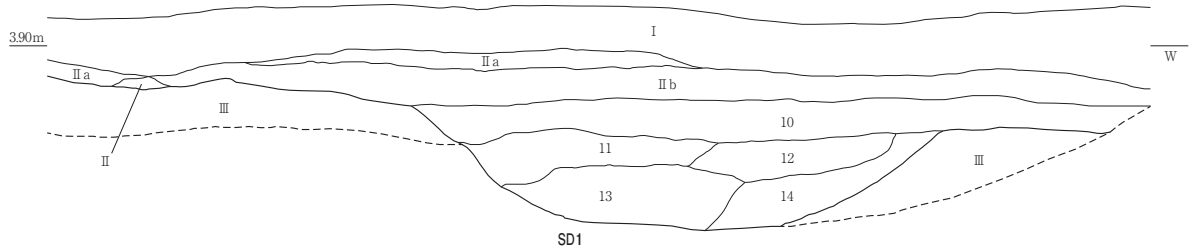
SD4
3. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト　10YR5/6 黄褐色砂質土ブロック3%
4. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト　10YR3/2 黒褐色シルト5%　酸化鉄含む




SD3
5. 10YR3/2 黒褐色シルト

SD2
6. 10YR3/3 暗褐色シルト
7. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト　10YR3/3 暗褐色シルトブロック5%
8. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト　酸化鉄含む

SD102
9. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト
10YR3/2 黒褐色シルト5%　酸化鉄含む

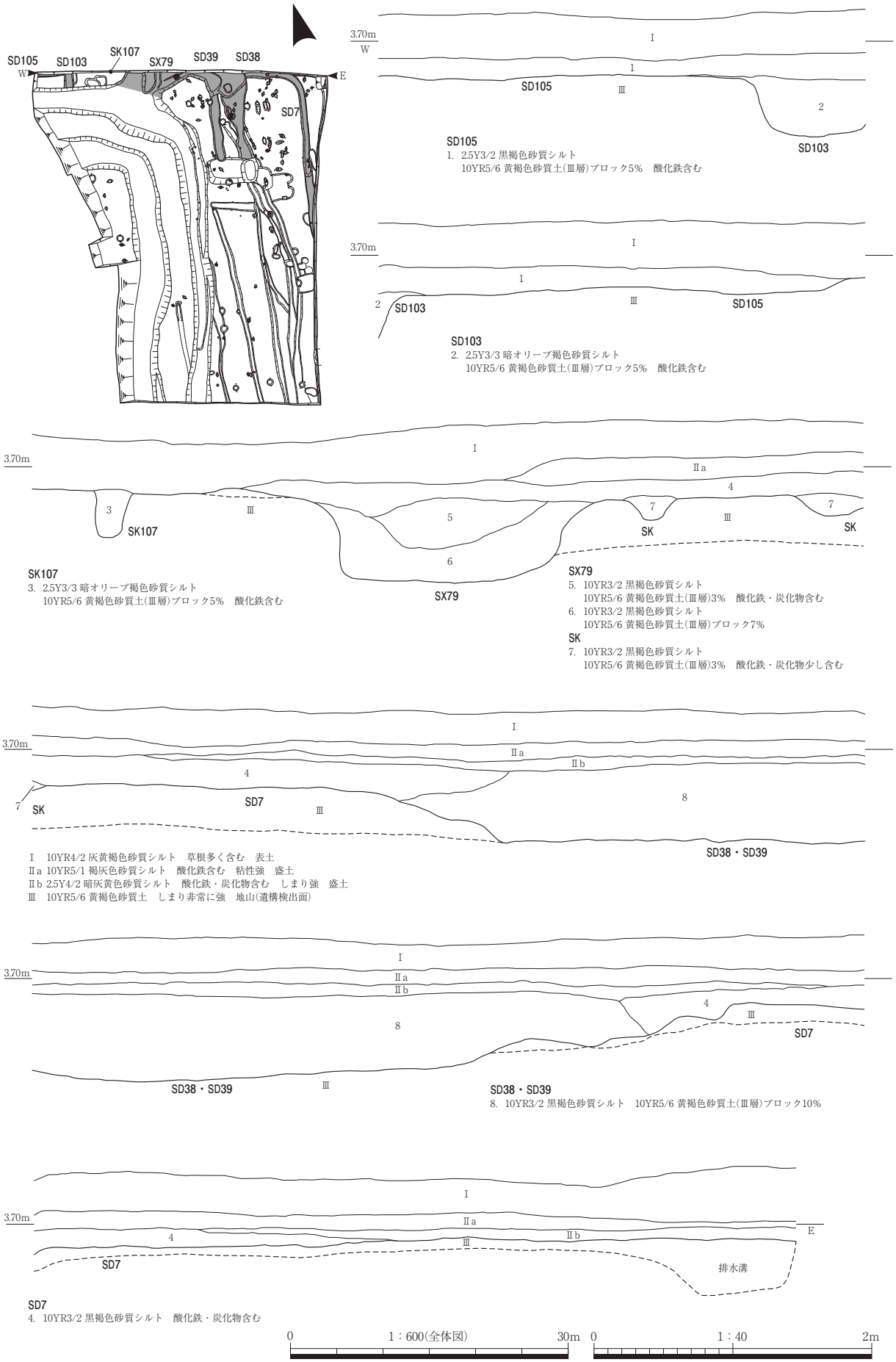



SD1
10. 10YR3/3 暗褐色シルト
11. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト　10YR3/3 暗褐色シルトブロック5%
12. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　2.5Y5/4 黄褐色砂ブロック1%　炭化物含む
13. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト　酸化鉄含む
14. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト　2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト5%
10YR5/6 黄褐色砂質土(Ⅲ層)ブロック3%　炭化物含む

0　1：600(全体図)　30m

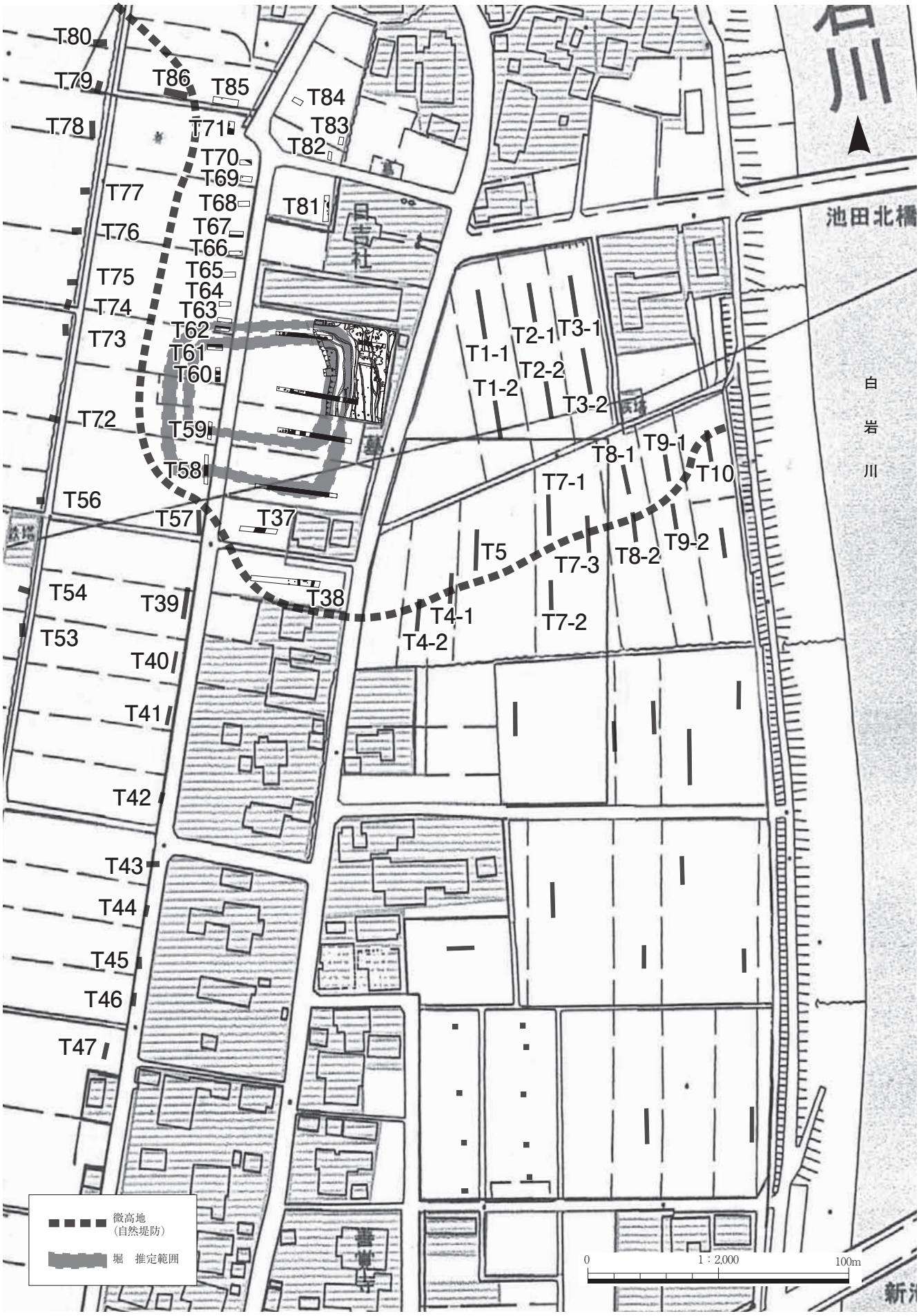
0　1：40　2m

**第22図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**
ＳＤ1～ＳＤ6

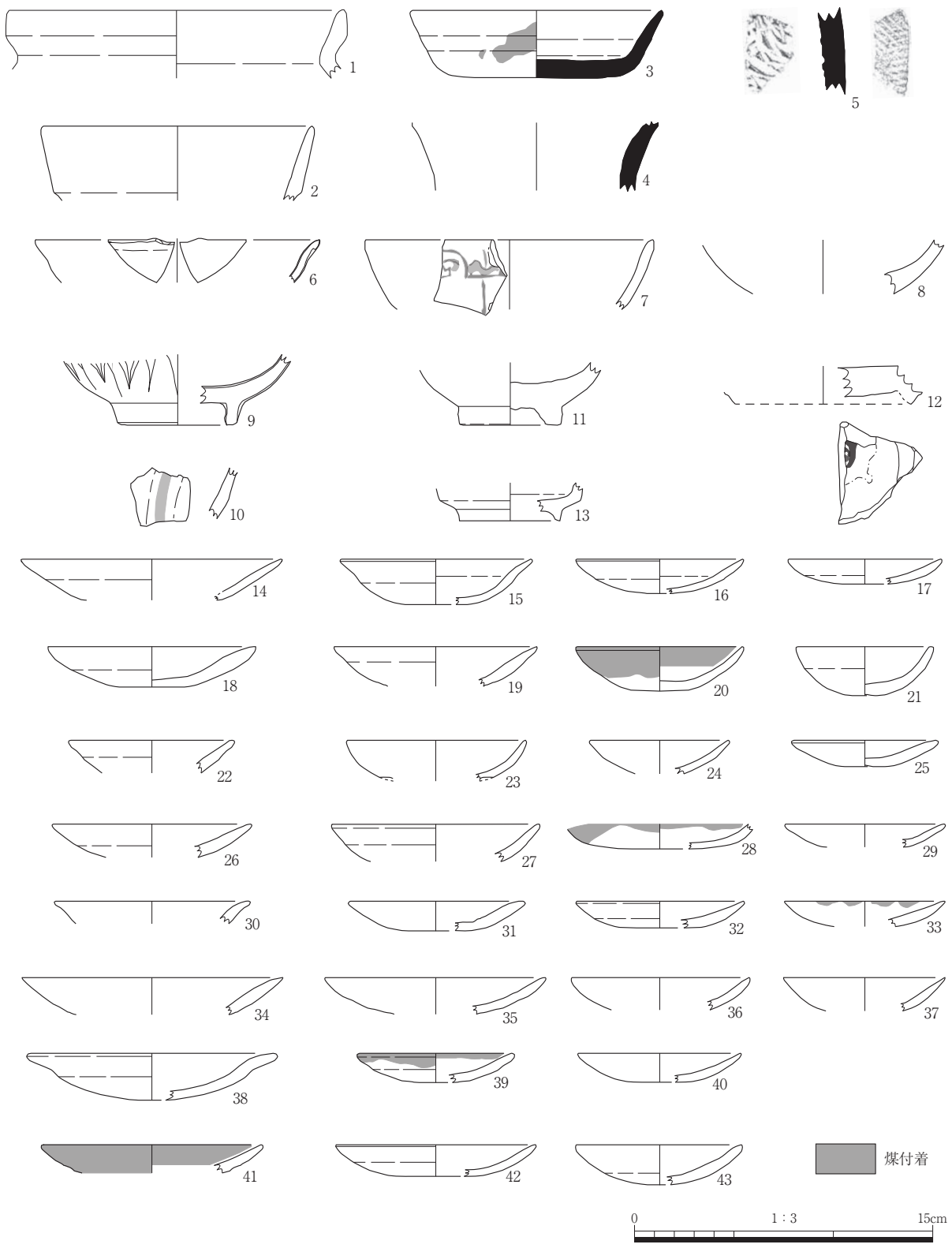



**第23図　水橋池田舘遺跡　遺構実測図**

ＳＤ7・ＳＤ38・ＳＤ39・ＳＤ103・ＳＤ105・ＳＫ107・ＳＸ79

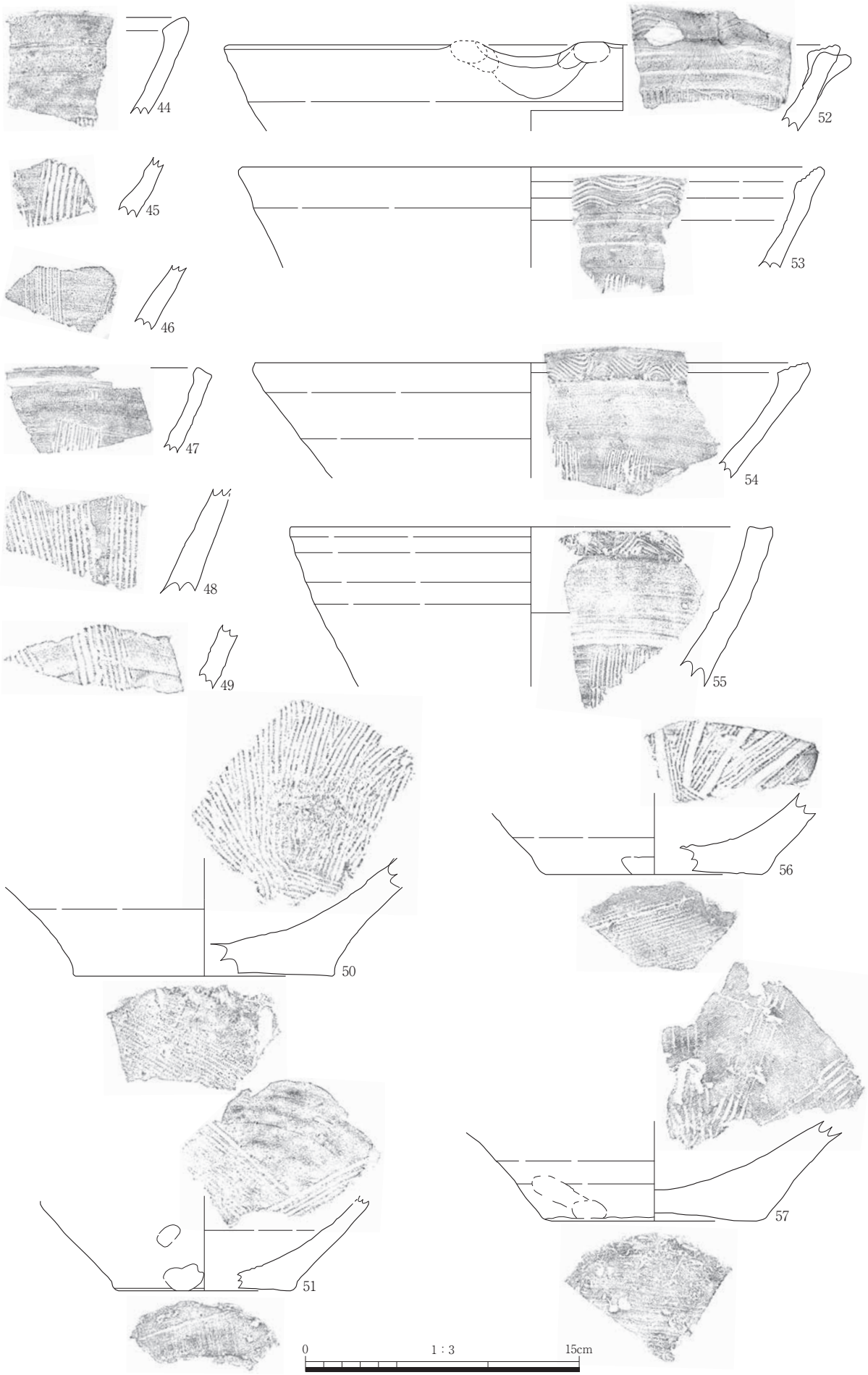



**第24図　水橋池田舘遺跡　復元図**（1/2,000）



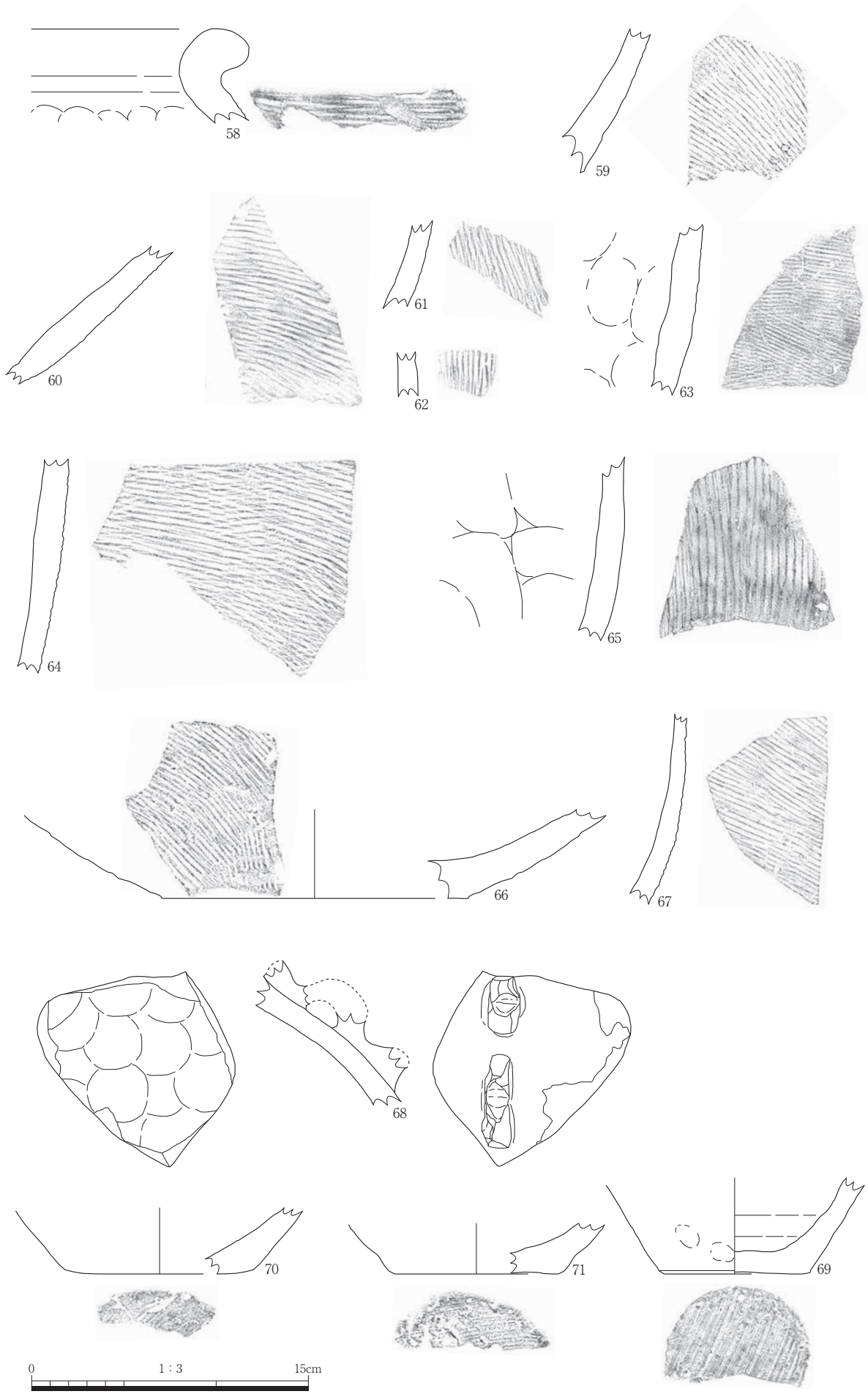

**第25図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）

ＳＤ1(12)　ＳＤ2(3・6・13～23)　ＳＤ4(1・24)　ＳＤ5(10・26)　ＳＤ6(25)　ＳＤ7(27・28)
ＳＤ9(30～32)　ＳＫ11(9)　ＳＸ24(41～43)　ＳＤ38(34)　ＳＤ39(35・36)　ＳＥ78(29)
ＳＸ79(38～40)　ＳＥ94(33)



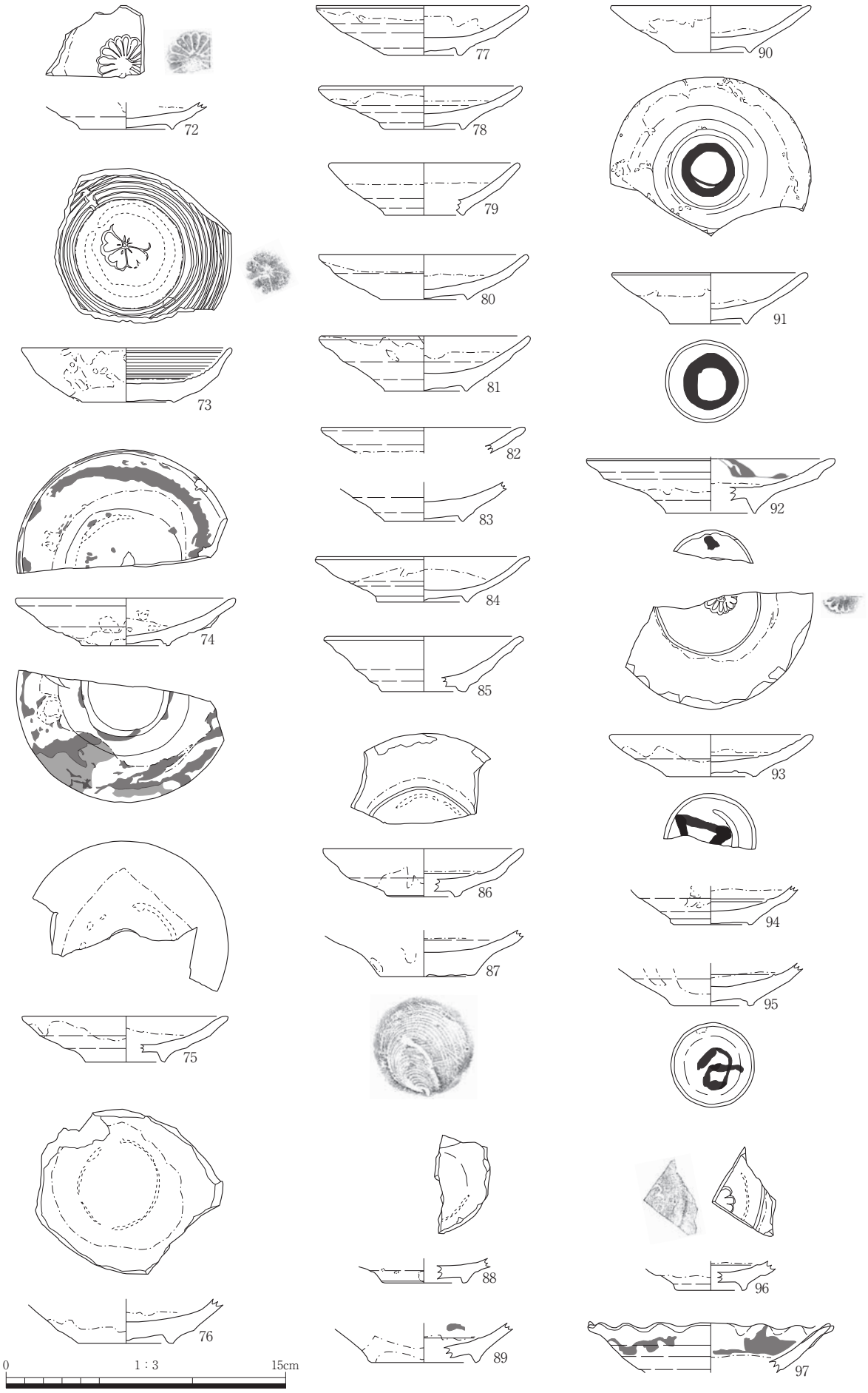

**第26図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）

ＳＤ2(44・45・50・56)　ＳＤ7(46)　ＳＸ24(52)　ＳＸ79(47～49・53・54)　ＳＫ93(51)



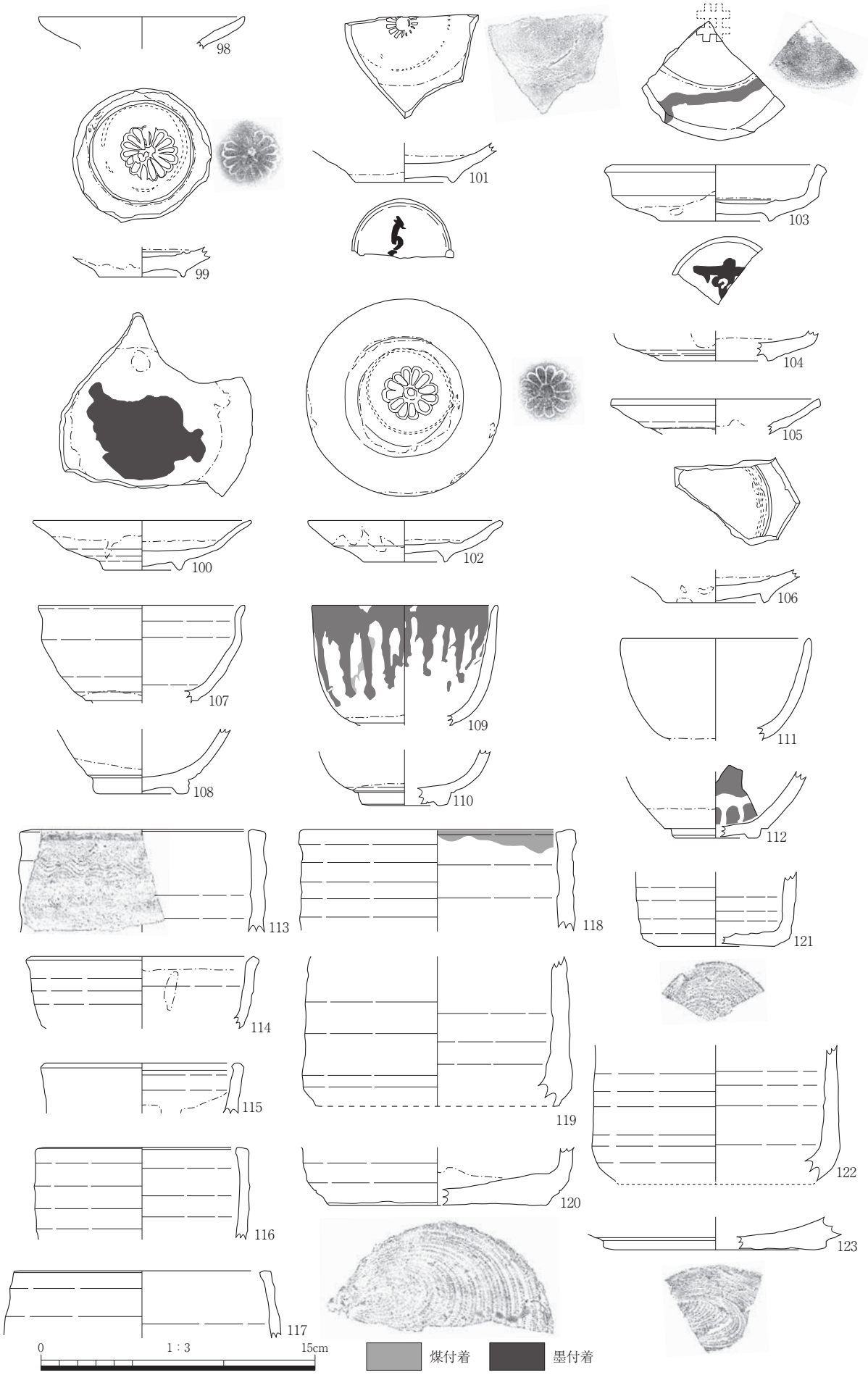

**第27図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）

ＳＤ2(59・67・68・70・71)　ＳＤ6(60・61)　ＳＤ7(69)　ＳＸ24(63)　ＳＥ25(64)　ＳＤ38(66)
ＳＥ65(58)　ＳＸ79(65)　ＳＸ80(62)



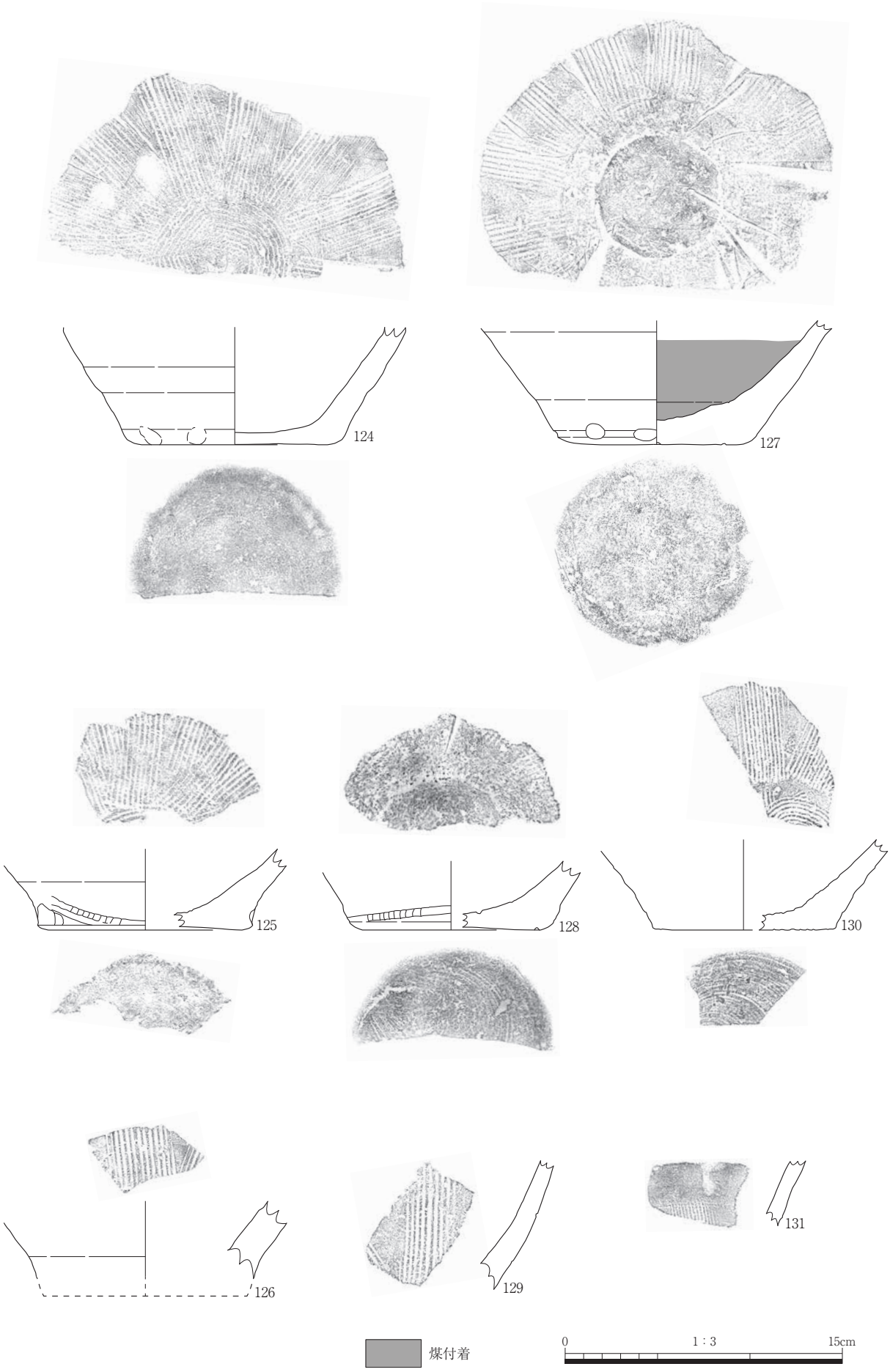

**第28図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）

ＳＤ1(72)　ＳＤ2(73・77～83・90～92)　ＳＤ3(74)　ＳＤ6(93・94)　ＳＤ7(75・76・84～89)
ＳＤ39(97)　ＳＸ79(95・96)

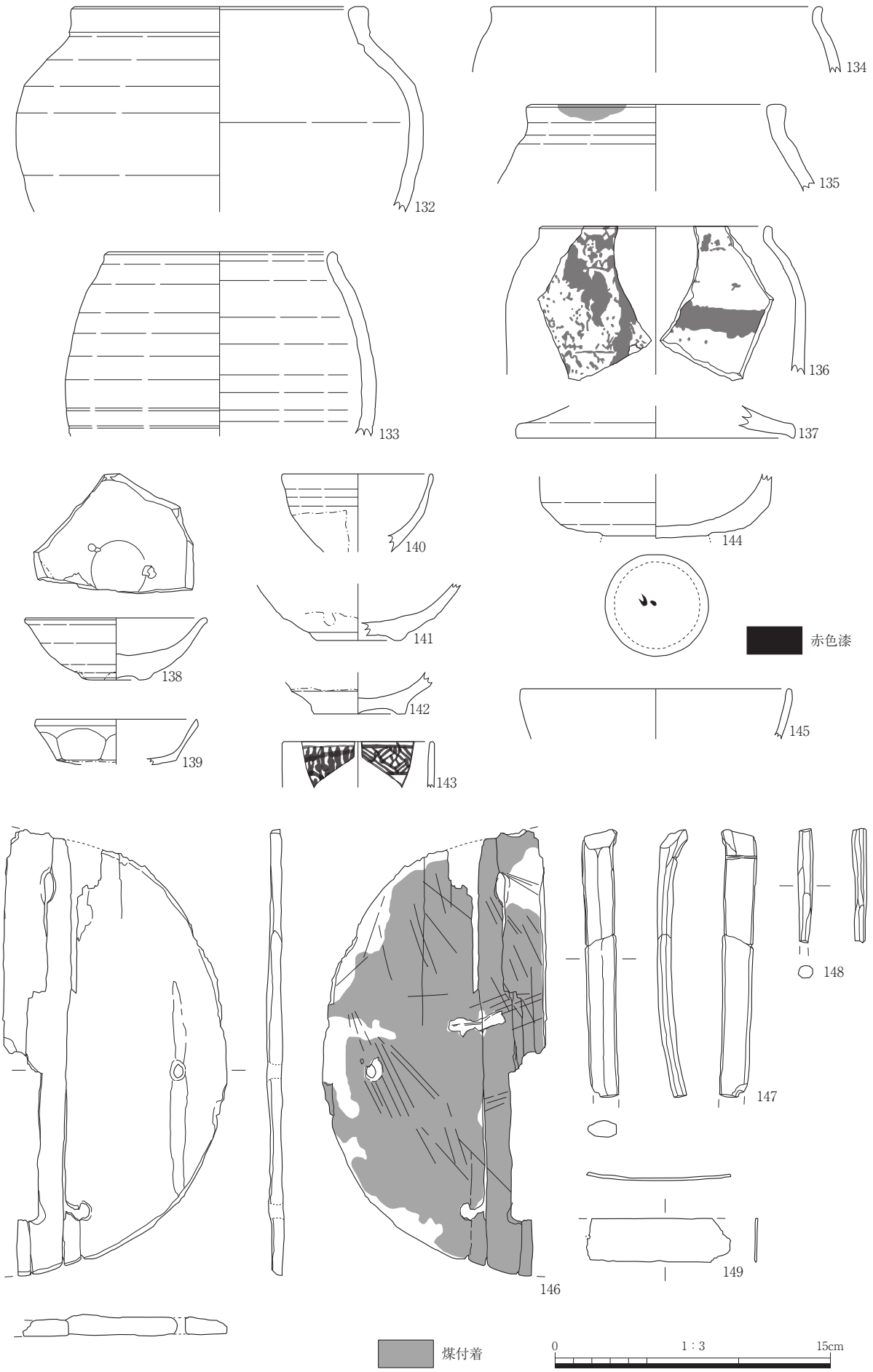



**第29図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）

ＳＤ2(110・121～123)　ＳＤ6(108)　ＳＤ7(118)　ＳＤ38(98・99・101・103・116・117)
ＳＤ39(119)　ＳＥ65(100)　ＳＥ70(104)　ＳＥ78(102)　ＳＸ79(109・120)　ＳＤ103(107)



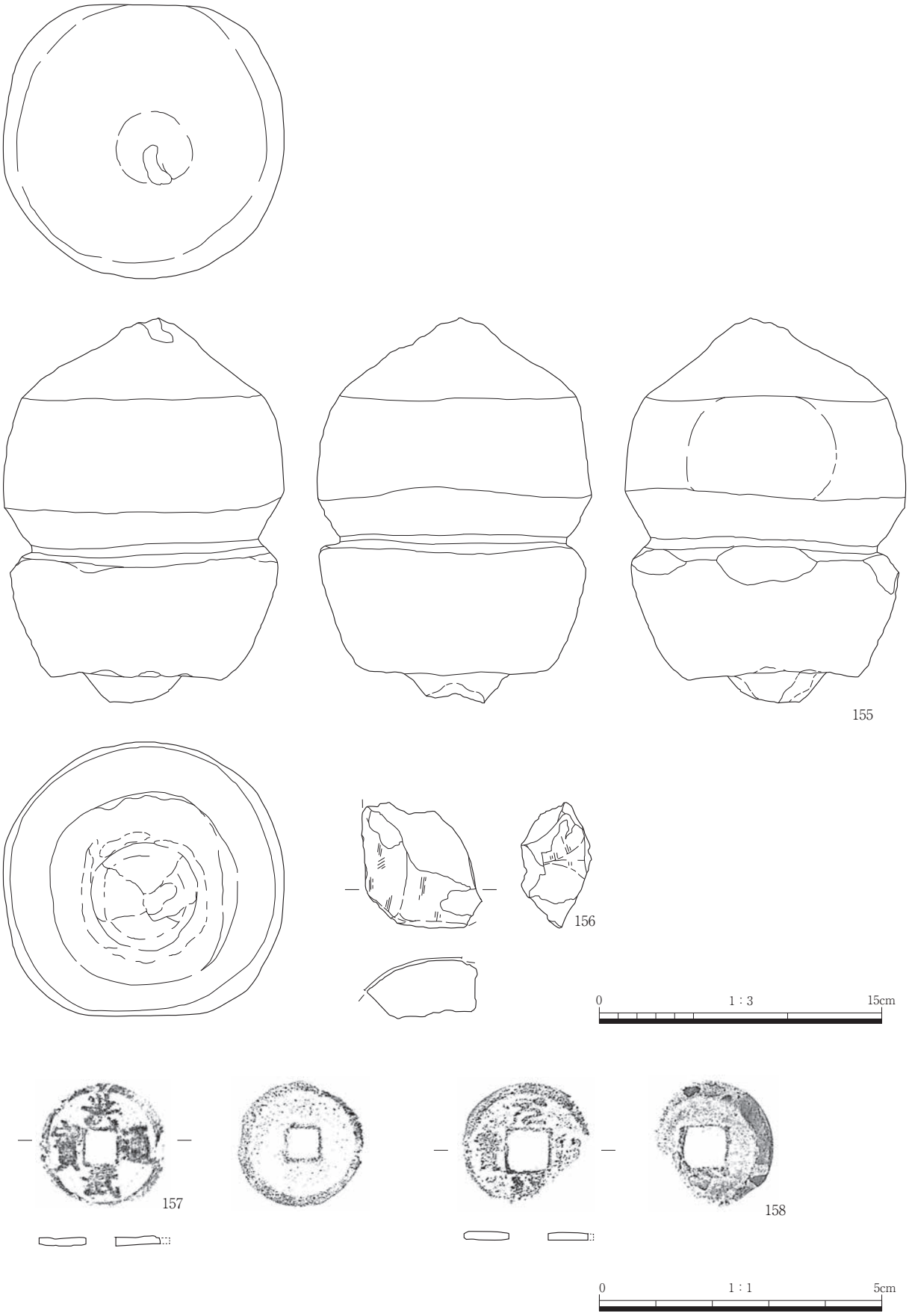

**第30図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）
ＳＤ2(124・125・131)　ＳＤ6(128・130)　ＳＤ7(129)　ＳＥ78(127)　ＳＸ79(126)




**第31図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/3）

ＳＤ1(139)　ＳＤ2(132・133・137・142)　ＳＤ7(141)　ＳＤ39(134)　ＳＥ78(145～149)
ＳＸ79(135・136)　ＳＤ102(138)

**第32図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（1/4）
ＳＤ2(150)　ＳＥ78(153)　ＳＫ100(151・152)　ＳＫ101(154)




**第33図　水橋池田舘遺跡　遺物実測図**（157・158　1/1, 155・156　1/3）
ＳＤ7(156)　ＳＤ39(157・158)　ＳＥ82(155)

**第９表　水橋池田舘遺跡調査地区一覧（1）**

| No. | 規模（m） | | 面積（㎡） | 遺　構 | | 遺　物 | 現況ＧＬ（m） | 遺構検出面ＥＬ（m） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長 | 幅 | | 種類 | 時期 | | | | |
| 1 | 20.0 | 1.5 | 30.0 | 土坑2、溝3 | 古代～近世 | 土師器1、青磁1、越中瀬戸1、近世陶磁器3 | 3.87 | 3.51 | |
| 2 | 9.6 | 1.5 | 14.4 | 土坑4、溝3 | 古代～中世 | 須恵器1 | 4.04 | 3.68 | |
| 3 | 29.5 | 1.5 | 44.3 | 土坑7、溝5 | 古代～近世 | 越中瀬戸1、近世陶磁器2 | 4.08 | 3.76 | |
| 4 | 26.5 | 1.5 | 39.8 | 土坑4、溝3 | 古代～近世 | 土師器1 | 4.10 | 3.83 | |
| 5 | 29.5 | 1.5 | 44.3 | 土坑1 | | | 4.18 | 3.66 | ピート層 |
| 6 | 9.7 | 0.8 | 7.8 | | | | 3.78 | ※3.59 | 洪水層、旧河道 |
| 7 | 9.5 | 0.8 | 7.6 | | | | 3.84 | ※3.35 | 洪水層、旧河道 |
| 8 | 9.0 | 0.8 | 7.2 | | | | 3.82 | ※3.65 | 洪水層、旧河道 |
| 9 | 20.0 | 0.8 | 16.0 | | | | 3.90 | ※3.71 | 洪水層、旧河道 |
| 10 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.83 | ※3.64 | 洪水層、旧河道 |
| 11 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.90 | ※3.71 | 洪水層、旧河道 |
| 12 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.94 | ※3.68 | 洪水層、旧河道 |
| 13 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.90 | ※3.75 | 洪水層、旧河道 |
| 14 | 8.0 | 0.8 | 6.4 | | | | 3.88 | ※3.59 | 洪水層、旧河道 |
| 15 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.85 | ※3.69 | 洪水層、旧河道 |
| 16 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | 越中瀬戸1 | 3.78 | ※3.58 | 洪水層、旧河道 |
| 17 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.76 | ※3.51 | 洪水層、旧河道 |
| 18 | 20.0 | 0.8 | 16.0 | | | | 3.78 | ※3.59 | 洪水層、旧河道 |
| 19 | 3.0 | 0.8 | 2.4 | | | | 3.77 | ※3.56 | 洪水層、旧河道 |
| 20 | 9.5 | 0.8 | 7.6 | | | | 3.68 | ※3.42 | 洪水層 |
| 21 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.68 | ※3.50 | 洪水層、ピート層 |
| 22 | 20.0 | 0.8 | 16.0 | | | | 3.77 | ※3.56 | 洪水層、ピート層 |
| 23 | 9.3 | 0.8 | 7.4 | | | | 3.64 | ※3.46 | 洪水層、ピート層 |
| 24 | 3.0 | 0.8 | 2.4 | | | | 3.74 | ※3.54 | 洪水層、ピート層 |
| 25 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.70 | ※3.47 | 洪水層、ピート層 |
| 26 | 4.0 | 0.8 | 3.2 | | | | 3.68 | ※3.46 | 洪水層、ピート層 |
| 27 | 5.0 | 0.8 | 4.0 | | | | 3.67 | ※3.49 | 洪水層、ピート層 |
| 28 | 5.0 | 0.8 | 4.0 | | | | 3.67 | ※3.52 | 洪水層、ピート層 |
| 29 | 5.0 | 0.8 | 4.0 | | | | 3.65 | ※3.51 | 洪水層、ピート層 |
| 30 | 8.5 | 0.8 | 6.8 | | | | 3.66 | ※3.34 | 洪水層、ピート層 |
| 31 | 5.0 | 0.8 | 4.0 | | | | 3.67 | ※3.47 | 洪水層、ピート層 |
| 32 | 5.0 | 0.8 | 4.0 | | | | 3.65 | ※3.39 | 洪水層、ピート層 |
| 33 | 5.0 | 0.8 | 4.0 | | | | 3.72 | ※3.36 | 洪水層、ピート層 |
| 34 | 0.8 | 0.8 | 0.6 | | | | 3.70 | ※3.50 | 洪水層、ピート層 |
| 35 | 10.0 | 0.8 | 8.0 | | | | 3.72 | ※3.36 | 洪水層、ピート層 |
| 36 | 2.0 | 0.8 | 1.6 | | | | 3.73 | ※3.50 | 洪水層、ピート層 |
| 37 | 13.0 | 1.0 | 13.0 | 溝1 | ～近世 | | 4.08 | 3.49 | |
| 38 | 26.0 | 1.0 | 26.0 | 土坑5、溝2 | 古代～近世 | 土師器1 | 3.86 | 3.34 | |
| 39 | 8.0 | 0.8 | 6.4 | | | 近世陶磁器1 | 4.44 | ＊4.02 | ピート層 |
| 40 | 4.2 | 0.8 | 3.4 | | | | 4.45 | ＊4.21 | ピート層 |
| 41 | 4.8 | 0.8 | 3.8 | | | | 4.46 | ＊4.14 | ピート層 |
| 42 | 3.2 | 0.8 | 2.6 | | | 弥生土器？ 1 | 4.40 | ＊4.23 | ピート層 |
| 43 | 2.0 | 0.8 | 1.6 | | | 須恵器1、漆器1 | 4.50 | ＊3.97 | ピート層 |
| 44 | 2.8 | 1.0 | 2.8 | | | | 4.50 | ＊3.76 | 湧水のため図化できず、ピート層 |
| 45 | 2.4 | 0.8 | 1.9 | | | | 4.35 | ＊3.85 | 湧水のため図化できず、ピート層 |

## 第９表　水橋池田舘遺跡調査地区一覧（2）

| No. | 規模（m） | | 面積（㎡） | 遺　構 | | 遺　物 | 現況ＧＬ（m） | 遺構検出面ＥＬ（m） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長 | 幅 | | 種類 | 時期 | | | | |
| 46 | 2.7 | 0.8 | 2.2 | | | | 4.38 | ＊3.98 | ピート層 |
| 47 | 3.7 | 0.8 | 3.0 | | | | 4.52 | ＊4.10 | ピート層 |
| 48 | 2.0 | 1.3 | 2.6 | | | | 4.15 | ＊3.74 | ピート層 |
| 49 | 3.0 | 0.8 | 2.4 | | | | 4.15 | ＊3.75 | ピート層 |
| 50 | 2.4 | 1.2 | 2.9 | | | | 4.22 | ＊3.80 | ピート層 |
| 51 | 4.0 | 0.8 | 3.2 | | | | 4.19 | ＊3.81 | ピート層 |
| 52 | 2.2 | 0.9 | 2.0 | | | | 4.16 | ＊3.73 | ピート層 |
| 53 | 2.5 | 0.8 | 2.0 | | | | 4.07 | ＊3.77 | ピート層 |
| 54 | 2.0 | 0.9 | 1.8 | | | | 4.06 | ＊3.58 | ピート層 |
| 55 | 2.7 | 0.9 | 2.4 | | | | 4.03 | ＊3.56 | ピート層 |
| 56 | 2.7 | 1.0 | 2.7 | | | | 4.05 | ＊3.57 | ピート層 |
| 57 | 8.8 | 1.1 | 9.7 | | | | 3.95 | 3.35 | 地山あり、遺構未確認 |
| 58 | 10.3 | 1.1 | 11.3 | 溝(堀)1 | ～近世 | | 4.02 | 3.35 | |
| 59 | 6.8 | 1.1 | 7.5 | 溝(堀)1 | ～近世 | | 3.91 | 3.41 | |
| 60 | 4.7 | 1.0 | 4.7 | 溝2 | ～近世 | | 3.74 | 3.28 | |
| 61 | 2.3 | 0.8 | 1.8 | 溝(堀)1 | ～近世 | | 3.72 | 3.22 | |
| 62 | 2.0 | 1.4 | 2.8 | 溝(堀)1 | ～近世 | | 3.66 | 3.17 | |
| 63 | 2.2 | 1.3 | 2.9 | | | | 3.67 | 3.27 | |
| 64 | 2.2 | 1.3 | 2.9 | | | | 3.71 | 3.29 | |
| 65 | 2.5 | 1.1 | 2.8 | 地割れ？ 1 | | | 3.65 | 3.19 | |
| 66 | 2.2 | 1.1 | 2.4 | 土坑1 | ～近世 | | 3.62 | 3.31 | 地山まで削平 |
| 67 | 2.3 | 1.1 | 2.5 | 溝1 | ～近世 | | 3.57 | 3.32 | |
| 68 | 2.0 | 1.1 | 2.2 | | | | 3.52 | 3.22 | 地山まで削平？ |
| 69 | 2.1 | 1.1 | 2.3 | 土坑1 | ～近世 | | 3.53 | 3.23 | |
| 70 | 2.0 | 1.1 | 2.2 | 溝1 | ～近世 | | 3.54 | 3.18 | |
| 71 | 5.0 | 1.1 | 5.5 | 土坑(倒木痕？)1、溝1 | ～近世 | 須恵器1 | 3.52 | 3.28 | |
| 72 | 1.9 | 1.2 | 2.3 | | | | 3.61 | ＊3.27 | ピート層 |
| 73 | 2.1 | 1.0 | 2.1 | | | | 3.65 | ＊3.25 | ピート層 |
| 74 | 2.2 | 1.1 | 2.4 | | | | 3.57 | ＊3.09 | ピート層 |
| 75 | 2.2 | 1.0 | 2.2 | | | | 3.61 | ＊3.16 | ピート層 |
| 76 | 1.8 | 1.0 | 1.8 | | | 土師器？ 1 | 3.64 | ＊3.27 | ピート層 |
| 77 | 2.0 | 1.0 | 2.0 | | | | 3.59 | ＊3.19 | ピート層 |
| 78 | 4.2 | 1.1 | 4.6 | | | | 3.60 | ＊3.25 | ピート層 |
| 79 | 2.2 | 1.1 | 2.4 | | | | 3.59 | ＊2.95 | ピート層 |
| 80 | 2.3 | 1.1 | 2.5 | | | | 3.73 | ＊2.73 | 湧水のため図化できず |
| 81 | 9.5 | 1.0 | 9.5 | 土坑4 | ～近世 | | 3.65 | 3.04 | |
| 82 | 2.2 | 1.0 | 2.2 | | | | 3.85 | 3.31 | |
| 83 | 2.6 | 0.7 | 1.8 | | | | 3.59 | 3.30 | 湧水のため遺構確認できず |
| 84 | 2.0 | 0.8 | 1.6 | | | | 3.59 | 3.00 | |
| 85 | 9.4 | 1.0 | 9.4 | 土坑1 | ～近世 | | 3.63 | 3.19 | |
| 86 | 8.0 | 1.0 | 8.0 | | | | 3.64 | ＊3.24 | ピート層 |
| 87 | 2.3 | 1.1 | 2.5 | 暗渠？ | 現代 | | 3.67 | 3.42 | |
| 88 | 2.8 | 1.0 | 2.8 | | | | 3.54 | ※3.22 | 洪水層、旧河道 |
| 89 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | 木根1 | | | 3.58 | ※3.21 | 洪水層、旧河道 |
| 90 | 2.3 | 1.0 | 2.3 | | | | 3.55 | ※3.07 | 洪水層、旧河道 |

**第９表　水橋池田舘遺跡調査地区一覧（3）**

| No. | 規模（m） | | 面積（㎡） | 遺　構 | | 遺　物 | 現況ＧＬ（m） | 遺構検出面ＥＬ（m） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長 | 幅 | | 種類 | 時期 | | | | |
| 91 | 2.0 | 1.2 | 2.4 | | | | 3.51 | ※3.16 | 洪水層、旧河道 |
| 92 | 2.2 | 0.7 | 1.5 | | | | 3.51 | ※3.14 | 洪水層、旧河道 |
| 93 | 2.1 | 0.8 | 1.7 | | | | 3.50 | ※3.10 | 洪水層、旧河道 |
| 94 | 2.0 | 1.3 | 2.6 | | | | 3.58 | ※3.18 | 洪水層、旧河道 |
| 95 | 2.1 | 0.8 | 1.7 | | | | 3.52 | ※3.07 | 洪水層、旧河道 |
| 96 | 2.2 | 0.9 | 2.0 | | | | 3.53 | ※3.05 | 洪水層、旧河道 |
| 97 | 6.7 | 0.9 | 6.0 | | | | 3.71 | ※3.34 | 洪水層、旧河道 |
| 98 | 2.0 | 0.8 | 1.6 | | | | 3.67 | ※3.37 | 洪水層、旧河道 |
| 99 | 8.0 | 0.9 | 7.2 | | | | 3.62 | ※3.39 | 洪水層、旧河道 |
| 100 | 9.0 | 0.7 | 6.3 | | | | 3.70 | ※3.48 | 洪水層、旧河道 |
| 101 | 9.5 | 0.9 | 8.6 | 暗渠？4 | 現代 | | 3.70 | ※3.47 | 洪水層、旧河道 |
| 102 | 5.5 | 1.0 | 5.5 | | | | 3.74 | ※3.44 | 洪水層、旧河道 |
| 103 | 3.3 | 1.0 | 3.3 | | | | 3.66 | ※3.40 | 洪水層、旧河道 |
| 104 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | | | | 3.68 | ※3.40 | 洪水層、旧河道 |
| 105 | 7.4 | 1.0 | 7.4 | | | | 3.67 | ※3.40 | 洪水層、旧河道 |
| 106 | 2.0 | 0.9 | 1.8 | | | | 3.72 | ※3.42 | 洪水層、旧河道 |
| 107 | 2.1 | 1.3 | 2.7 | 暗渠？1 | 現代 | | 3.68 | ※3.50 | 洪水層、旧河道 |
| 108 | 2.2 | 0.9 | 2.0 | | | | 3.66 | ※3.33 | 洪水層、旧河道 |
| 109 | 4.7 | 1.0 | 4.7 | | | | 3.27 | ※2.85 | 洪水層、旧河道 |
| 110 | 4.2 | 1.0 | 4.2 | | | | 3.56 | ※2.92 | 洪水層、旧河道 |
| 111 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | | | | 3.19 | ※2.43 | 洪水層、旧河道 |
| 112 | 5.1 | 1.0 | 5.1 | | | | 2.86 | ※2.60 | 洪水層、旧河道 |
| 113 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | | | | 2.98 | ※2.73 | 洪水層、旧河道 |
| 114 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | | | | 3.10 | ※2.79 | 洪水層、旧河道 |
| 115 | 4.8 | 1.0 | 4.8 | カクラン | 現代 | | 3.11 | ※2.69 | 洪水層、旧河道 |
| 116 | 5.4 | 1.0 | 5.4 | | | | 2.87 | ※2.68 | 洪水層、旧河道 |
| 117 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | | 2.84 | ※2.59 | 洪水層、旧河道 |
| 118 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | | 3.06 | ※2.56 | 洪水層、旧河道 |
| 119 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | | | | 2.90 | ※2.59 | 洪水層、旧河道 |
| 120 | 4.8 | 1.0 | 4.8 | | | | 2.86 | ※2.55 | 洪水層、旧河道 |
| 121 | 4.8 | 1.0 | 4.8 | | | | 3.94 | ※3.75 | 洪水層、ピート層 |
| 122 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | 越中瀬戸 | 3.96 | ※3.63 | 洪水層、ピート層 |
| 123 | 1.7 | 1.0 | 1.7 | | | | 4.02 | ※3.63 | 洪水層、ピート層 |
| 124 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | | | 越中瀬戸 | 3.77 | ※3.48 | 洪水層、ピート層 |
| 125 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | 伊万里 | 3.76 | ※3.42 | ピート層 |
| 126 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | | | | 3.75 | ※3.39 | 洪水層、ピート層 |
| 127 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | 暗渠 | 現代 | | 3.90 | ※3.49 | 洪水層、ピート層 |
| 128 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | 暗渠 | 現代 | | 3.94 | ※3.47 | 洪水層、ピート層 |
| 129 | 4.7 | 1.0 | 4.7 | | | | 3.77 | ※3.29 | 洪水層、ピート層 |
| 130 | 5.5 | 1.0 | 5.5 | カクラン・暗渠 | 現代 | | 3.80 | ※3.27 | 洪水層、ピート層 |

※ 洪水層上面ＥＬ、＊ ピート層上面ＥＬ

## 第10表　水橋池田舘遺跡土坑一覧（1）

| 遺構№ | 種類 | 座標 | | 平面形 | 法量（m） | | | 出土遺物 | 時期 | 切り合い | 備考 | 挿図 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X | Y | | 長 | 幅 | 深 | | | | | | |
| SK10 | 土坑 | 11 | 12～13 | 円 | 0.61 | 0.58 | 0.20 | | | SK10>SD6 | φ10cmの円礫底面出土根石か？ | 18 | |
| SK11 | 土坑 | 12～13 | 12～14 | 不整 | 2.80 | (2.54) | 0.20 | 青磁 | | SK11>SD6・SK13, SK11<SX24 | 大型方形土坑 | 19･20 | 6 |
| SK12 | 土坑 | 12 | 11 | 円 | 0.40 | 0.35 | 0.47 | | | | 柱痕　φ15cmの礫出土礎石か？ | 19･20 | 6 |
| SK13 | 土坑 | 13 | 13 | 円 | 0.25 | 0.25 | 0.28 | | | SK13<SK11 | 柱痕？ | 19･20 | |
| SK14 | 土坑 | 17 | 15 | 円 | 0.30 | 0.26 | 0.54 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK15 | 土坑 | 17 | 15 | 円 | 0.22 | 0.22 | 0.25 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK16 | 土坑 | 18 | 14 | 楕円 | 0.44 | 0.29 | 0.46 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK17 | 土坑 | 17 | 13 | 楕円 | 0.36 | 0.29 | 0.61 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK18 | 土坑 | 17 | 13 | 楕円 | 0.41 | 0.27 | 0.07 | | | | | | |
| SK19 | 土坑 | 17 | 13 | 円 | 0.33 | 0.29 | 0.22 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK20 | 土坑 | 17 | 12 | 楕円 | 0.35 | 0.26 | 0.22 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK22 | 土坑 | 13 | 9 | 楕円 | 0.40 | 0.32 | 0.20 | | | SK22<SX24 | | 19･20 | |
| SK23 | 土坑 | 13 | 10 | 楕円 | 0.42 | 0.30 | 0.44 | | | SK23<SX24 | 柱痕 | 19･20 | |
| SX24 | 土坑 | 12～14 | 9～12 | 不整 | 6.49 | 2.75 | 0.38 | 中世土師器・珠洲 | | SX24>SD6･SK11･SK22･SK23･SK27・SD38, SX24<SE25･SD39 | 大型方形土坑　複数の土坑が重複　張り床状？ | 19･20 | 6 |
| SK26 | 土坑 | 18 | 12 | (楕円) | (0.38) | 0.27 | 0.22 | | | SK26<SD7 | 調査区北壁にかかる | | |
| SK27 | 土坑 | 12 | 12 | 楕円 | 0.77 | 0.37 | 0.15 | | | SK27<SX24 | φ15cmの礫底面出土根石か？ | 19･20 | |
| SK28 | 土坑 | 18 | 12～13 | 円 | 0.37 | 0.36 | 0.63 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK29 | 土坑 | 18 | 13 | 円 | 0.28 | 0.28 | 0.54 | | | | 柱痕か | 18 | |
| SK30 | 土坑 | 17 | 12 | 円 | 0.20 | 0.18 | 0.11 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK31 | 土坑 | 14 | 10 | 円 | 0.32 | 0.28 | 0.16 | | | | | 19･20 | |
| SK32 | 土坑 | 14 | 9 | 楕円 | 0.24 | 0.19 | 0.11 | | | | | 19･20 | |
| SK33 | 土坑 | 16 | 12 | 不整 | 0.97 | 0.67 | 0.38 | | | | 2つの土坑が重複（連結）か | | |
| SK34 | 土坑 | 16 | 12 | 長方 | 1.30 | 0.46 | 0.41 | | | | | | |
| SK35 | 土坑 | 15 | 13 | (不整) | 0.38 | (0.17) | 0.15 | | | SK35<SK36 | | | |
| SK36 | 土坑 | 15 | 13 | 楕円 | 0.42 | 0.30 | 0.17 | | | SK36>SK35 | | | |
| SK37 | 土坑 | 13 | 13 | 楕円 | 0.60 | 0.37 | 0.18 | | | | | | |
| SK40 | 土坑 | 13 | 13 | 楕円 | 0.42 | 0.33 | 0.19 | | | | 柱痕？ | 19･20 | |
| SK41 | 土坑 | 14 | 13 | 円 | 0.42 | 0.37 | 0.26 | | | SK41>SK42 | | | |
| SK42 | 土坑 | 14 | 13 | (不整) | 0.80 | (0.34) | 0.26 | | | SK42<SK41 | | | |
| SK43 | 土坑 | 14 | 13 | 円 | 0.24 | 0.22 | 0.16 | | | | | | |
| SK44 | 土坑 | 14 | 13 | 楕円 | 0.75 | 0.36 | 0.22 | | | | 柱痕？ | | |
| SK45 | 土坑 | 14 | 12 | 楕円 | 0.37 | 0.32 | 0.12 | | | | 柱痕 | 19･20 | |
| SK46 | 土坑 | 14 | 12～13 | 楕円 | 0.61 | 0.33 | 0.14 | | | SK46>SK47 | | | |
| SK47 | 土坑 | 14 | 13 | (不整) | (0.40) | 0.24 | 0.18 | | | SK47<SK46 | 柱痕？ | | |
| SK48 | 土坑 | 15 | 12 | 円 | 0.27 | 0.23 | 0.12 | | | | | | |
| SK49 | 土坑 | 14～15 | 12 | 楕円 | 0.70 | 0.36 | 0.25 | 中世土師器 | | | | 18 | |
| SK50 | 土坑 | 14 | 12 | 円 | 0.23 | 0.20 | 0.21 | | | | | 19･20 | |
| SK52 | 土坑 | 17 | 12 | 円 | 0.25 | 0.25 | 0.16 | | | | | | |
| SK54 | 土坑 | 10～11 | 12 | 不整 | 0.43 | 0.38 | 0.15 | | | | | | |
| SK55 | 土坑 | 10 | 13 | 不整 | 0.63 | 0.40 | 0.24 | | | | 柱痕 | 18 | |
| SK56 | 土坑 | 9 | 13 | 楕円 | 0.37 | 0.26 | 0.15 | | | SK56<SD6 | | | |
| SK57 | 土坑 | 9 | 13 | 楕円 | 0.97 | 0.46 | 0.09 | | | | | | |
| SK58 | 土坑 | 2 | 12～13 | 円 | 0.67 | 0.67 | 0.18 | | | | | | |
| SK59 | 土坑 | 2 | 11 | 円 | 0.35 | 0.30 | 0.21 | | | | 柱痕？ | 18 | |
| SK60 | 土坑 | 4 | 12 | 円 | 0.27 | 0.24 | 0.29 | | | | 柱痕？ | | |
| SK61 | 土坑 | 5 | 11 | 楕円 | 0.47 | 0.35 | 0.26 | | | SK61<SD4 | | 18 | |
| SK62 | 土坑 | 4 | 10 | 円 | 0.24 | 0.20 | 0.28 | | | SK62<SD3 | | 18 | |
| SK64 | 土坑 | 5 | 11 | (円) | 0.40 | (0.34) | 0.16 | | | SK64<SD4 | | | |
| SK67 | 土坑 | 2 | 10 | 楕円 | 0.32 | 0.24 | 0.28 | | | | | | |
| SK68 | 土坑 | 1～2 | 14 | 円 | 0.65 | 0.63 | 0.24 | | | SK68<SD6 | | | |
| SK69 | 土坑 | 2 | 11 | 円 | 0.23 | 0.23 | 0.09 | | | | | | |
| SK72 | 土坑 | 9 | 5 | 楕円 | 0.42 | 0.30 | 0.40 | | | | φ15cmの礫2点縦位で検出　根石か？ | 18 | |
| SK73 | 土坑 | 8 | 5 | 円 | 0.38 | 0.35 | 0.33 | | | | φ25cmの礫上面をほぼ水平に据える　礎石か？ | 21 | |
| SK74 | 土坑 | 9 | 5 | 楕円 | 0.27 | 0.15 | 0.15 | | | | | | |
| SK75 | 土坑 | 11 | 4 | 円 | 0.27 | 0.27 | 0.17 | | | | 柱痕 | 21 | |
| SK76 | 土坑 | 12 | 4 | 楕円 | 0.29 | 0.24 | 0.14 | | | | | | |
| SK77 | 土坑 | 12 | 4 | 楕円 | 0.50 | 0.35 | 0.13 | | | | 噴砂に切られる | | |
| SX80 | 土坑？ | 18 | 3～4 | 不整 | 2.30 | (1.10) | 0.41 | 珠洲 | | SX80>SD2 ？ | 2基の土坑が重複 | | |
| SK81 | 土坑 | 17 | 14 | 円 | 0.31 | 0.27 | 0.40 | | | | | | |
| SK83 | 土坑 | 16 | 10 | 楕円 | (0.75) | 0.40 | 0.31 | | | SK83<SD38・SE82 | | 16 | |
| SK84 | 土坑 | 16 | 11 | 円 | 0.28 | 0.25 | 0.19 | | | SK84<SD38 | | | |
| SK85 | 土坑 | 16 | 11 | 円 | 0.27 | 0.27 | 0.33 | | | SK85<SD38 | 柱痕？ | 21 | |
| SK86 | 土坑 | 18 | 8 | 楕円 | 0.45 | 0.25 | 0.13 | | | | | | |
| SK87 | 土坑 | 17 | 8 | 円 | 0.24 | 0.20 | 0.11 | | | | | | |
| SK88 | 土坑 | 17 | 7 | 楕円 | 0.29 | 0.22 | 0.45 | | | | | | |
| SK91 | 土坑 | 16 | 9 | 楕円 | 0.41 | 0.32 | 0.17 | | | | φ20cmの礫上面ほぼ水平に据える　礎石？ | 21 | |
| SK92 | 土坑 | 17 | 9 | 楕円 | 0.39 | 0.30 | 0.18 | | | | | 21 | |
| SK93 | 土坑 | 17 | 9 | 不整 | 0.61 | 0.44 | 0.22 | 珠洲 | | | | 21 | 6 |
| SK95 | 土坑 | 17 | 8 | 円 | 0.32 | 0.30 | 0.27 | | | | | 21 | |

## 第10表　水橋池田舘遺跡土坑一覧（2）

| 遺構No. | 種類 | 座標 | | 平面形 | 法量（m） | | | 出土遺物 | 時期 | 切り合い | 備考 | 挿図 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X | Y | | 長 | 幅 | 深 | | | | | | |
| SK96 | 土坑 | 16 | 9 | 楕円 | 0.37 | 0.24 | 0.14 | | | | | | |
| SK97 | 土坑 | 17 | 9 | 楕円 | 0.24 | 0.18 | 0.20 | | | | | | |
| SK98 | 土坑 | 6 | 7 | 円 | 0.27 | 0.25 | 0.26 | | | | φ20cmの円礫上面ほぼ水平に据える　礎石か？ | 21 | 6 |
| SK99 | 土坑 | 6 | 8 | 楕円 | 0.36 | 0.27 | 0.14 | | | | | | |
| SK100 | 土坑 | 12 | 10 | 円 | 0.33 | 0.28 | 0.30 | 木製品（柱根） | | | 柱根残存　2基重複か？ | 19・20 | 6 |
| SK101 | 土坑 | 8 | 10 | 円 | 0.30 | 0.28 | 0.35 | 木製品（柱根） | | | 柱根残存 | 21 | |
| SK106 | 土坑 | 17 | 15 | （不整） | （1.00） | （0.26） | （0.34） | | | | 調査区東壁にかかる排水溝で壊される | | |
| SK107 | 土坑 | 18 | 4 | （円） | 0.35 | （0.12） | 0.44 | | | | 調査区北壁にかかる | 23 | |

## 第11表　水橋池田舘遺跡井戸一覧

| 遺構No. | 種類 | 座標 | | 平面形 | 法量（m） | | | 出土遺物 | 時期 | 切り合い | 備考 | 挿図 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X | Y | | 長 | 幅 | 深 | | | | | | |
| SE25 | 井戸？ | 12 | 10 | 円 | 0.74 | 0.65 | 0.62 | 珠洲 | | SE25>SX24 | 素掘井戸か？埋土中～下位円礫入る　大型方形土坑SX24南辺に位置する | 19・20 | 5 |
| SE53 | 井戸 | 16 | 11 | 円 | 0.71 | 0.67 | 1.03 | | | SE53<SD38 | 素掘井戸 | 16 | 5 |
| SE63 | 井戸 | 7 | 14 | 楕円 | 0.73 | 0.60 | 0.68 | | | SE63<SD6 | 大型方形土坑の西辺に位置する　素掘井戸 | 16 | |
| SE65 | 井戸 | 5 | 10 | 楕円 | 0.73 | 0.61 | 1.29 | 珠洲・越中瀬戸 | | SE65<SD3 | 素掘井戸 | 16 | |
| SE66 | 井戸 | 4～5 | 10 | 不整 | 0.78 | 0.78 | 1.23 | | | SE66<SD3 | 素掘井戸 | 16 | |
| SE70 | 井戸 | 1 | 10～11 | 円 | 0.58 | 0.55 | 1.08 | 中世土師器・越中瀬戸 | | | 素掘井戸 | 16 | |
| SE71 | 井戸 | 9 | 4～5 | 円 | 0.70 | 0.66 | 0.56 | | | | 素掘井戸 | 16 | |
| SE78 | 井戸 | 12～13 | 3 | （円） | 0.80 | （0.55） | 1.00 | 中世土師器・越中瀬戸・木製品（漆器・底板・箸・曲物・棒状・杭） | | | 調査区西壁にかかる素掘井戸 | 16 | 5 |
| SE82 | 井戸？ | 16 | 10～11 | 楕円 | 0.80 | 0.72 | 0.86 | 石製品（五輪塔） | | SE82>SK83，SE82<SD38 | 埋土中位φ～20cmの円礫で埋める　素掘井戸か？ | 16 | 5 |
| SE89 | 井戸 | 15～16 | 10 | 円 | 0.65 | 0.65 | 1.00 | | | SE89>SD6，SE89<SD39 | 素掘井戸 | 17 | |
| SE90 | 井戸 | 17 | 9 | 円 | 0.63 | 0.56 | 0.64 | | | SE90<SD39 | 素掘井戸 | 17 | |
| SE94 | 井戸 | 16～17 | 8 | 楕円 | 0.65 | 0.54 | 0.82 | 中世土師器 | | | 東側小土坑と重複　素掘井戸 | 17 | |
| SE104 | 井戸 | 4 | 15 | （不整） | 1.65 | （0.30） | 0.75 | | | | 調査区東壁にかかる素掘井戸 | 17 | |
| SE108 | 井戸 | 17 | 10 | 不整 | 1.00 | 0.82 | 0.41 | | | SE108<SD38 | SD38底面で検出　素掘井戸　検出面からの深さ0.62m | 17 | |

## 第12表　水橋池田舘遺跡溝一覧

| 遺構No. | 種類 | 座標 | | 法量（m） | | 出土遺物 | 時期 | 切り合い | 備考 | 挿図 | 写真 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | X | Y | 幅 | 深 | | | | | | |
| SD1 | 堀 | 1～14 | 2～7 | 3.90 | 0.70 | 青磁・越中瀬戸・伊万里？・近世陶器 | | | L字状に屈曲　SD2と二重に巡る　内堀 | 22 | 3 |
| SD2 | 堀 | 1～17 | 1～9 | 2.70 | 0.54 | 土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・瓦質土器・白磁・青磁・越中瀬戸・唐津・木製品（棒状） | | SD2>SD3・SD102・SD103，SD2<SX79・SX80 | L字状に屈曲　SD1と二重に巡る　外堀　屈曲部に一部石積み等の護岸の痕跡か | 22 | 3 |
| SD3 | 溝 | 1～7 | 10 | 0.40 | 0.32 | 中世土師器 | | SD3>SK62・SE65・SE66，SD3<SD2 | SD3・4・5・102と並走南北溝 | 22 | 4 |
| SD4 | 溝 | 1～11 | 10～12 | 0.63 | 0.17 | 弥生土器・中世土師器・珠洲 | | SD4>SK61・SK64，SD4<SD9 | SD3・4・5・102と並走南北溝 | 22 | |
| SD5 | 溝 | 1～11 | 12～14 | 0.75 | 0.18 | 中世土師器・青磁 | | SD5>SD9，SD5<SD6・SD8 | SD3・4・5・102と並走南北溝 | 22 | |
| SD6 | 溝 | 1～15 | 10～14 | a 0.65<br>b 0.55 | a 0.20<br>b 0.12 | 中世土師器・珠洲・越中瀬戸 | | SD6>SD5・SD8・SK56・SE63・SK68，SD6<SK10・SK11・SX24・SD38・SE89 | 南端はa・b合流する南北溝 | 19・20・22 | |
| SD7 | 溝 | 10～18 | 11～15 | 0.72 | 0.22 | 中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津・石製品（砥石） | | SD7>SK26，SD7<SD21・SD38 | L字状に屈曲 | 21・23 | 4 |
| SD8 | 溝 | 5～8 | 12～13 | 0.62 | 0.08 | | | SD8>SD5，SD8<SD6 | | | |
| SD9 | 溝 | 11 | 9～12 | 0.77 | 0.09 | 中世土師器 | | SD9>SD4，SD9<SD5 | 東西溝 | 19・20 | |
| SD21 | 溝 | 13～14 | 15 | 0.70 | 0.16 | | | SD21>SD7 | 調査区東壁にかかる南北溝 | 21 | 4 |
| SD38 | 溝 | 14～18 | 10～11 | 2.50 | 0.31 | 中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津 | | SD38>SD6・SD7・SE53・SE82・SK83・SK84・SK85・SE108，SD38<SX24・SD39・SD51 | | 23 | |
| SD39 | 溝 | 14～18 | 9～10 | 1.14 | 0.26 | 中世土師器・越中瀬戸・唐津・金属製品（銭） | | SD39>SX24・SD38？・SE89・SE90 | SX79に続く溝か？ | 23 | 4 |
| SD51 | 溝 | 14～15 | 11～12 | 0.23 | 0.24 | | | SD51>SD38 | | | |
| SX79 | 溝？ | 17～18 | 6～8 | 4.50 | 0.57 | 土師器（古代以前？）・中世土師器・珠洲・青磁・越中瀬戸・唐津 | | SX79>SD2？ | 集石あり　堰状？SD39と続くか？ | 21・23 | 4 |
| SD102 | 溝 | 1～6 | 8 | 0.55 | 0.07 | | | SD102<SD2 | SD3・4・5・102と並走南北溝 | | |
| SD103 | 溝 | 18 | 2 | 1.00 | 0.50 | 越前？・越中瀬戸・唐津 | | SD103<SD2？ | 調査区北壁にかかる南北溝 | 23 | 4 |
| SD105 | 溝 | 18 | 1 | （0.45） | 0.04 | | | | 調査区北壁にかかる東西溝 | 23 | |

## 第13表　水橋池田舘遺跡土器・陶磁器一覧（1）

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | | 時期 | 胎土色調 | | 釉色調 | | 釉薬 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | 口径 | 器高 | 底径 | 高台径 | | 記号 | 色名 | 記号 | 釉色 | | |
| 25 | 1 | 9 | | SD4 | X3Y12 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | | | | | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | | | | 摩滅顕著 |
| | 2 | 9 | 42T | | 南から1m Ⅰ層 | 弥生土器？ | 甕 | 13.6 | | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | 石英　雲母 |
| | 3 | 9 | | SD2東肩 | X13～14Y9 | 須恵器 | 杯 | 12.3 | 3.3 | 8.8 | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | 外面一部煤付着 |
| | 4 | 9 | 43T | | Ⅰ層 | 須恵器 | 壺 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 内面器面荒れ |
| | 5 | 9 | 71T | | 南から3.8m土坑？ | 須恵器 | 甕 | | | | | | 7.5Y6/1 | 灰色 | | | | |
| | 6 | 9 | | SD2 | X16Y10 | 青磁 | 椀 | 14.2 | | | | | 5Y8/1 | 灰白色 | 7.5GY7/1 | 明緑灰色 | 青磁釉 | 口縁輪花状 |
| | 7 | 9 | 1T | | 排土 | 青磁 | 椀 | 14.3 | | | | | 5Y7/1 | 灰白色 | 7.5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 青磁釉 | 口縁外面雷文帯？ |
| | 8 | 9 | | | X15Y13 Ⅰ層 | 青磁 | 椀 | | | | | | 5Y8/1 | 灰白色 | 10Y5/2 | オリーブ灰色 | 青磁釉 | |
| | 9 | 9 | | SK11 | X12Y13 | 青磁 | 椀 | | | | 6.0 | | 2.5Y7/1 | 灰白色 | 10Y5/2 | オリーブ灰色 | 青磁釉 | 鎬蓮弁文　高台裏無釉 |
| | 10 | 9 | | SD5 | X1Y13 | 青磁 | 椀 | | | | | | 2.5Y7/1 | 灰白色 | 10Y5/2 | オリーブ灰色 | 青磁釉 | 蓮弁文 |
| | 11 | 9 | | SX79 | X17Y6～7 | 青磁？ | 椀 | | | | 5.1 | | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 青磁釉 | 被熱 |
| | 12 | 9 | | SD1 | X1Y7 | 青磁 | 盤？ | | | | (8.8) | | 2.5Y7/1 | 灰白色 | 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 青磁釉 | 高台裏墨書？ |
| | 13 | 9 | | SD2 | X2～3Y10 | 白磁 | 小杯？ | | | | 5.0 | | 2.5Y8/1 | 灰白色 | 2.5GY8/1 | 灰白色 | 白磁釉 | 高台端部を除く全面施釉 |
| | 14 | 9 | | SD2 | X13Y8 | 中世土師器 | 皿 | 13.0 | | | | | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | | | | |
| | 15 | 9 | | SD2 | X6Y9 | 中世土師器 | 皿 | 9.6 | 2.2 | | | | 5YR5/6 | 明赤褐色 | | | | 赤色粒 |
| | 16 | 9 | | SD2東肩 | X13～14Y9 | 中世土師器 | 皿 | 8.4 | 1.7 | | | | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | | | | |
| | 17 | 9 | | SD2 | X10～11Y9 | 中世土師器 | 皿 | 7.7 | 1.2 | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | |
| | 18 | 9 | | SD2 | X5Y13 | 中世土師器 | 皿 | 10.4 | 2.0 | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | |
| | 19 | 9 | | SD2 | X10Y8 | 中世土師器 | 皿 | 10.2 | | | | | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | | | | 赤色粒　石英 |
| | 20 | 9 | | SD2 | X10～11Y9 | 中世土師器 | 皿 | 8.4 | 2.2 | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | 口縁部内外面煤付着 |
| | 21 | 9 | | SD2 | X10～11Y9 | 中世土師器 | 皿 | 6.9 | 2.4 | | | | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | | | | 赤色粒　雲母 |
| | 22 | 9 | | SD2 | X17Y2 | 中世土師器 | 皿 | 8.2 | | | | | 2.5Y8/3 | 淡黄色 | | | | |
| | 23 | 9 | | SD2 | X10Y8 | 中世土師器 | 皿 | 9.0 | | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | 赤色粒 |
| | 24 | 9 | | SD4 | X3Y12 | 中世土師器 | 皿 | 7.0 | | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | |
| | 25 | 9 | | SD6 | X6Y14 | 中世土師器 | 皿 | 7.3 | 1.3 | | | | 2.5Y8/2 | 灰白色 | | | | |
| | 26 | 9 | | SD5 | X3Y13 | 中世土師器 | 皿 | 10.0 | | | | | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | | | | 赤色粒 |
| | 27 | 9 | | SD7 | X13Y15 | 中世土師器 | 皿 | 10.4 | | | | | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | | | | 赤色粒 |
| | 28 | 9 | | SD7 | X18Y12 | 中世土師器 | 皿 | | | | | | 10YR8/3 | 浅黄橙色 | | | | 内外面煤付着 |
| | 29 | 9 | | SE78 | | 中世土師器 | 皿 | 8.0 | | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | 赤色粒 |
| | 30 | | | SD9 | X11Y10 | 中世土師器 | 皿 | 9.8 | | | | | 5YR6/6 | 橙色 | | | | |
| | 31 | 9 | | SD9 | X11Y10 | 中世土師器 | 皿 | 9.0 | 1.4 | | | | 7.5YR7/6 | 橙色 | | | | |
| | 32 | 9 | | SD9 | X11Y10 | 中世土師器 | 皿 | 8.4 | 1.3 | | | | 10YR8/2 | 灰白色 | | | | |
| | 33 | 9 | | SE94 | | 中世土師器 | 皿 | 8.0 | | | | | 7.5YR8/3 | 浅黄橙色 | | | | 口縁端部煤付着 赤色粒 |
| | 34 | | | SD38 | X16Y11 | 中世土師器 | 皿 | 13.0 | | | | | 2.5Y8/3 | 淡黄色 | | | | |
| | 35 | | | SD39 | X16Y9 | 中世土師器 | 皿 | 11.0 | | | | | 7.5YR7/3 | にぶい橙色 | | | | 赤色粒 |
| | 36 | 9 | | SD39 | X13Y9 | 中世土師器 | 皿 | 8.8 | | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | |
| | 37 | 9 | | | X12Y4～5 Ⅰ層 | 中世土師器 | 皿 | 8.0 | | | | | 10YR8/3 | 浅黄橙色 | | | | |
| | 38 | 9 | | SX79 | X17Y6～7 | 中世土師器 | 皿 | 12.5 | 2.3 | | | | 7.5YR7/6 | 橙色 | | | | 赤色粒 |
| | 39 | 9 | | SX79 | X17Y6～7 | 中世土師器 | 皿 | 7.8 | 1.4 | | | | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | 口縁部内外面タール状煤付着　灯明皿 |
| | 40 | 9 | | SX79 | X17Y6～7 | 中世土師器 | 皿 | 8.1 | 1.4 | | | | 7.5YR7/6 | 橙色 | | | | |
| | 41 | 9 | | SX24-A | | 中世土師器 | 皿 | 11.0 | | | | | 10YR4/1 | 褐灰色 | | | | 内外面タール状煤付着　灯明皿？ |
| | 42 | 9 | | SX24-A | | 中世土師器 | 皿 | 10.0 | 1.5 | | | | 2.5Y8/2 | 灰白色 | | | | |
| | 43 | | | SX24-A | | 中世土師器 | 皿 | 8.2 | (2.0) | | | | 5YR6/6 | 橙色 | | | | |
| 26 | 44 | 10 | | SD2 | X17Y2 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | | Ⅴ期 | 7.5Y6/1 | 灰色 | | | | 骨針 |
| | 45 | | | SD2 | X9Y8 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 2.5㎝幅8条1単位の卸目 |
| | 46 | 10 | | SD7 | | 珠洲 | 擂鉢 | | | | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | 2.1㎝幅14条1単位の卸目 |
| | 47 | 10 | | SX79 | X17Y6～7 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | | Ⅳ期？ | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 外傾方頭口縁　2.5cm幅15条1単位の卸目　骨針 |
| | 48 | 10 | | SX79 | X17Y6～7 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 2㎝幅7条1単位の卸目　骨針 |
| | 49 | | | SX79 | X17Y6～7 | 珠洲 | 擂鉢 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 2.5㎝幅8条1単位の卸目　骨針 |
| | 50 | 10 | | SD2 | X2～3Y10 | 珠洲 | 擂鉢 | | | 14.0 | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 2㎝幅8条1単位の卸目　底部静止糸切痕 |
| | 51 | 10 | | SK93 | | 珠洲 | 擂鉢 | | | 10.0 | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 2.9㎝幅12条1単位の卸目　右回りに施文　体部下位指頭圧痕　底部静止糸切痕 |
| | 52 | 10 | | SX24-A | | 珠洲 | 擂鉢 | 33.0 | | | | Ⅴ期？ | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | 三角頭口縁　口縁端部櫛目波状文　片口付け根指頭圧痕　卸目は密（原体幅等は不明）　骨針 |
| | 53 | 10 | | SX79 | X17Y6～7 | 珠洲 | 擂鉢 | 31.6 | | | | Ⅴ期 | 2.5Y5/1 | 黄灰色 | | | | 三角頭口縁　口縁櫛目波状文　2㎝幅7条1単位の卸目 |
| | 54 | 10 | | SX79 | X17Y6～7 | 珠洲 | 擂鉢 | 30.2 | | | | Ⅴ期 | 7.5Y6/1 | 灰色 | | | | 三角頭口縁　口縁櫛目波状文　2.7㎝幅11条1単位の卸目　骨針 |
| | 55 | 10 | | | X18Y5 Ⅰ層 | 珠洲 | 擂鉢 | 26.2 | | | | Ⅳ期？ | 5Y5/1 | 灰色 | | | | 方頭口縁　口縁櫛目波状文　3.2㎝幅15条1単位の卸目　骨針 |
| | 56 | | | SD2 | X9Y9 | 珠洲 | 擂鉢 | | | 11.9 | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 1.9㎝幅7条1単位の卸目　右回り放射状に施文　底部静止糸切痕 |
| | 57 | 10 | | | 排土 | 珠洲 | 擂鉢 | | | 12.0 | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | 1.8㎝幅5条1単位の卸目　左回りの施文か？　見込み磨耗顕著　底部外面指頭圧痕　底部静止糸切痕　骨針 |
| 27 | 58 | 10 | | SE65 | | 珠洲 | 甕 | | | | | Ⅳ2期？ | 5Y6/1 | 灰色 | | | | |
| | 59 | | | SD2 | X8Y9 | 珠洲 | 甕 | | | | | | 2.5Y5/1 | 黄灰色 | | | | |
| | 60 | | | SD6 | X5Y14 | 珠洲 | 甕 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | |

## 第13表　水橋池田舘遺跡土器・陶磁器一覧（2）

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | | 時期 | 胎土色調 | | 釉色調 | | 釉薬 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | 口径 | 器高 | 底径 | 高台径 | | 記号 | 色名 | 記号 | 釉色 | | |
| 27 | 61 | | | SD6 | X5Y14 | 珠洲 | 甕 | | | | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | |
| | 62 | | | SX80 | X17Y4 | 珠洲 | 甕 | | | | | | 5Y5/1 | 灰色 | | | | |
| | 63 | 10 | | SX24-A | | 珠洲 | 甕 | | | | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | |
| | 64 | 10 | | SE25 | | 珠洲 | 甕 | | | | | | 5Y4/1 | 灰色 | | | | 内面白色物質膜状に付着 |
| | 65 | | | SX79 | X17Y6～7 | 珠洲 | 甕 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 内面あて具痕　指頭圧痕（爪痕）？骨針 |
| | 66 | 10 | | SD38 | X16Y11 | 珠洲 | 甕 | | | (16.5) | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | | | | 内面溶解物付着（自然釉？）　内面器面荒れ |
| | 67 | | | SD2 | X14Y6 | 珠洲 | 甕 | | | | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | |
| | 68 | 10 | | SD2東肩 | X13～14Y9 | 珠洲 | 四耳壺 | | | | | Ⅴ期 | 2.5Y5/1 | 黄灰色 | | | | 内面あて具痕 |
| | 69 | 10 | | SD7 | X14Y15 | 珠洲 | 壺 | | | 8.2 | | | 5Y6/1 | 灰色 | | | | 体部下位指頭圧痕　底部静止糸切痕 |
| | 70 | 10 | | SD2 | X6Y10 | 珠洲？ | 鉢 | | | 10.0 | | | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | | | | 底部静止糸切痕　生焼け珠洲？ |
| | 71 | 10 | | SD2 | X14Y16 | 珠洲 | 擂鉢 | | | 9.6 | | | N6/ | 灰色 | | | | 底部静止糸切痕　内面磨耗 |
| 28 | 72 | 11 | | SD1 | X6Y7 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 5.0 | ～17C前 | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | 5Y8/2 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　16弁菊印花文　付高台？ |
| | 73 | 11 | | SD2 | X17Y7 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.2 | 2.8 | | 5.0 | 16C後半～17C | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み5弁桜印花文　12重の同心円　重焼き痕を削り取る　削り出し高台　山下窯か　5YR5/3にぶい赤褐色に焼ける |
| | 74 | 12 | 3T | | 東から4.7m | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.8 | 2.5 | | 4.8 | 17C前～ | 2.5Y8/3 | 淡黄色 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | 鉄釉 | SD3出土か？　内禿Ⅲ　灰釉（7.5YR2/1黒色）流しかけ？　見込み重焼き痕　見込みと外面に円錐ピン？（目跡）　付高台 |
| | 75 | | | SD7 | X13Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.0 | 2.4 | | 4.2 | ～17C前 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ？　見込み重焼き痕　内面煤付着？　付高台 |
| | 76 | | | SD7 | X14Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 5.0 | ～17C前 | 10YR6/1 | 褐灰色 | 5Y4/3 | 灰オリーブ色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み重焼き痕　体部下半回転篦ケズリ　削り出し高台 |
| | 77 | 12 | | SD2 | X2～3Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.2 | 2.6 | | 3.8 | ～17C前 | 7.5YR7/3 | にぶい橙色 | 2.5Y8/2 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　削り出し高台？　体部下半回転篦ケズリ |
| | 78 | 12 | | SD2 | X4Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.6 | 2.3 | | 4.0 | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 2.5Y8/2 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉止め段　付高台？体部下半回転篦ケズリ |
| | 79 | | | SD2 | X5Y13 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 9.9 | 2.8 | | 4.2 | ～17C前 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　削り出し高台？ |
| | 80 | 12 | | SD2 | X4Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.2 | 2.4 | | 4.6 | ～17C前 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 2.5Y8/2 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　削り出し高台？ |
| | 81 | 12 | | SD2 | X17Y2 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.0 | 2.9 | | 4.5 | ～17C前 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み重焼き痕　体部下半回転篦ケズリ　削り出し高台？ |
| | 82 | 12 | | SD2 | X2～3Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.9 | | | | ～17C前 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ |
| | 83 | | | SD2東肩 | X15～16Y8 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 4.2 | ～17C前 | 2.5YR6/6 | 橙色 | | | | 内禿Ⅲ?　体部下半回転篦ケズリ　削り出し高台？ |
| | 84 | 12 | | SD7 | X13Y15 №1 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.4 | 2.4 | | 4.9 | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み重焼き痕　付高台？ |
| | 85 | 12 | | SD7 | X13Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.4 | 2.9 | | 4.6 | ～17C前 | 5YR7/4 | にぶい橙色 | | | | 無釉　体部下半回転篦ケズリ　付高台？ |
| | 86 | 12 | | SD7 | X15Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.7 | 2.5 | | 4.0 | ～17C前 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 2.5Y8/1 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉止め段　重焼き痕　削り出し高台　出土状況写真あり |
| | 87 | | | SD7 | X14Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | 5.0 | | ～17C前 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 5YR2/2 | 黒褐色 | 鉄釉 | 内禿Ⅲ　見込み・底部端部磨耗　内面煤付着？　底部回転糸切痕 |
| | 88 | | | SD7 | X7Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 4.6 | ～17C前 | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | 2.5Y8/2 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み重焼き痕　付高台 |
| | 89 | | | SD7 | X14Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 6.0 | ～17C前 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 鉄釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉止め段　重焼き痕　付高台？ |
| | 90 | 11 | | SD2 | X2～3Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.6 | 2.5 | | 4.0 | ～17C前 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　付高台？　高台裏墨書「○」 |
| | 91 | 11 | | SD2 | X2～3Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.4 | 2.7 | | 4.2 | ～17C前 | 5YR6/4 | にぶい橙色 | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　付高台？　高台裏墨書「○」 |
| | 92 | 11 | | SD2 | X15Y10 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 13.2 | 2.9 | | 4.8 | ～17C前 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | 鉄釉 | 内禿Ⅲ　見込み重焼き痕　付高台　高台裏墨書　一部灰釉 |
| | 93 | 11 | | SD6 | X3Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 10.8 | 2.2 | | 4.8 | ～17C前 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 2.5Y8/1 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉止め段　12弁？菊印花文　体部下半回転篦ケズリ　削り出し高台　高台裏墨書「△」か |
| | 94 | | | SD6 | X3Y15 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 4.0 | ～17C前 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | 鉄釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉止め段　体部下半回転篦ケズリ　削り出し高台 |
| | 95 | 11 | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 4.5 | 17C前～ | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 5YR4/1 | 褐灰色 | 鉄釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉止め段　重焼き痕　底部回転糸切痕　付高台　高台裏墨書 |
| | 96 | 11 | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | Ⅲ | | | | 3.8 | ～17C前 | 2.5Y7/1 | 灰白色 | 5Y5/4 | オリーブ色 | 灰釉 | 内禿Ⅲ　見込み釉印花文　釉止め段　重焼き痕　付高台？ |
| | 97 | 12 | | SD39 | X16Y9 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 13.0 | | | | 17C前～ | 10YR8/3 | 浅黄橙色 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 鉄釉 | ひだ皿　内禿Ⅲ　灰釉？（10YR2/1黒色）部分的 |
| 29 | 98 | | | SD38 | X16Y11 | 越中瀬戸 | Ⅲ | 11.2 | | | | ～17C前 | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | 灰釉 | |

## 第13表　水橋池田舘遺跡土器・陶磁器一覧（3）

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | | 時期 | 胎土色調 | | 釉色調 | | 釉薬 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | 口径 | 器高 | 底径 | 高台径 | | 記号 | 色名 | 記号 | 釉色 | | |
| 29 | 99 | 11 | | SD38 | X16Y11 | 越中瀬戸 | 皿 | | | | 4.7 | ～17C前 | 7.5YR7/4 | にぶい橙色 | 2.5Y8/2 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿皿　見込み16弁菊印花文　釉止め段　重焼き痕　体部打ち欠き？　付高台 |
| | 100 | 11 | | SE65 | | 越中瀬戸 | 皿 | 12.0 | 2.7 | | 4.3 | 17C前～ | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 鉄釉 | 内禿皿　見込み墨痕？　付高台？ |
| | 101 | 11 | | SD38 | X16Y11 | 越中瀬戸 | 皿 | | | | 5.4 | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 鉄釉 | 内禿皿　見込み印花文　重焼き痕　付高台？　高台裏墨書 |
| | 102 | 11 | | SE78 | | 越中瀬戸 | 皿 | 10.6 | 2.3 | | 4.6 | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 2.5Y8/1 | 灰白色 | 灰釉 | 内禿皿　見込み12弁菊印花文　重焼き痕　内定面凸面　付高台 |
| | 103 | 11 | | SD38 | X16Y11 | 越中瀬戸 | 皿 | 11.0 | 3.0 | | 6.3 | 17C前～ | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 鉄釉 | 向付　内禿皿　見込み「#」記号押印　釉止め段　一部灰釉（5Y5/4オリーブ色）付高台？　高台裏墨書 |
| | 104 | | | SE70 | | 越中瀬戸 | 皿 | | | | 6.2 | 17C前～ | 2.5Y7/1 | 灰白色 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | 鉄釉 | 向付　内禿皿　一部灰釉（7.5YR3/1黒褐色）　体部下半回転篦ケズリ？　削り出し高台 |
| | 105 | | | | X8Y15 I 層 | 越中瀬戸 | 皿 | 11.2 | | | | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | 灰釉 | 内禿皿 |
| | 106 | | | | 排土 | 越中瀬戸 | 皿 | | | | 5.6 | 17C前～ | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 5YR4/4 | にぶい黄褐色 | 鉄釉 | 内禿皿　見込み釉止め段　重焼き痕　付高台？ |
| | 107 | 12 | | SD103 | X18Y2 | 越中瀬戸 | 椀 | 11.2 | | | | ～17C前 | 10YR7/1 | 灰白色 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | 鉄釉 | 天目茶椀 |
| | 108 | 12 | | SD6 | X5Y14 | 越中瀬戸 | 椀 | | | | 4.8 | ～17C前 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 鉄釉 | 一部灰釉（7.5YR2/1黒色）　削り出し高台 |
| | 109 | 12 | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | 椀 | 10.0 | | | | ～17C前 | 5Y7/1 | 灰白色 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 鉄釉 | 丸椀　灰釉（10YR3/1黒褐色）流しかけ　体部下位（高台周辺）無釉 |
| | 110 | | | SD2 | X17Y7 | 越中瀬戸 | 椀 | | | | 4.6 | ～17C前 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | 7.5YR4/3<br>10YR2/1 | 褐色・黒色 | 鉄釉 | 削り出し高台 |
| | 111 | 12 | | | X5Y15・<br>X1Y15 I 層 | 越中瀬戸 | 椀 | 10.2 | | | | 17C前～ | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | 鉄釉 | 丸椀 |
| | 112 | 12 | | | X8Y15 I 層 | 越中瀬戸？ | 椀 | | | | 4.8 | 17C前～ | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 7.5YR2/1 | 黒色 | 鉄釉 | 灰釉（2.5Y4/6オリーブ褐色）流しかけ？　削り出し高台？ |
| | 113 | 12 | | | X4Y15 I 層 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | 13.2 | | | | ～17C前？ | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 錆釉 | 水指？　口縁外面櫛目波状文 |
| | 114 | | 1T | | 東から9.2m<br>地山直上 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | 12.2 | | | | 17C前～？ | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | 2.5YR2/3 | 極暗赤褐色 | 鉄釉 | 火入れ？ |
| | 115 | | 3T | | 東から21.8m<br>地山直上 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | 10.0 | | | | 17C前～？ | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 灰釉 | 火入れ？ |
| | 116 | | | SD38 | X16Y11 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | 11.5 | | | | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 5YR3/4 | 暗赤褐色 | 錆釉 | 断面煤付着　被熱？ |
| | 117 | | | SD38 | X16Y11 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | 14.0 | | | | ～17C前 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | 鉄釉 | 水指し？ |
| | 118 | 12 | | SD7 | X13Y15<br>№2 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | 14.9 | | | | ～17C前 | 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | | | | 無釉　口縁端部煤付着 |
| | 119 | | | SD39 | X18Y9 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | | | (13.6) | | ～17C前 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | 錆釉 | |
| | 120 | 12 | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | | | 12.0 | | ～17C前 | 2.5Y8/3 | 淡黄色 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 鉄釉 | 一部灰釉（10YR3/1黒褐色　自然釉？）見込み無釉　底部回転糸切痕　底部外面煤付着 |
| | 121 | | | SD2 | X2～3Y10 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | | | 6.2 | | ～17C前 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | | | | 底部回転糸切痕　無釉 |
| | 122 | | | SD2 | X13～14Y9・<br>X15Y9 | 越中瀬戸 | 匣鉢 | | | (11.0) | | ～17C前 | 2.5Y8/3 | 淡黄色 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | 錆釉 | |
| | 123 | 12 | | SD2東肩 | X13～14Y9 | 越中瀬戸 | 匣鉢？ | | | 12.4 | | ～17C前 | 2.5Y8/3 | 淡黄色 | 5YR2/3 | 極暗赤褐色 | 錆釉 | 底部回転糸切痕 |
| 30 | 124 | 13 | | SD2 | X15Y10 | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | 10.8 | | ～17C前 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | 錆釉 | 3.3cm幅13条1単位の卸目　右回り放射状に施文　見込み六角形に施文　底部外面指頭圧痕　底部回転糸切痕　底部外面煤付着 |
| | 125 | 13 | | SD2 | X9Y9 | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | 11.4 | | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 錆釉 | 2.7cm幅10条1単位の卸目　左回りの施文？　底部外面煤付着　底部回転糸切痕 |
| | 126 | 13 | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | (11.0) | | ～17C前 | 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 錆釉 | 3.5cm幅13条1単位の卸目 |
| | 127 | 13 | | SE78 | | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | 10.6 | | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 5YR5/2 | 灰褐色 | 錆釉 | 2.5cm幅10条1単位の卸目　右回り放射状に施文　内面重焼き痕　底部外面指頭圧痕　底部回転糸切痕　内面～断面煤付着 |
| | 128 | 13 | | SD6 | X5Y14 | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | 11.0 | | ～17C前 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | 錆釉 | 2.5cm幅9条1単位の卸目　右回り放射状に施文　底部回転糸切痕　外面・断面煤付着　被熱か |
| | 129 | 13 | | SD7 | X7Y15 | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | | | ～17C前 | 7.5YR8/3 | 浅黄橙色 | 7.5YR5/2 | 灰褐色 | 錆釉 | 2.9cm幅10条1単位の卸目 |
| | 130 | 13 | | SD6 | X6Y14 | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | 9.8 | | ～17C前 | 10YR7/2 | にぶい黄橙色 | 5YR3/3 | 暗赤褐色 | 錆釉 | 2.8cm幅13条1単位の卸目　右回り放射状に施文　底部回転糸切痕 |
| | 131 | 13 | 1T | | 東から15.8m | 越中瀬戸 | 擂鉢 | | | | | 17C前～ | 5YR7/6 | 橙色 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色 | 錆釉 | SD2出土か？　2.3cm幅13条1単位の卸目 |
| 31 | 132 | 12 | | SD2 | X12Y8～9・<br>X13～14Y9 | 越中瀬戸 | 壺 | 16.0 | | | | ～17C前 | 10YR7/4 | にぶい黄橙色 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | 錆釉 | |
| | 133 | | | SD2 | X2～3Y10 | 越中瀬戸 | 壺 | 12.2 | | | | ～17C前 | 2.5Y7/1 | 灰白色 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 鉄釉 | |
| | 134 | 12 | | SD39 | X16Y9 | 越中瀬戸 | 壺 | 17.6 | | | | ～17C前 | 10YR7/1 | 灰白色 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 鉄釉 | 灰釉（10YR2/1黒色）部分的 |
| | 135 | 12 | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | 壺 | 14.0 | | | | ～17C前 | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | 5YR5/4 | にぶい赤褐色 | 錆釉 | 口縁外面煤付着 |
| | 136 | | | SX79 | X17Y6～7 | 越中瀬戸 | 壺 | 12.6 | | | | ～17C前 | 10YR7/1 | 灰白色 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 鉄釉 | 灰釉（7.5YR3/1黒褐色）流しかけ？ |
| | 137 | 13 | | SD2東肩 | X13～14Y9・<br>X15Y13 I 層 | 越中瀬戸？ | 蓋？ | 15.1 | | | | ～17C前？ | 10YR7/3 | にぶい黄橙色 | | | | 外面煤付着 |

## 第13表　水橋池田舘遺跡土器・陶磁器一覧（4）

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | | 時期 | 胎土色調 | | 釉色調 | | 釉薬 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | 口径 | 器高 | 底径 | 高台径 | | 記号 | 色名 | 記号 | 釉色 | | |
| 31 | 138 | 13 | | SD103 | X18Y2 | 唐津 | 皿 | 9.9 | 3.4 | | 3.6 | | 7.5YR6/4 | にぶい橙色 | 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 灰釉 | 見込み胎土目2ヶ所削り出し高台 |
| | 139 | 13 | | SD1 | X6Y7 | 近世陶器 | 皿 | 8.6 | | | | | 10YR8/3 | 浅黄橙色 | 5Y8/1 | 灰白色 | 長石釉？ | 小杯？　体部面取り　軟質 |
| | 140 | 13 | | | X4Y15Ⅰ層 | 唐津 | 椀 | 8.2 | | | | ～17C前 | 10YR6/3 | にぶい黄橙色 | 2.5Y6/2 | 灰黄色 | 灰釉 | 小椀 |
| | 141 | 13 | | SD7 | X10Y15 | 唐津 | 椀 | | | | 5.0 | | 10Y6/2 | 灰黄褐色 | 5Y6/2 | 灰オリーブ色 | 灰釉 | 削り出し高台 |
| | 142 | 13 | | SD2 | X12Y8～9 | 唐津 | 椀 | | | | 5.0 | | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 10Y8/1 | 灰白色 | 長石釉？ | 削り出し高台 |
| | 143 | 13 | | | X5Y13Ⅰ層 | 伊万里 | 椀 | 8.0 | | | | 18C前～ | 7.5Y8/1 | 灰白色 | | | | 筒型湯飲み椀　染付（2.5PB2/8くすんだ青色）　口縁内面四方襷文　外面唐草文？ |

## 第14表　水橋池田舘遺跡木製品一覧

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 台帳番号 | 種類 | 樹種 | 法量（cm） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | | 長 | 幅 | 厚 | |
| 31 | 144 | 14 | 43T | | | M180001 | 漆器椀 | ブナ属 | (12.4) | (12.2) | (3.5) | 高台径推定5.8cm　内外黒色漆　高台裏赤色漆書 |
| | 145 | 14 | | SE78 | | M180002 | 漆器椀 | ブナ属 | (6.5) | (3.0) | (0.5) | 口径推定14.4cm　内外黒色漆 |
| | 146 | 14 | | SE78 | | M180003 | 底板 | スギ | 24.2 | (11.9) | 0.7 | 円形板　穿孔３ヶ所　裏面炭化？ |
| | 147 | 14 | | SE78 | | M180005 | 棒状加工品 | ブナ属 | (14.5) | 1.6 | 0.8 | |
| | 148 | 14 | | SE78 | | M180006 | 箸 | ムクロジ | (6.2) | 0.8 | (0.6) | 両端欠損 |
| | 149 | 14 | | SE78 | | M180007 | 曲物 | ヒノキ | (7.8) | (2.3) | 0.1 | 小片　釘孔？ |
| 32 | 150 | | | SD2東肩 | X13～14Y9 | M180009 | 杭？ | | 70.3 | 2.4 | 2.4 | 2分割　腐食進む　護岸用の杭？SD2コーナー付近の集石付近出土 |
| | 151 | 14 | | SK100 | №1 | M180010 | 柱 | スギ | (46.7) | 11.4 | 14.0 | |
| | 152 | | | SK100 | №2 | M180011 | 柱 | | (64.8) | 17.2 | 17.1 | 腐食進む　表面トロトロ |
| | 153 | 14 | | SE78 | | M180004 | 杭 | | 32.2 | 4.1 | 3.5 | 一部樹皮？残存 |
| | 154 | 14 | | SK101 | | M180008 | 柱 | | (30.3) | (7.1) | (6.3) | 両端欠損　腐食進む |

## 第15表　水橋池田舘遺跡石製品一覧

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 台帳番号 | 種類 | 石材 | 法量（cm・g） | | | | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 33 | 155 | 14 | | SE82 | | I180002 | 五輪塔（空風輪） | 角閃石安山岩 | 20.4 | 14.8 | 14.2 | 5400 | | 法量幅（空輪幅）・厚（風輪幅）　空輪一部摩滅した扁平な面あり |
| | 156 | 13 | | SD7 | X13Y15 | I180001 | 砥石 | 凝灰岩 | (6.6) | (6.3) | (3.0) | 144.03 | | 砥面２面 |

## 第16表　水橋池田舘遺跡金属製品一覧

| 挿図 | 遺物番号 | 写真 | 出土地点 | | | 台帳番号 | 種類 | 材質 | 法量（cm・g） | | | | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 地区 | 遺構 | 座標 | | | | 長 | 幅 | 厚 | 重 | | |
| 33 | 157 | 13 | | SD39西肩 | X16Y9 | K180001 | 銭 | 銅 | 2.3 | 2.3 | 0.1 | 1.97 | 1368年初鋳 | 洪武通寶　明銭 |
| | 158 | 13 | | SD39西肩 | X16Y9 | K180002 | 銭 | 銅 | (2.3) | (2.3) | 0.1 | 1.64 | 1078年初鋳 | 元豊通寶　北宋銭 |

# 第Ⅳ章　水橋池田舘Ⅱ遺跡

## 1　概　要

水橋池田舘Ⅱ遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、白岩川と屈曲する川原田川によって三方を囲まれている。あいの風鉄道水橋駅の東側に位置し、線路沿いに広がる。水路・道路工事部分を対象に調査を行い、調査地区は31の小区にわかれている。現況は水田･畑で、標高は2.5 ～ 3.2ｍを測り、ほぼ平坦な地形である。

調査地区全域で砂層が厚く堆積しており、旧河道または洪水氾濫原と考えられる。遺構は盛土下で畝状遺構と溝を確認したが、一部盛土を切り込んでおり現代のものとみられる。遺物は伊万里の小片１点のみである。

## 2　層　序

基本層序は、Ⅰ層：灰黄褐色砂質土・褐灰色砂質シルト（表土・耕作土）、Ⅱ層：砂混じりのオリーブ褐色砂質土、黄褐色砂質シルト、褐色砂質土、シルトブロック混じりの暗灰黄色砂質土（盛土）、Ⅲ層：にぶい黄褐色砂質シルト、褐灰色砂質シルト、灰色砂質シルト、黄灰色砂（洪水層）、Ⅳ層：灰オリーブ色粗砂、灰黄色粗砂（洪水層）、Ⅴ層：灰色粗砂、黄灰色砂質シルト（洪水層）、Ⅵ層：褐灰色粘土質シルト（湿地状）となる。

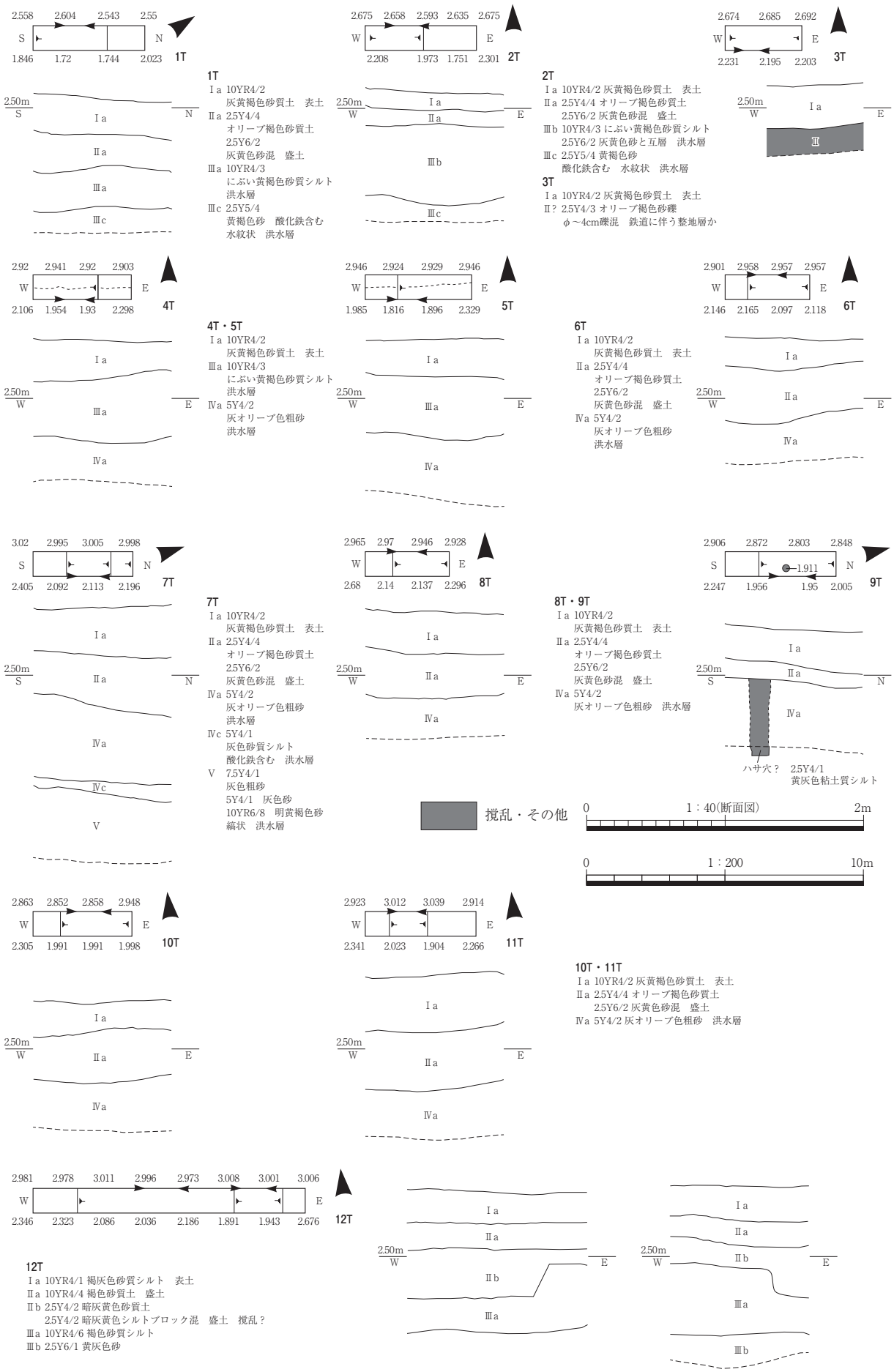
Ⅲ層は砂とシルトが縞状に入るものや、酸化鉄が水紋状のシミとなる砂質層で、調査地区全域で厚く堆積し、洪水や旧河道などのある程度水流のある環境下にあったと考えられる。遺跡の北側（線路北側）ではⅣ層の粗砂が西に向かい厚くなる。明治24(1891)年の改修以前の常願寺川と白岩川の合流地点付近にあたることから、調査地区一帯は常願寺川の旧河道または洪水氾濫原と考えられる。

**第17表　水橋池田舘Ⅱ遺跡基本層序**

| | | | T12～31 | | | T１～11 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | a | 表土 | 10YR4/1 | 褐灰色砂質シルト | | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質土 | |
| | b | | | | | | | |
| Ⅱ | a | 盛土 | 10YR4/4 | 褐色砂質土 | | 2.5Y4/4 | オリーブ褐色砂質土 | 2.5Y6/2灰黄色砂混 |
| | b | | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色砂質土 | シルトブロック混 | 2.5Y5/3 | 黄褐色砂質シルト | 酸化鉄多く含む |
| Ⅲ | a | 洪水層 | 10YR4/6 | 褐色砂質シルト | | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質シルト | |
| | b | | 5Y5/1 | 灰色砂質シルト | | 10YR4/3 | にぶい黄褐色砂質シルト | 2.5Y6/2灰黄色砂縞状 |
| | | | 2.5Y6/1 | 黄灰色砂 | | | | |
| | c | | 2.5Y5/3 | 黄褐色砂質シルト | 酸化鉄水紋状 | 2.5Y5/4 | 黄褐色砂質シルト | 酸化鉄水紋状 |
| Ⅳ | a | 洪水層 | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粗砂 | 酸化鉄含む | 5Y4/2 | 灰オリーブ色粗砂 | |
| | b | | 2.5Y6/2 | 灰黄色粗砂 | | | | |
| | c | | | | | 5Y4/1 | 灰色砂質シルト | |
| Ⅴ | | 洪水層 | 2.5Y5/1 | 黄灰色砂質シルト | 2.5Y4/1黄灰色粗砂縞状酸化鉄多く含む | 7.2Y4/1 | 灰色粗砂 | 5Y4/1灰色砂・10YR6/8明黄褐色砂縞状 |
| Ⅵ | | 湿地状？ | 10YR4/1 | 褐灰色粘土質シルト | | | | |

**第18表　水橋池田舘Ⅱ遺跡調査地区一覧**

| No. | 規模（m） | | 面積（㎡） | 遺構 | | 遺物 | 現況ＧＬ（m） | 洪水層上面ＥＬ（m） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長 | 幅 | | 種類 | 時期 | | | | |
| 1 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | | | | 2.56 | 2.08 | |
| 2 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | | | | 2.65 | 2.43 | |
| 3 | 2.8 | 1.0 | 2.8 | カクラン | 現代 | | 2.68 | | 鉄道に伴う整地・盛土？カクラン上面EL 2.38m |
| 4 | 3.5 | 1.0 | 3.5 | | | | 2.92 | 2.69 | |
| 5 | 3.8 | 1.0 | 3.8 | | | | 2.94 | 2.68 | |
| 6 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | | | | 2.95 | 2.42 | |
| 7 | 3.5 | 1.0 | 3.5 | | | | 3.00 | 2.33 | |
| 8 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | | | | 2.95 | 2.39 | |
| 9 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | | | | 2.86 | 2.47 | |
| 10 | 3.7 | 1.0 | 3.7 | | | | 2.88 | 2.33 | |
| 11 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | | | | 2.97 | 2.28 | |
| 12 | 9.8 | 1.0 | 9.8 | カクラン | 現代 | | 2.99 | 2.61 | |
| 13 | 9.8 | 1.0 | 9.8 | 畝状遺構（畠） | 現代 | | 3.10 | 2.60 | |
| 14 | 6.2 | 1.0 | 6.2 | | | | 3.12 | 2.75 | |
| 15 | 6.0 | 1.0 | 6.0 | | | 伊万里 | 3.09 | 2.72 | |
| 16 | 5.5 | 1.0 | 5.5 | | | | 3.13 | 2.93 | |
| 17 | 6.0 | 1.0 | 6.0 | | | | 3.16 | 2.80 | |
| 18 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | | 3.11 | 2.68 | |
| 19 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | カクラン | 現代 | | 3.07 | 2.63 | |
| 20 | 5.4 | 1.0 | 5.4 | | | | 3.08 | 2.82 | |
| 21 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | | 3.07 | 2.63 | |
| 22 | 3.5 | 1.0 | 3.5 | | | | 3.10 | 2.87 | |
| 23 | 4.6 | 1.0 | 4.6 | | | | 3.19 | 2.97 | |
| 24 | 4.4 | 1.0 | 4.4 | 流路？カクラン | 現代 | | 3.16 | 2.93 | |
| 25 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | | | | 3.14 | 2.86 | |
| 26 | 3.9 | 1.0 | 3.9 | | | | 3.17 | 2.96 | |
| 27 | 4.4 | 1.0 | 4.4 | | | | 3.06 | 2.76 | |
| 28 | 5.5 | 1.0 | 5.5 | | | | 3.20 | 2.78 | |
| 29 | 2.4 | 1.0 | 2.4 | | | | 3.14 | 2.78 | |
| 30 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | | | | 3.20 | 2.83 | |
| 31 | 4.4 | 1.0 | 4.4 | | | | 3.26 | 2.86 | |




**1T**
Ⅰa 10YR4/2
灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱa 2.5Y4/4
オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/2
灰黄色砂混　盛土
Ⅲa 10YR4/3
にぶい黄褐色砂質シルト
洪水層
Ⅲc 2.5Y5/4
黄褐色砂　酸化鉄含む
水紋状　洪水層

**2T**
Ⅰa 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱa 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/2 灰黄色砂混　盛土
Ⅲb 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
2.5Y6/2 灰黄色砂と互層　洪水層
Ⅲc 2.5Y5/4 黄褐色砂
酸化鉄含む　水紋状　洪水層

**3T**
Ⅰa 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱ? 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂礫
φ～4cm礫混　鉄道に伴う整地層か

**4T・5T**
Ⅰa 10YR4/2
灰黄褐色砂質土　表土
Ⅲa 10YR4/3
にぶい黄褐色砂質シルト
洪水層
Ⅳa 5Y4/2
灰オリーブ色粗砂
洪水層

**6T**
Ⅰa 10YR4/2
灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱa 2.5Y4/4
オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/2
灰黄色砂混　盛土
Ⅳa 5Y4/2
灰オリーブ色粗砂
洪水層

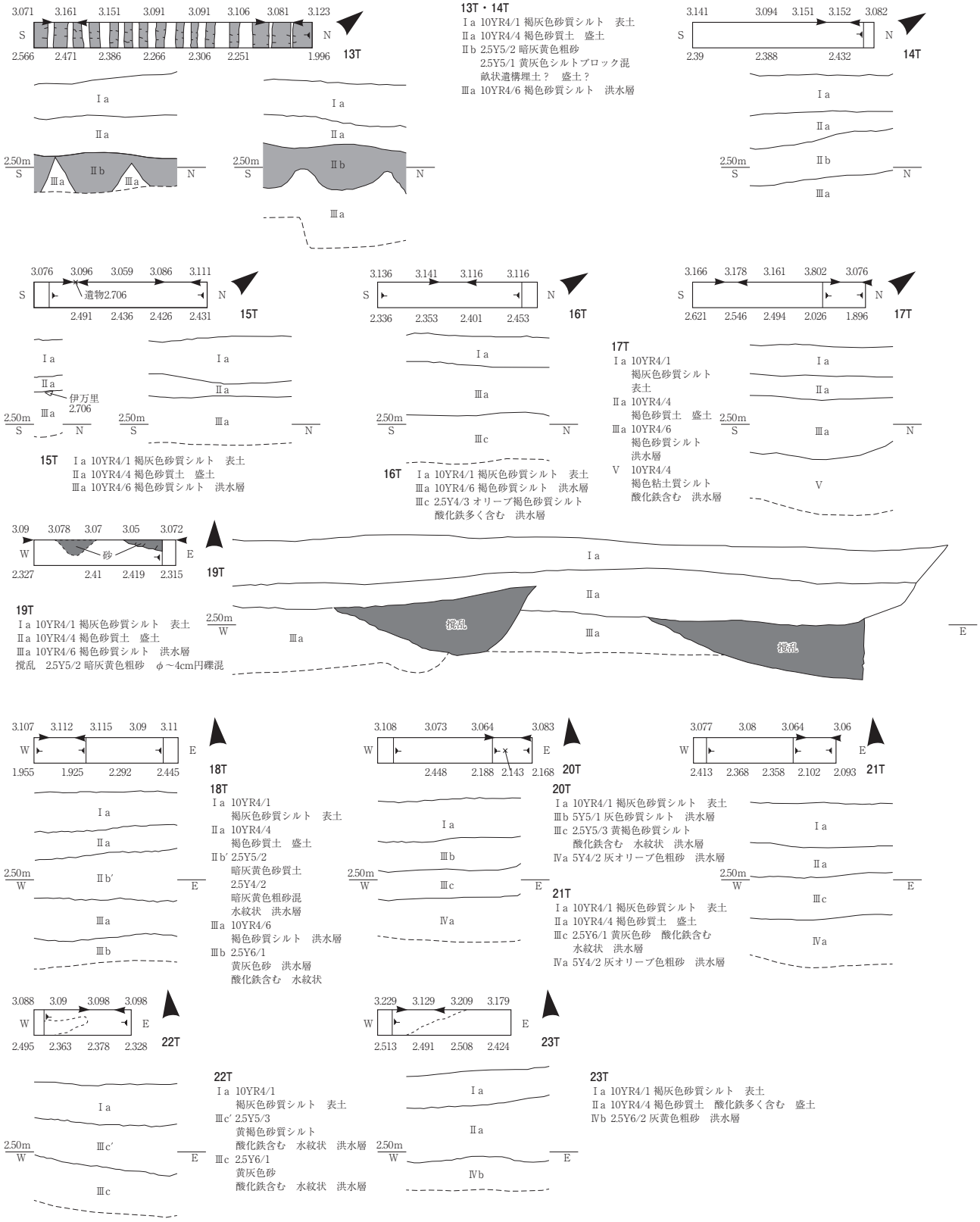
**7T**
Ⅰa 10YR4/2
灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱa 2.5Y4/4
オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/2
灰黄色砂混　盛土
Ⅳa 5Y4/2
灰オリーブ色粗砂
洪水層
Ⅳc 5Y4/1
灰色砂質シルト
酸化鉄含む　洪水層
Ⅴ 7.5Y4/1
灰色粗砂
5Y4/1　灰色砂
10YR6/8　明黄褐色砂
縞状　洪水層

**8T・9T**
Ⅰa 10YR4/2
灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱa 2.5Y4/4
オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/2
灰黄色砂混　盛土
Ⅳa 5Y4/2
灰オリーブ色粗砂　洪水層

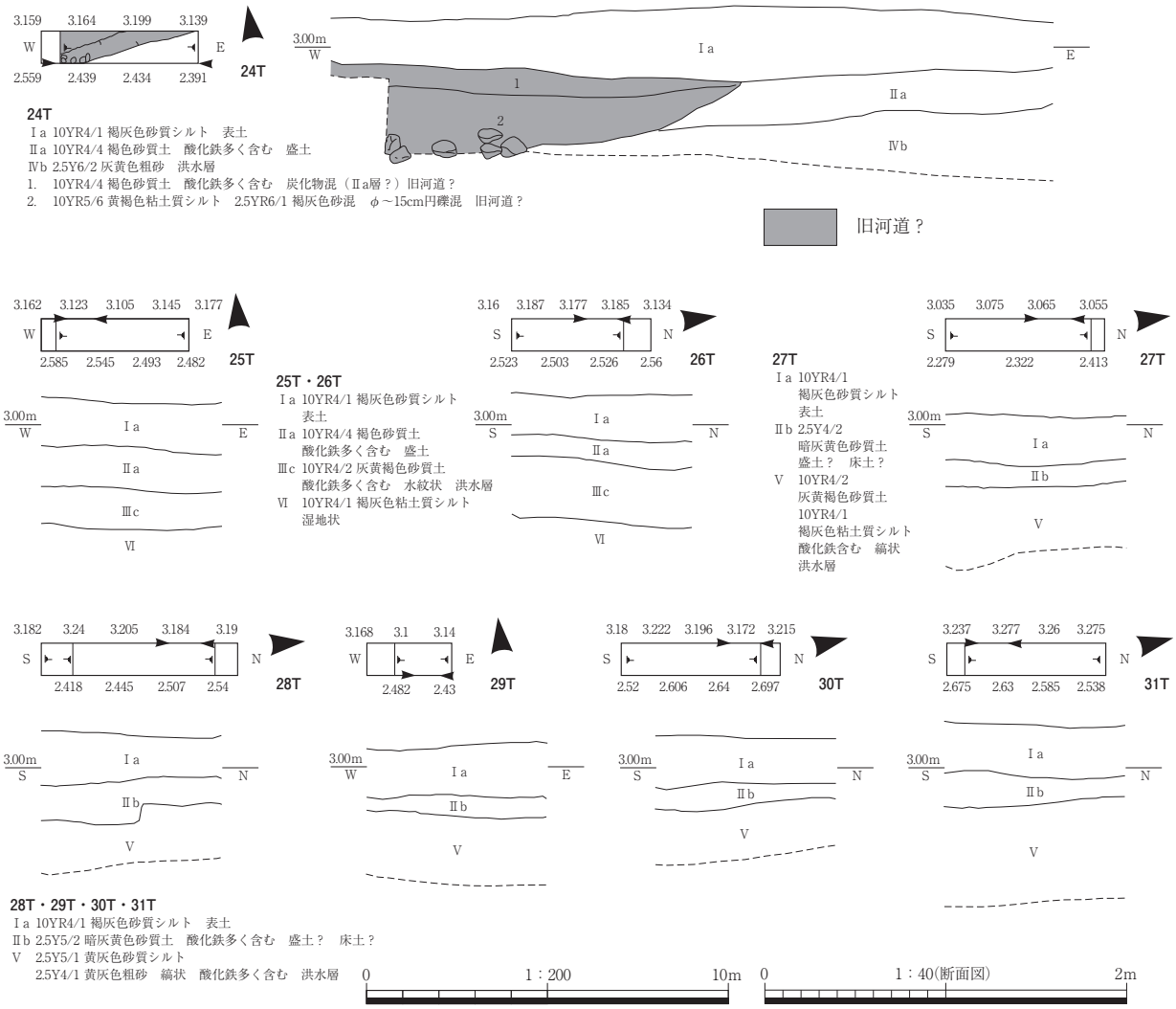
**10T・11T**
Ⅰa 10YR4/2 灰黄褐色砂質土　表土
Ⅱa 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土
2.5Y6/2 灰黄色砂混　盛土
Ⅳa 5Y4/2 灰オリーブ色粗砂　洪水層

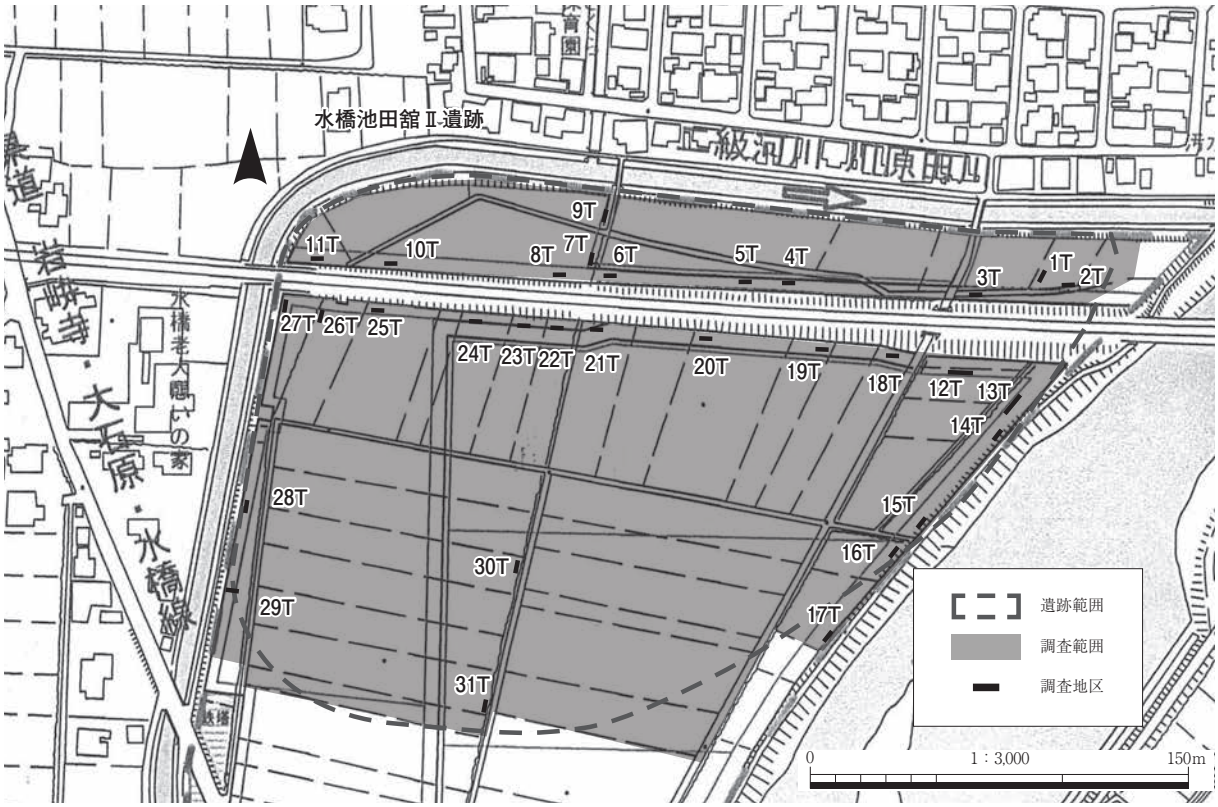
**12T**
Ⅰa 10YR4/1 褐灰色砂質シルト　表土
Ⅱa 10YR4/4 褐色砂質土　盛土
Ⅱb 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
2.5Y4/2 暗灰黄色シルトブロック混　盛土　撹乱？
Ⅲa 10YR4/6 褐色砂質シルト
Ⅲb 2.5Y6/1 黄灰色砂

**第34図　水橋池田舘Ⅱ遺跡　遺構実測図**
1～12地区




**第35図　水橋池田舘Ⅱ遺跡　遺構実測図**
13～23地区




**第36図　水橋池田舘Ⅱ遺跡　遺構実測図・調査地区位置図**
24～31地区

# 第Ⅴ章　水橋中村遺跡

## 1　概　要

水橋中村遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置し、水橋池田舘遺跡の西方300mの田園地帯にある。水路・道路工事部分を対象に調査を行い、調査地区は12の小区にわかれている。現況は水田で、標高は4.23～4.46mを測る。

調査地区全域で遺構・遺物は確認できなかった。調査地区南側は砂層が薄く、植物遺体を含む黒色粘土質シルト層が厚く堆積し、旧河道・湿地などの水位の高い状態であったと考えられる。

## 2　層　序

基本層序は、Ⅰ層:暗褐色砂質シルト、灰黄褐色砂質土（表土･耕作土)、Ⅱ層:暗褐色砂質土～砂（盛土)、Ⅲ層：灰色砂質シルト、褐色粗砂（洪水層)、Ⅳ層：オリーブ黒色粘土質シルト、黄灰色粘土質シルト（湿地状)、Ⅴ層：灰色砂質シルト（湿地状）となる。

Ⅲ層は黄灰色粗砂が縞状に入るものや、酸化鉄が水紋状のシミとなる砂質層で、調査地区北側で確認できるが、６地区以南では薄くなる。Ⅳ層は植物遺体を含む粘土質シルト層で、調査地区一帯は湿地状の地形が広がっていたと考えられる。

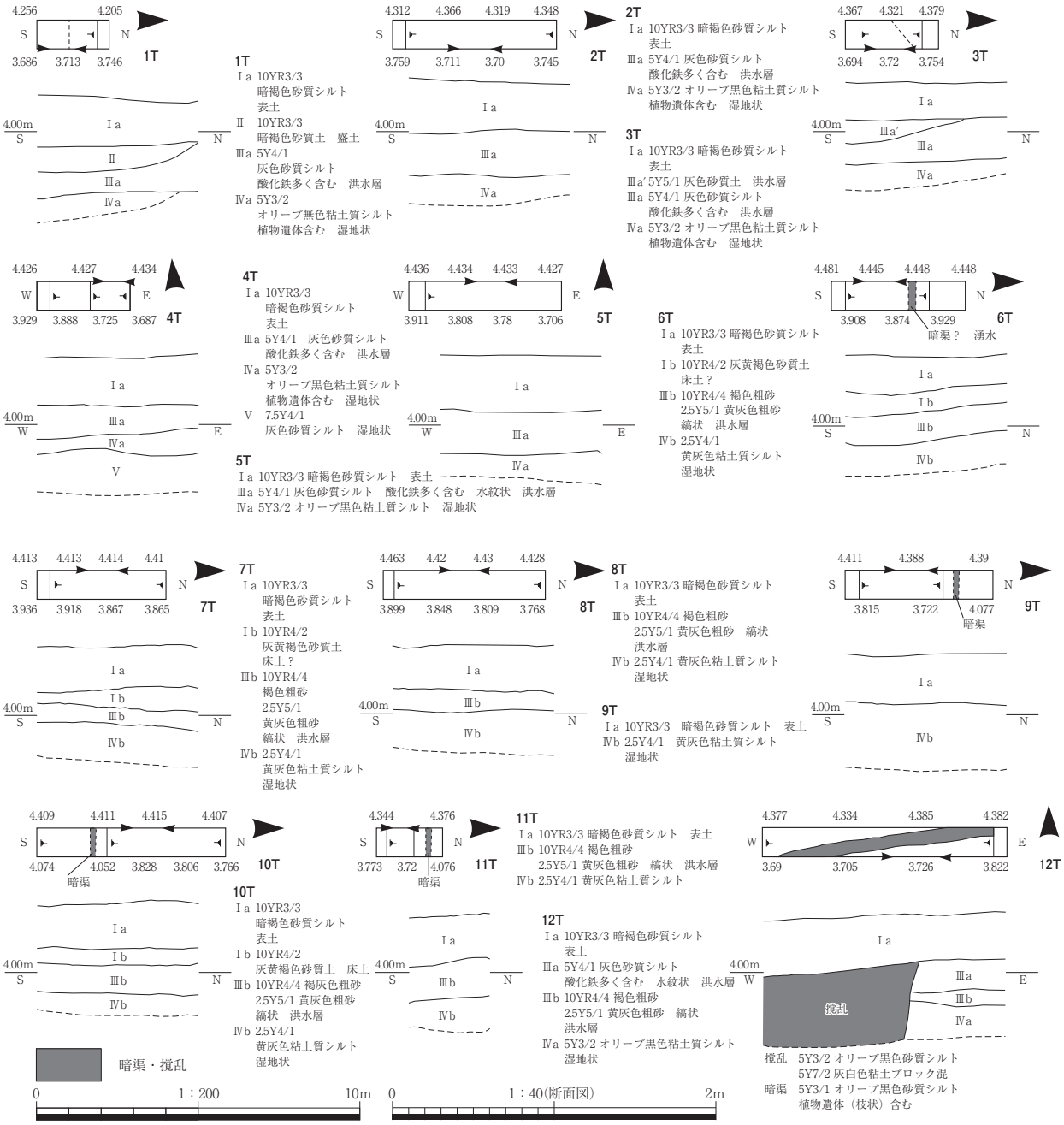
**第19表　水橋中村遺跡基本層序**

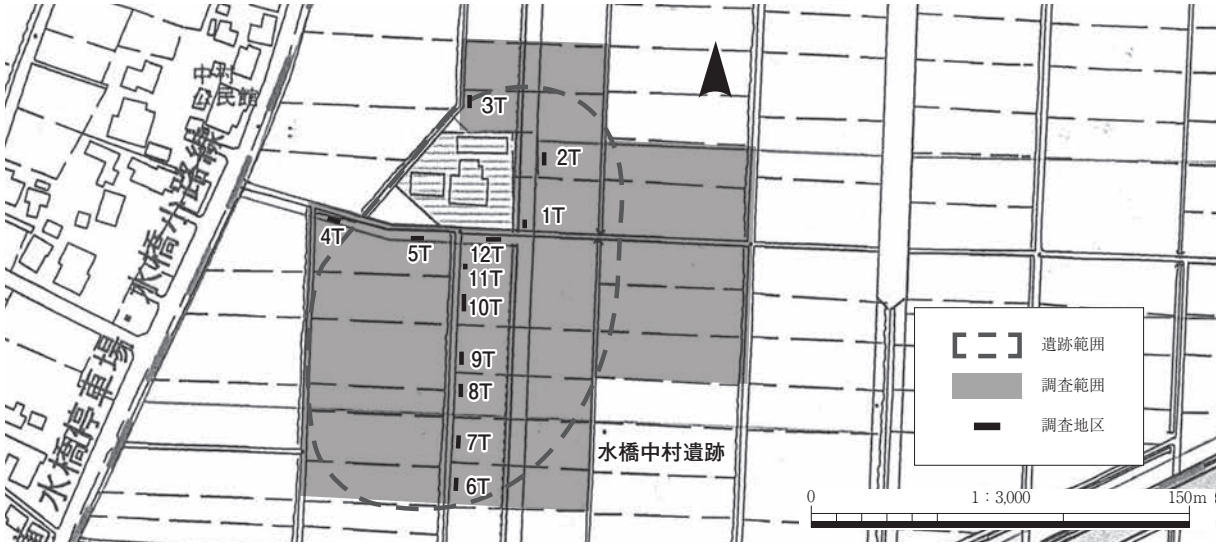
| | | | 記号 | 土質 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | a | 表土 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質シルト | |
| | b | | 10YR4/2 | 灰黄褐色砂質土 | 床土？ |
| Ⅱ | a | 盛土 | 10YR3/3 | 暗褐色砂質土～砂 | |
| Ⅲ | a | 洪水層 | 5Y4/1 | 灰色砂質シルト | 北側　酸化鉄多く含む |
| | b | | 10YR4/4 | 褐色粗砂 | 南側　2.5Y5/1粗砂縞状 |
| Ⅳ | a | 湿地状 | 5Y3/2 | オリーブ黒色粘土質シルト | 植物遺体含む |
| | b | | 2.5Y4/1 | 黄灰色粘土質シルト | |
| Ⅴ | | 湿地状 | 7.5Y4/1 | 灰色砂質シルト | |

**第20表　水橋中村遺跡調査地区一覧**

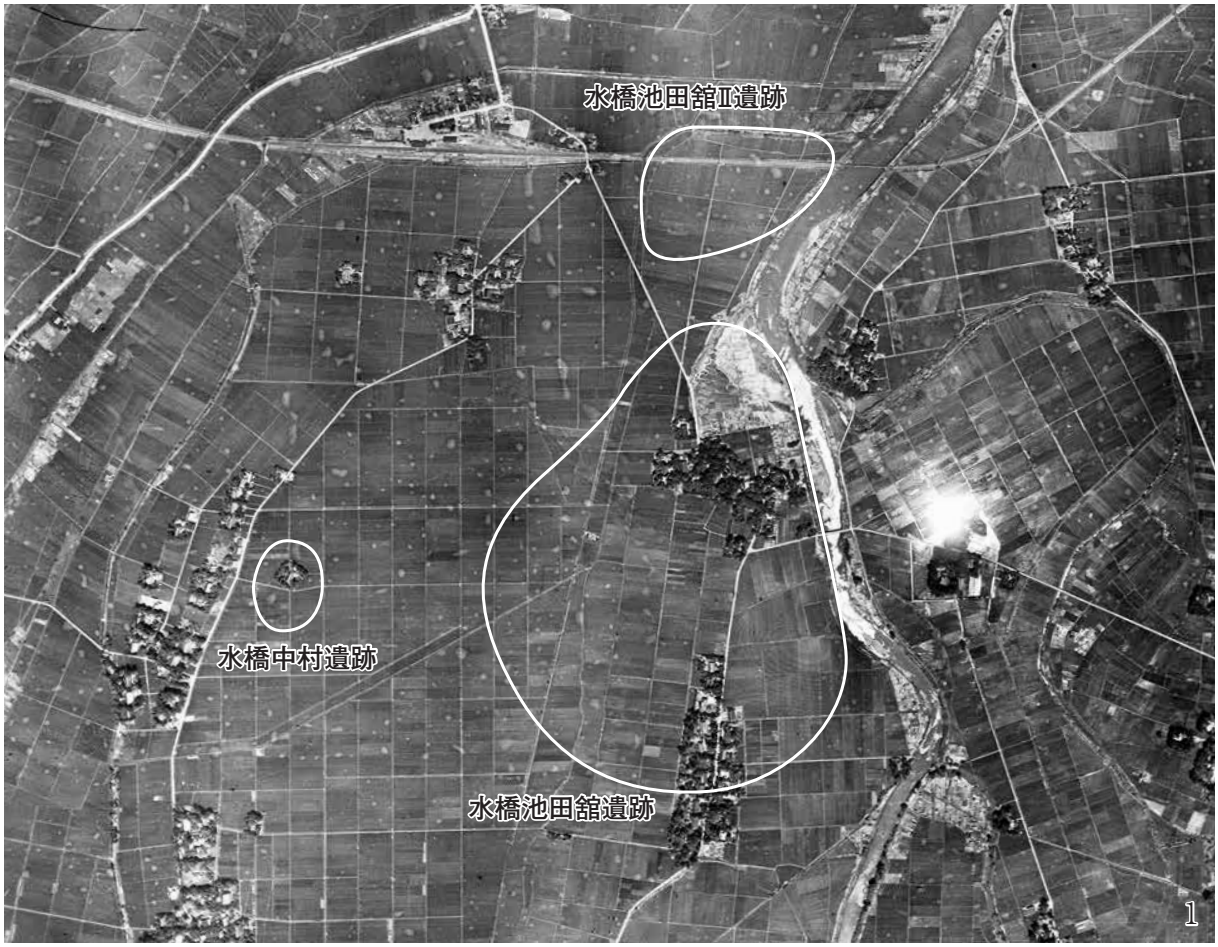
| No. | 規模（m） | | 面積（㎡） | 遺構 | | 遺物 | 現況ＧＬ（m） | 洪水層上面ＥＬ（m） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長 | 幅 | | 種類 | 時期 | | | | |
| 1 | 2.2 | 1.0 | 2.2 | | | | 4.23 | 3.99 | 砂層下湿地状 |
| 2 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | | 4.34 | 4.04 | 砂層下湿地状 |
| 3 | 2.8 | 1.0 | 2.8 | | | | 4.36 | 4.15 | 砂層下湿地状 |
| 4 | 3.0 | 1.0 | 3.0 | | | | 4.43 | 4.16 | 砂層下湿地状 |
| 5 | 4.6 | 1.0 | 4.6 | | | | 4.43 | 4.13 | 砂層下湿地状 |
| 6 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | 暗渠 | 現代 | | 4.46 | 4.14 | 砂層下湿地状 |
| 7 | 4.0 | 1.0 | 4.0 | | | | 4.41 | ※ 4.05 | 湿地状 |
| 8 | 5.0 | 1.0 | 5.0 | | | | 4.44 | ※ 4.15 | 湿地状 |
| 9 | 4.5 | 1.0 | 4.5 | 暗渠 | 現代 | | 4.40 | ※ 4.10 | 湿地状 |
| 10 | 6.0 | 1.0 | 6.0 | 暗渠 | 現代 | | 4.41 | ※ 4.12 | 湿地状 |
| 11 | 2.0 | 1.0 | 2.0 | 暗渠 | 現代 | | 4.36 | ※ 4.08 | 湿地状 |
| 12 | 7.5 | 1.0 | 7.5 | カクラン・暗渠 | 現代 | 近世磁器 | 4.37 | 4.11 | 砂層下湿地状 |

※７～11Ｔ：粘質土層上面ＥＬ（湿地状堆積物）




**第37図　水橋中村遺跡　遺構実測図・調査地区位置図**
1～12地区



**航空写真**

1．1946年　米軍撮影　2．2007年　国土地理院撮影

図版2

**水橋池田舘遺跡**

1．遺跡遠景（南西から）　2．面調査地区（真上から）

**水橋池田舘遺跡**

1．面調査地区全景（西から）　2．ＳＤ１・２（西から）　3．ＳＤ１・２（南から）
4．ＳＤ１（北から）　5．ＳＤ２（北から）

図版4

**水橋池田舘遺跡**

１．面調査地区全景（北東から）　２．ＳＤ３（北から）　３．ＳＤ７･21（南から）　４．ＳＤ７遺物出土状況（南から）
５．ＳＤ39遺物出土状況（東から）　６．ＳＤ103（南から）　７．ＳＸ79（南から）　８．ＳＸ79（西から）

**水橋池田舘遺跡**

１・２　ＳＥ53（西から）　３・４　ＳＥ78（東から）　５・６　ＳＥ82（東から）
７．ＳＥ82遺物出土状況（東から）　８．ＳＥ25（東から）

図版6

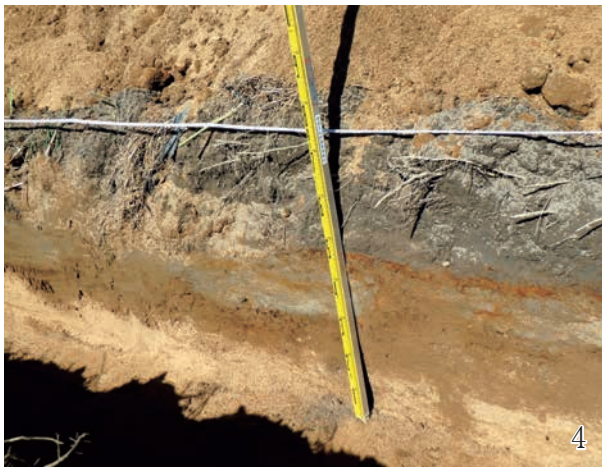
**水橋池田舘遺跡**

1．ＳＫ11（南から）　2．ＳＫ11・ＳＸ24（南東から）　3・4　ＳＫ12（東から）
5．ＳＫ93遺物出土状況　6．ＳＫ98（西から）　7．ＳＫ100（南から）　8．ＳＫ100断割（南から）

**水橋池田舘遺跡**

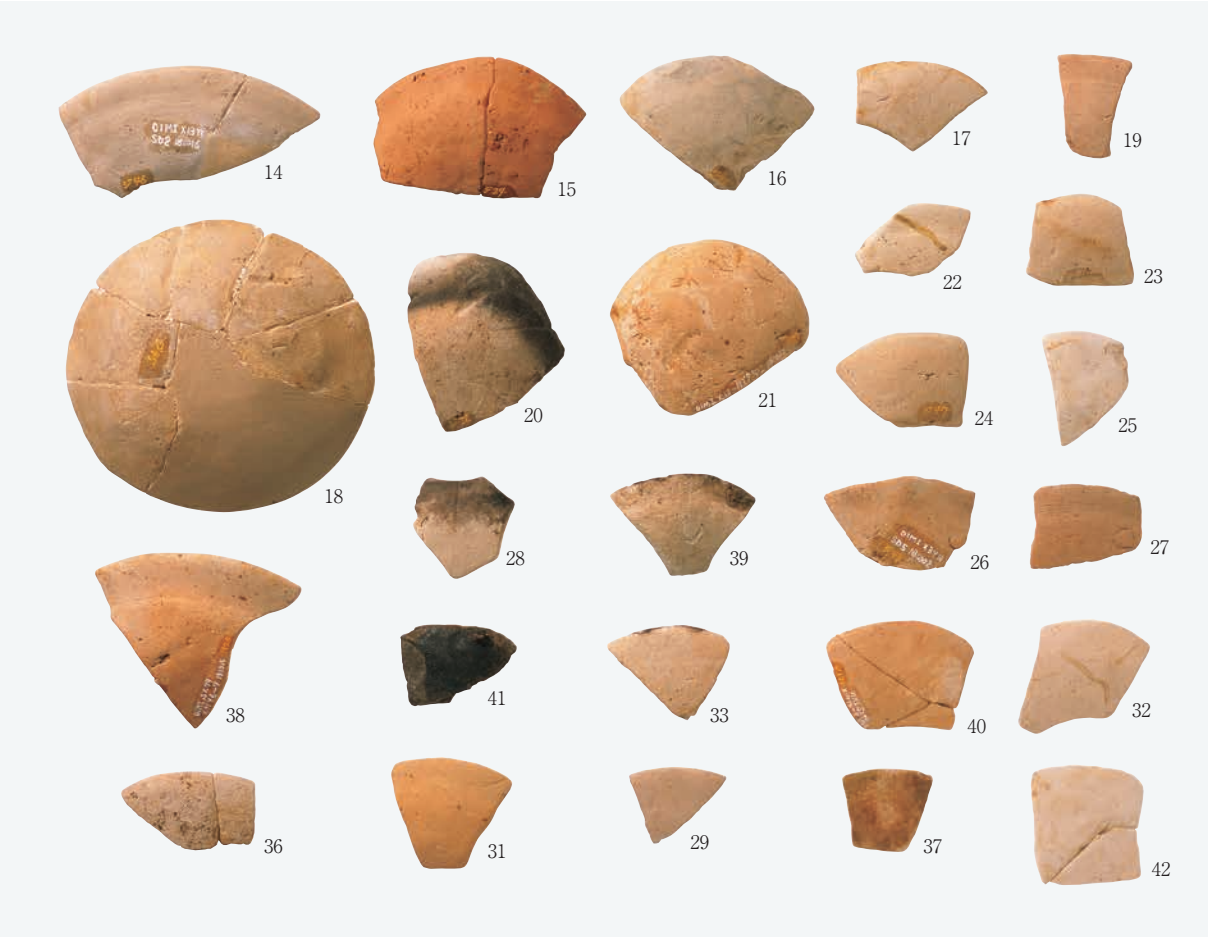
１．38地区ＳＫ（南から）　２．58地区ＳＤ２（西から）　３．59地区ＳＤ１（北西から）　４．71地区ＳＫ（東から）
５．81地区ＳＫ（西から）　６．85地区ＳＫ（南から）　７．91地区北壁（南から）　８．100地区東壁（西から）

図版8



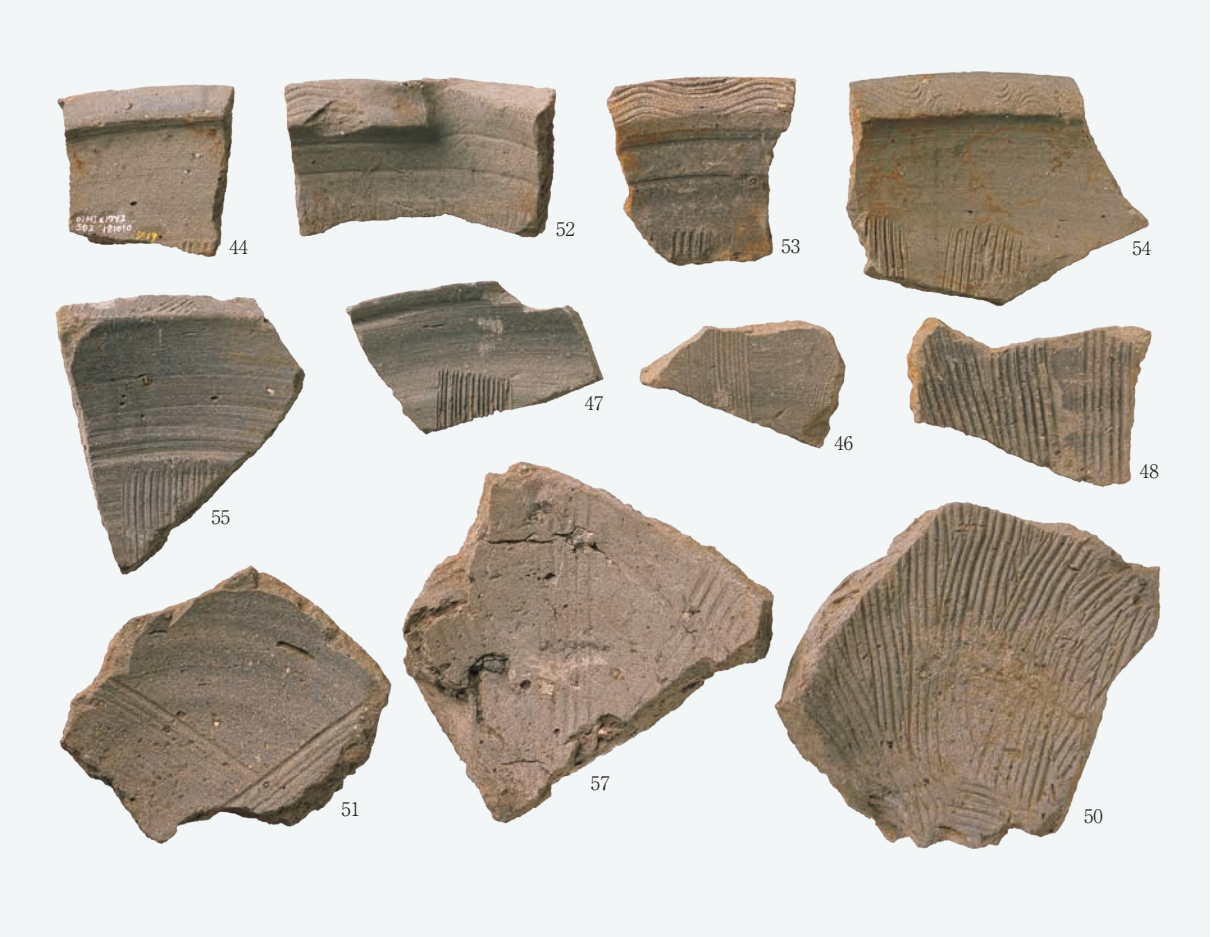
**水橋池田舘遺跡**

1．112地区着手前（東から）　2．113地区西壁（東から）　3．113地区全景（北から）　4．115地区北壁（南から）
5．123地区北壁（南から）　6．125地区遺物出土状況（西から）　7．127地区着手前（南から）
8．130地区全景（南から）



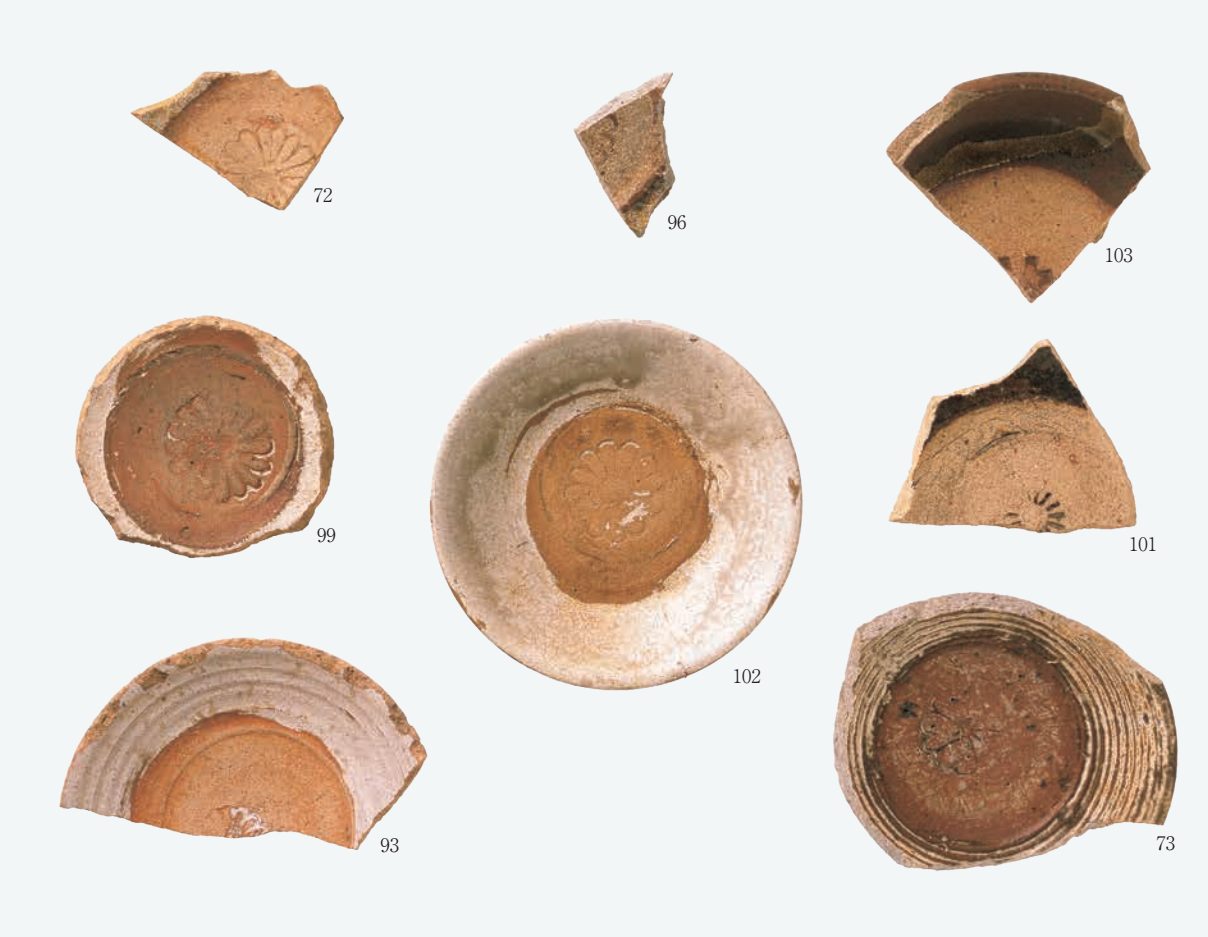

**水橋池田舘遺跡**

ＳＤ１（12）　ＳＤ２（３・６・13～23）　ＳＤ４（１・24）　ＳＤ５（10・26）　ＳＤ６（25）　ＳＤ７（27・28）
ＳＤ９（31・32）　ＳＫ11（９）　ＳＸ24（41・42）　ＳＤ39（36）　ＳＥ78（29）　ＳＸ79（11・38～40）
ＳＥ94（33）　42地区（２）　43地区（４）　71地区（５）



**水橋池田舘遺跡**

ＳＤ２（44・50・68・70・71）　ＳＤ７（46・69）　ＳＸ24（52・63）　ＳＥ25（64）
ＳＤ38（66）　ＳＥ65（58）　ＳＸ79（47・48・53・54）　ＳＫ93（51）

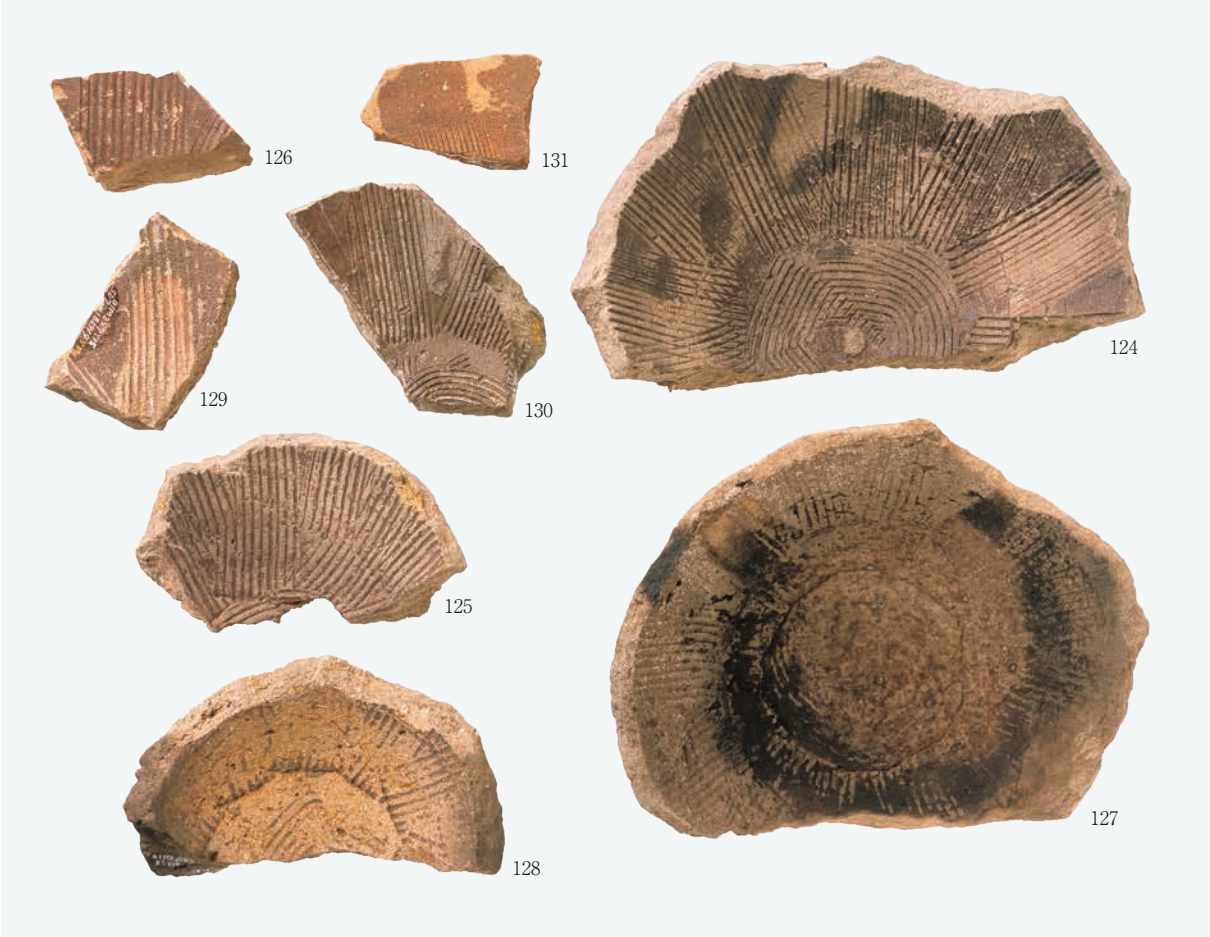


**水橋池田舘遺跡**

ＳＤ１（72）　ＳＤ２（73・90～92）　ＳＤ６（93）　ＳＤ38（99・101・103）　ＳＥ65（100）
ＳＥ78（102）　ＳＸ79（95・96）

**水橋池田舘遺跡**

ＳＤ２（77・78・80～82・123・132）　ＳＤ３（74）　ＳＤ６（108）　ＳＤ７（84～86・118）
ＳＤ39（97・134）　ＳＸ79（135）　ＳＤ103（107）



**水橋池田舘遺跡**

ＳＤ１（139）　ＳＤ２（124・125・131・137・142）　ＳＤ６（128・130）　ＳＤ７（129・141・156）
ＳＤ39（157・158）　ＳＥ78（127）　ＳＸ79（126）　ＳＤ102（138）

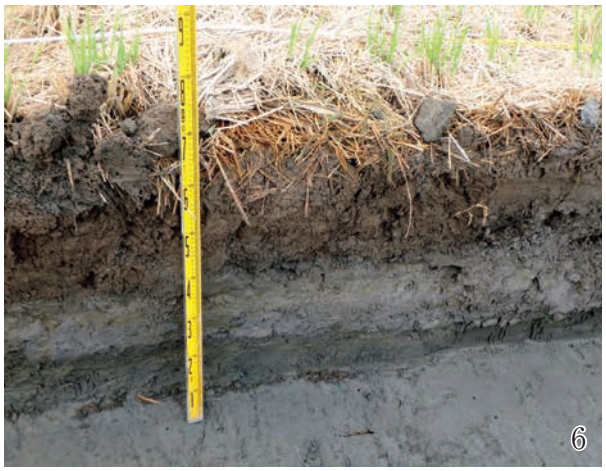
**水橋池田舘遺跡**

ＳＥ78（145～149・153）　ＳＥ82（155）　ＳＫ100（151）　ＳＫ101（154）　43地区（144）

**水橋池田舘Ⅱ遺跡**

1．遺跡遠景（南東から）　2．２地区全景（西から）　3．４地区南壁（北から）
4．13地区畝状遺構検出状況（東から）　5．19地区北壁（南から）

図版16



**水橋中村遺跡**

１．２地区全景（南から）　２．４地区着手前（西から）　３．８地区人力掘削（北から）　４．９地区全景（北から）
５．10地区着手前（北から）　６．10地区西壁（東から）　７．12地区南壁（北から）　８．12地区全景（東から）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | みずはしいけだたちいせき・みずはしいけだたちにいせき・みずはしなかむらいせき<br>はっくつちょうさほうこく |
| 書名 | 水橋池田舘遺跡・水橋池田舘Ⅱ遺跡・水橋中村遺跡遺跡発掘調査報告 |
| 副書名 | 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う埋蔵文化財発掘報告 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 |
| シリーズ番号 | 第77集 |
| 編著者名 | 金三津道子 |
| 編集機関 | 公益財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査課 |
| 所在地 | 〒930-0887　富山県富山市五福4384番１号　TEL 076-442-4229 |
| 発行年月日 | 西暦2020年３月19日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな所在地 | コード | | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| みずはしいけだたちいせき<br>水橋池田舘遺跡 | とやまし<br>富山市<br>みずはしいけだまち<br>水橋池田町 | 16201 | 201052 | 36度<br>44分<br>12秒 | 137度<br>18分<br>14秒 | 20180806～20181102<br>20191001～20191024 | 1470.6<br>98.7 | 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う事前調査 |
| みずはしいけだたちにいせき<br>水橋池田舘Ⅱ遺跡 | とやまし<br>富山市<br>みずはしいけだたち<br>水橋池田舘 | 16201 | 201049 | 36度<br>44分<br>34秒 | 137度<br>18分<br>17秒 | 20191001～20191024 | 144.6 | |
| みずはしなかむらいせき<br>水橋中村遺跡 | とやまし<br>富山市<br>みずはしなかむら<br>水橋中村 | 16201 | 201051 | 36度<br>44分<br>12秒 | 137度<br>17分<br>44秒 | 20191001～20191024 | 50.6 | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 水橋池田舘遺跡 | 集落 | 中世～近世 | 井戸　14基<br>土坑　95基<br>溝　26条<br>堀　2条 | 弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、越中瀬戸、唐津、伊万里、近世陶器、木製品、石製品、金属製品 | 方形の屋敷地を二重に囲む堀を確認した。 |
| 水橋池田舘Ⅱ遺跡 | 散布地 | ～現代 | 畝状遺構 | 伊万里 | |
| 水橋中村遺跡 | 散布地 | | | | |


要約

遺跡は、常願寺川と白岩川に挟まれた低地部に位置する。

水橋池田舘遺跡は、水橋池田舘の現集落を中心とした遺跡東側一帯の自然堤防状の微高地に中世末から近世の集落が営まれている。方形の屋敷地を二重に囲う堀を検出しており、１辺50m前後になると想定できる。集落の位置する微高地の東側・北側では、縞状・水紋のある砂層が広がり旧河道・洪水氾濫原、西側・南側は砂層の下にピート状の粘土層が厚く堆積しており、旧河道及び湿地状の地形とみられる。

水橋池田舘Ⅱ遺跡は、水橋池田舘遺跡の北方200mにあり、白岩川と川原田川に三方を囲まれている。明治24(1891)年にはじまる大改修以前の常願寺川と白岩川の合流地点付近にあたる。調査地区内では全域で砂層が厚く堆積しており、旧河道または洪水氾濫原であったことが窺える。

水橋中村遺跡は、水橋池田舘遺跡の西方300mに位置している。遺構・遺物は確認できず薄い砂層の下に植物遺体を含む粘土層が厚く堆積しており、湿地状の地形と考えられる。

2020（令和２）年３月４日　印刷
2020（令和２）年３月19日　発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第77集

# 水橋池田舘遺跡
# 水橋池田舘Ⅱ遺跡　発掘調査報告
# 水橋中村遺跡

― 県営農地整備事業水橋三郷北地区に伴う埋蔵文化財発掘報告 ―

編集・発行　公益財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査課
〒930-0887 富山市五福４３８４番１号
ＴＥＬ　０７６－４４２－４２２９

印　　刷　株式会社チューエツ
〒930-0057 富山市上本町3-16 上本町ビル
ＴＥＬ　０７６－４９５－１３００